



P4P800-E
Deluxe

ユーザーガイド

Motherboard

J1526

第一版 V1

2004年2月

Copyright© 2004 ASUSTeK COMPUTER INC. All Rights Reserved.

購入者がバックアップの目的で利用する場合を除き、本書中に示されるハードウェア・ソフトウェアを含む、本マニュアルのいかなる部分も、ASUSTeK COMPUTER INC. (ASUS)の文書による明示的な許諾なく、再構成したり、転載・引用・放送・複写、検索システムへの登録、他言語への翻訳などを行うことはできません。

以下の場合、製品の保証やサービスを受けることができません：(1)ASUSが明記していない方法で、修理、改造、交換した場合。(2)製品のシリアル番号が傷つけられていたり、失われていた場合。

ASUSは、明示および暗示を問わず、いかなる保証もなく現状のものとして本書を提供します。ただし、市場の状況や特定の目的のための変更を除きます。ASUSの責任者、従業員、代理人は、本書の記述や本製品から生じるいかなる間接的、直接的、偶発的、二次的な損害（利益の損失、ビジネスチャンスの遺失、データの損失、業務の中断などを含む）に対して、その可能性を事前に指摘したかどうかに関りなく、責任を負うことはありません。

本書の仕様や情報は、個人の使用目的のためにのみ供給されます。予告なしに内容が変更されることがあります。しかし、この変更はASUSの義務ではありません。本書およびハードウェア、ソフトウェアの間違い・不正確さについて、ASUSは対応義務も責任もありません。

本書中の製品名や企業名は登録商標や著作物の場合があります。本書では、識別、説明、およびユーザーの便宜をはかる目的にのみ使用しており、権利を侵害する目的はありません。

もくじ

ご注意	vii
安全上の注意	viii
本ガイドについて	ix
本ガイドの構成	ix
詳細情報	ix
本ガイドの表記について	x
書体	x
P4P800-E Deluxe仕様のまとめ	xi
第 1 章: はじめに	
1.1 ようこそ!	1-1
1.2 梱包の内容	1-1
1.3 特殊機能	1-2
1.3.1 製品のハイライト	1-2
1.3.2 独特なASUS機能	1-4
第 2 章: ハードウェアセットアップ	
2.1 続行する前に	2-1
2.2 マザーボードの概要	2-2
2.2.1 配置方向	2-2
2.2.2 ネジ穴	2-2
2.2.3 マザーボードのレイアウト	2-3
2.2.4 レイアウトの内容	2-4
2.3 中央処理装置(CPU)	2-6
2.3.1 概要	2-6
2.3.2 CPUを取り付ける	2-7
2.3.3 ヒートシンクとファンを取り付ける	2-9
2.3.4 CPUファンケーブルを接続する	2-11
2.4 システムメモリ	2-12
2.4.1 概要	2-12
2.4.2 メモリ構成	2-12
2.4.3 DDR 推奨ベンダーリスト (QVL)	2-14
2.4.4 DIMMの取り付け	2-15
2.4.5 DIMMの取り外し	2-15
2.5 拡張スロット	2-16
2.5.1 拡張カードの取り付け	2-16
2.5.2 拡張カードの構成	2-16
2.5.3 割り込みの割り当て	2-17

もくじ

2.5.4	PCI スロット	2-18
2.5.5	AGP スロット	2-18
2.5.6	Wi-Fiスロット	2-19
2.6	ジャンパ.....	2-20
2.7	コネクタ.....	2-23
2.7.1	背面パネルコネクタ	2-23
2.7.2	内部コネクタ	2-25

第 3 章: 基本操作

3.1	初めて起動する	3-1
3.2	コンピュータの電源をオフにする	3-2
3.2.1	OSシャットダウン機能を使用する	3-2
3.2.2	デュアル機能電源スイッチを使用する	3-2
3.3	ASUS POST Reporter™	3-3
3.3.1	ボークアルPOSTメッセージ	3-3
3.3.2	Winbond Voice Editor	3-5

第 4 章: BIOSセットアップ

4.1	BIOSの管理と更新	4-1
4.1.1	起動可能なフロッピーディスクの作成.....	4-1
4.1.2	AFUDOSを使用してBIOSを更新する	4-2
4.1.3	AFUDOSを使用してPCからBIOSをコピーする	4-3
4.1.4	ASUS EZフラッシュを使用して、 BIOSを更新する	4-4
4.1.5	CrashFree BIOS 2でBIOSを回復する	4-5
4.1.6	ASUS Update (更新)	4-7
4.2	BIOSセットアッププログラム	4-9
4.2.1	BIOSメニュー画面	4-10
4.2.2	メニューバー	4-10
4.2.3	ナビゲーションキー	4-10
4.2.4	メニューアイテム	4-11
4.2.5	サブメニューアイテム	4-11
4.2.6	構成フィールド	4-11
4.2.7	ポップアップウィンドウ	4-11
4.2.8	スクロールバー	4-11
4.2.9	全般ヘルプ	4-11
4.3	メインメニュー	4-12

もくじ

4.3.1	System Time	4-12
4.3.2	System Date	4-12
4.3.3	Legacy Diskette A.....	4-12
4.3.4	Language	4-12
4.3.5	1次および2次IDE マスタ/スレーブ	4-13
4.3.6	IDE構成.....	4-14
4.3.7	システム情報.....	4-16
4.4	詳細メニュー	4-16
4.4.1	ジャンプフリー構成	4-17
4.4.2	CPU 構成.....	4-19
4.4.3	チップセット.....	4-20
4.4.4	オンボードデバイス構成	4-22
4.4.5	PCI PnP	4-24
4.4.6	USB 構成.....	4-25
4.4.7	スピーチ構成.....	4-27
4.4.8	インスタントミュージック構成	4-27
4.5	電源メニュー	4-28
4.5.1	Suspend Mode	4-28
4.5.2	Repost Video on S3 Resume	4-28
4.5.3	ACPI 2.0 Support	4-28
4.5.4	ACPI APIC Support.....	4-28
4.5.5	BIOS -> AML ACPI Table	4-28
4.5.6	APM 構成.....	4-29
4.5.7	ハードウェアモニタ	4-31
4.6	ブートメニュー	4-32
4.6.1	ブートデバイスのプライオリティ	4-33
4.6.2	ハードディスクドライブ	4-33
4.6.3	ブート設定構成	4-34
4.6.4	セキュリティ	4-35
4.7	メニューの終了.....	4-37
第 5 章: サポートソフトウェア		
5.1	OSのインストール	5-1
5.2	サポートCDについて	5-1
5.2.1	サポートCDの起動方法	5-1
5.2.2	ドライバメニュー	5-2
5.2.3	ユーティリティメニュー	5-3

もくじ

5.2.4	ASUS サポート情報	5-4
5.2.5	その他の情報	5-5
5.3	ソフトウェア情報	5-7
5.3.1	ASUS MyLogo2™	5-7
5.3.2	ASUS インスタントミュージック	5-9
5.4	AIネット機能	5-12
5.5	オーディオの構成	5-13
5.5.1	サウンドエフェクトオプション	5-13
5.5.2	S/PDIFオプション	5-14
5.5.3	スピーカー構成	5-15
5.5.4	AIオーディオ機能	5-16
5.5.5	HRTF Demo (HRTFデモ)	5-17
5.5.6	全般設定	5-18
5.5.7	背面パネルオーディオポート機能の バリエーション	5-18
5.6	Promise RAID の構成	5-19
5.6.1	ハードディスクの取り付け	5-20
5.6.2	MBFastBuild™ユーティリティに入る	5-21
5.6.3	RAID 0アレイの作成(性能)	5-22
5.6.4	RAID 1アレイの作成(セキュリティ)	5-23
5.6.5	その他の FastBuild ユーティリティコマンド	5-25
5.7	シリアル ATA 設定用 Intel® RAID	5-27
5.7.1	BIOS構成	5-27
5.7.2	シリアル ATA (SATA)ハードディスクの 取り付け	5-27
5.7.3	RAID セットの作成、削除、リセット	5-28
5.7.4	RAIDボリュームの作成	5-28
5.7.5	RAID ボリュームの削除	5-29
5.7.6	RAID データのリセット	5-30
5.8	RAIDドライバでフロッピーの作成	5-31

クイックリファレンスカード

ご注意

Federal Communications Commission Statement

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference, and
- This device must accept any interference received including interference that may cause undesired operation.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with manufacturer's instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment to an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.



The use of shielded cables for connection of the monitor to the graphics card is required to assure compliance with FCC regulations. Changes or modifications to this unit not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate this equipment.

Canadian Department of Communications Statement

This digital apparatus does not exceed the Class B limits for radio noise emissions from digital apparatus set out in the Radio Interference Regulations of the Canadian Department of Communications.

This class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.

安全上の注意

電氣的安全性について

- ・ 本製品について作業を行う場合は、感電防止のため、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 本製品に周辺機器を接続する場合は、本製品および周辺機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。可能ならば、関係するすべての機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 本製品にケーブルを接続する場合は、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 電源延長コードや特殊なアダプタを用いる場合は専門家に相談してください。これらは、短絡事故の原因になる場合があります。
- ・ 電源装置が故障していないか、正しい電圧を出力しているか確認してください。電源装置に異常がある場合は、電源装置のメーカーにご相談ください。
- ・ 電源装置は、ご自分で修理しようとししないでください。修理はメーカーまたは専門家に依頼してください。

操作上の注意

- ・ 作業を行う前に、本製品に付属しているすべてのマニュアル・ドキュメントをお読みください。
- ・ 電源を入れる前に、ケーブルの接続を確認してください。また電源コードに損傷がないことを確認してください。
- ・ マザーボード上にクリップやネジなどの金属を落とさないようにしてください。短絡事故の原因になります。
- ・ 埃・湿気・高低温を避けてください。湿気のある場所で本製品を使用しないでください。
- ・ 本製品は安定した場所に設置してください。
- ・ 本製品を修理する場合は、代理店などの専門家に依頼してください。

本ガイドについて

本書は、マザーボードを使用する場合に必要な情報について説明したユーザーガイドです。

本ガイドの構成

本書は、以下の章から構成されています。

- ・ 第 1 章: はじめに
本章では、マザーボードの機能およびサポートされる新テクノロジーについて説明いたします。
- ・ 第 2 章: ハードウェアセットアップ
システムを構築するために必要なハードウェア情報です。マザーボードのスイッチ・ジャンパ・コネクタについて詳しく説明します。
- ・ 第 3 章: 基本操作
本章では、電源オンシーケンス、ボークル POST メッセージ、システムのシャットダウン方法について説明いたします。
- ・ 第 4 章: BIOS セットアップ
BIOS セットアップを用いたマザーボードの設定方法を説明します。BIOS パラメータの詳しい解説があります。
- ・ 第 5 章: サポートソフトウェア
添付のサポート CD に収録されているソフトウェアの説明です。

詳細情報

本書に記載できなかった最新の情報は以下で入手できます。また、BIOS や添付ソフトウェアの最新版があります。ASUS 連絡先情報を参照してください。

1. ASUS ウェブサイト
ASUS のハードウェア・ソフトウェア製品に関する最新情報があります。各国や地域に対応したサイトがあります。URL は次ページを参照してください。
2. 追加ドキュメント
パッケージ内容によっては、追加のドキュメントが同梱されている場合があります。注意事項や代理店・販売店が追加した最新情報などです。これらは、本書がサポートする範囲には含まれていません。

本ガイドの表記について

本書では重要な注意事項について、以下の記号(アイコン)を用いています。表示内容をよく理解して必ずお守りください。



危険/警告: 感電やけがなどの人身事故を防ぐために必ず守らないといけない注意事項です。



注意: 装置や部品の故障や破損を防ぐために必ず守らないといけない注意事項です。



重要: 作業を正しく完了するために必ず守らないといけない注意事項です。



注: 作業を正しく完了するために必要なヒントと情報です。

書体

ボールド体テキスト	メニューまたは選択するアイテムを示します。
イタリック体	言葉または熟語を強調するために使用されます。
<キー>	小なり記号と大なり記号に囲まれたキーは、囲まれたキーを押さなければならないことを示します。例: <Enter> は、EnterまたはReturnキーを押さなければならないことを示します。
<複数のキーの名前>	2つ以上のキーを同時に押さなければならない場合、キー名はプラス記号(+)で結びつけられています。例: <Ctrl+Alt+D>
コマンド	示されたとおりにコマンドを入力し、括弧内に表示された適切な値を供給する必要があることを意味します。例: DOSプロンプトで次のコマンドラインを入力します: afudos /i[filename] この例では、[filename]のファイル名を供給しなければなりません。 afudos /iP4P800-E.ROM

P4P800-E Deluxe仕様のまとめ

CPU	最大 3.2 GHz+ の速度を持つ Intel® Pentium®4 / Celeron プロセッサ対応の Socket 478 Intel® ハイパースレッドテクノロジーをサポート Intel® Prescott CPUをサポート
チップセット	Intel® 865PE Intel® ICH5R
フロントサイドバス (FSB)	800/533/400 MHz
メモリ	デュアルチャンネルメモリアーキテクチャ 最大 4GB のバッファなし非 ECC DDR400/333/266 SDRAM メモリ向け 4 x 184 ピン DDR DIMM ソケット ASUS ハイパーパステクノロジ
拡張スロット	AGP 8X (x 1) (0.8V、1.5V のみ) 5 x PCI (x 5) オプションのワイヤレス LAN のアップグレード用 ASUS WiFi スロット (x 1)
記憶装置	ICH5R サウスブリッジが以下をサポート - UltraDMA 100/66/33 (x 2) - RAID 0、RAID 1 機能を搭載したシリアル ATA(x 2) Promise® 20378 RAID コントローラが以下をサポート - UltraDMA 133 が 2 台のドライブをサポート(x1) - シリアルATA(x 2) - RAID 0、RAID 1、RAID 0+1、Multi-RAID 機能
AI オーディオ	Realtek® ALC850 8 チャンネル CODEC オーディオ感知および列挙テクノロジー S/PDIF アウトインターフェイスのサポート
AI ネット	Marvell® 88E8001 Gigabit イーサネットコントローラ仮想ケーブルテスター(VCT)テクノロジーのサポート
AI BIOS	ASUS CrashFree BIOS2 ASUS Q-Fan テクノロジ ASUS Post Reporter™
AI クロックアップ	インテリジェントCPU周波数チューナー ASUS JumperFree CPU、メモリおよびAGP電圧調整可能 100MHz から 400MHz まで 1MHz 刻みで SFS (ステップレス周波数選択) 調整可能な FSB/DDR 比。固定 AGP/PCI 周波数 ASUS C.P.R. (CPU パラメータリコール)
特別機能	電源ロス再起動 S/PDIF アウトインターフェイスのサポート

(次ページに続く)

P4P800-E Deluxe仕様のまとめ

IEEE 1394	VIA VT6307 IEEE1394 コントローラが 2 台の IEEE 1394 コネクタをサポート
USB	最大 8 つの USB 2.0 ポート
背面パネル I/O	パラレルポート(x 1) シリアルポート(x 1) 光 S/PDIF 出力ポート(x 1) 同軸 S/PDIF 出力ポート(x 1) PS/2 キーボードポート(x 1) PS/2 マウスポート(x 1) RJ45 ポート(x 1) USB 2.0/1.1 ポート(x 4) IEEE 1394 ポート(x 1) 8 チャンネルオーディオ I/O ポート
内部 I/O	2 x USB 2.0 が追加 4 つの USB 2.0 ポートをサポート CPU/ シャーシ/電源ファンコネクタ 20 ピン /4 ピン ATX 12V 電源コネクタ シャーシ侵入 IEEE 1394 コネクタ GAME/MIDI コネクタ CD/AUX/ モデムオーディオコネクタ 前面パネルオーディオコネクタ シリアルポート 2 コネクタ
BIOS 機能	4Mb フラッシュ ROM、AMI BIOS、PnP、DMI2.0、WfM2.0、SM BIOS 2.3、ASUS EZ Flash、ASUS Instant Music、ASUS MyLogo2、ASUS C.P.R.、ASUS 多言語 BIOS
業界基準	PCI 2.2、PCI 2.3、USB 2.0
管理可能性	WfM2.0、DMI 2.0、WOL、WOR、シャーシ侵入
CD内容のサポート	デバイスドライバ ASUS PC Probe ASUS AI Booster ASUS Live 更新ユーティリティ Trend Micro™ PC-cillin ウイルス駆除ソフトウェア
フォームファクタ	ATX フォームファクタ: 30.5 cm x 24.5 cm

* 仕様は、将来予告なしに変更することがあります。

第1章

本章では、マザーボードの機能
およびサポートされる新テクノ
ロジについて説明いたします。

はじめに

本章の内容

1.1 ようこそ!	1-1
1.2 梱包の内容	1-1
1.3 特殊機能	1-2

1.1 ようこそ!

ASUS® P4P800-E Deluxe マザーボードをお買い上げいただきありがとうございます!

ASUS P4P800-E Deluxe マザーボードはホストに新機能と最新テクノロジーを提供して、ASUSの高品質マザーボードの長い製品ラインにもう一つの標準を作り上げました!

マザーボードは、Intel® 865PE チップセットを結合した 478 ピンパッケージに Intel® Pentium® 4 プロセッサを組み込んで、新しいベンチマークを設定し効果的なデスクトッププラットフォームソリューションを実現しています。

PC3200/2700/2100 DDR SDRAMを搭載した4GBまでのシステムメモリ、AGP 8Xスロットを介した高解像度グラフィックス、シリアルATAのサポート、RAID、IEEE 1394、USB 2.0、および8チャンネルオーディオ機能をサポートするP4P800-E Deluxeは、パワーコンピューティングの世界で前進するための完璧な手段となっています!

マザーボードの取り付け、およびマザーボードにハードウェアデバイスの取り付けを開始する前に、下に一覧する付属品が梱包にあるかチェックしてください。

1.2 梱包の内容

P4P800-E Deluxeの梱包に、次の付属品があるかチェックしてください。

- ✓ ASUS P4P800-E Deluxe マザーボード
- ✓ ASUS マザーボードサポート CD
- ✓ WinDVD Suite Platinum (正規品のみ)
- ✓ SATA ケーブル(x 2)
- ✓ SATA 電源ケーブル(正規品のみ) (x 1)
- ✓ 2ポートUSB+GAME モジュール(ケーブル付き)(正規品のみ) (x 1)
- ✓ 1394 モジュール(正規品のみ) (x 1)
- ✓ UltraDMA IDE ドライブ用 80 コンダクタリボンケーブル(x 2)
- ✓ 40 コンダクタ IDE ケーブル(x 1)
- ✓ 3.5 インチフロッピードライブ用リボンケーブル (x 1)
- ✓ I/O シールド
- ✓ 予備のジャンパキャップ用バッグ
- ✓ Instant Music キーボードラベル (正規品のみ)
- ✓ ユーザーガイド (クイック参照カードを含む)
- ✓ クイックセットアップガイド (正規品の)
- ✓ 設定スティッカ (正規品のみ)



付属品が足りないときや破損しているときは、販売店にご連絡ください。

1.3 特殊機能

1.3.1 製品のハイライト

最新のプロセッサテクノロジー



マザーボードには、0.13 ミクロンプロセスで 512/256KB L2 キャッシュを搭載した 478 ピンパッケージに、Intel® Pentium® 4 用 478 ピン表面実装、ゼロインサクションフォース (ZIF) ソケットが装備されています。このマザーボードは 800/533/400 MHz のシステムフロントサイドバスをサポートし、それぞれ 6.4GB/秒、4.3GB/秒、3.2GB/s のデータ転送速度を実現しています。マザーボードは Intel® ハイパースレッドテクノロジーと次世代 Intel® Prescott CPU もサポートします。

デュアルチャネル DDR メモリのサポート



デュアルチャネル DDR メモリアーキテクチャを採用したこのマザーボードは、システムメモリのバンド幅を 2 倍にするソリューションを実現して、システム性能を高めています。また、DDR400/333/266 非 ECC DDR DIMM を使用して 4GB までのシステムメモリをサポートしながら、最新の 3D グラフィックスやマルチメディア、インターネットアプリケーションに対して最大 6.4GB/秒のデータ転送速度を提供します。

ASUS ハイパーステックテクノロジー



ASUS のこの独特なテクノロジーは Intel® 865PE チップセットの可能性を最適化して、競争の激しい 865PE ベースのソリューションを間で最高のパフォーマンスを提供しています。

サウスブリッジ統合シリアル ATA および RAID

ソリューション



マザーボードは、ICH5R サウスブリッジコントローラを通して、RAID 0 and RAID 1 機能を搭載した次世代シリアル ATA (SATA) 仕様をサポートしています。シリアル ATA 仕様は最大 150MB/秒までのデータ転送速度で拡張性の高いパフォーマンスを提供し、RAID 0 および RAID 1 アレイの 2 台のシリアル ATA ハードディスクを取り付けることができます。

マルチ RAID 機能



マザーボードは Promise PDC30378 コントローラを搭載し、シリアル ATA と UltraDMA ハードディスクを使用して、マルチ RAID ソリューションをサポートします。RAID 0 (ストライピング)、RAID 1 (ミラリング)、RAID 0+1 はコストパフォーマンスの高い高性能ソリューションを提供して、システムパフォーマンスと信頼性を追加しています。

AGP 8Xサポート

AGP 8X (AGP 3.0)は次世代のVGA インターフェイス仕様で、最大2.12 GB/秒のバンド幅（速度）で拡張されたグラフィックス性能を可能にしています。

S/PDIFアウト

マザーボードはS/PDIF アウト機能をサポートしているため、お使いのコンピュータは強力なスピーカーシステムにデジタル接続されたハイエンドなエンターテインメントシステムに一変します。

IEEE 1394 のサポート

ボード上のIEEE 1394インターフェイスは、IEEE 1394aに準拠する幅広い範囲の周辺装置やデバイスに、高速かつ柔軟性に富むPC接続性を提供しています。IEEE 1394により、コンピュータ、周辺装置、ビデオカメラ、VCR、プリンタ、TV、デジタルカメラなどの家庭用電化製品の間でインターフェイスを取る、簡単で、低コスト、高いバンド幅の非同期（リアルタイム）データを通して400Mbpsまでの転送速度を可能にします。

8 USB 2.0 テクノロジ

本マザーボードはユニバーサルシリアルバス(USB) 2.0仕様を実装して、USB 1.1の12 Mbpsのバンド幅からUSB 2.0の高速480 Mbpsまで、接続速度を劇的に上げています。USB 2.0はUSB 1.1と下位互換性を持っています。

1.3.2 独特なASUS機能

ASUS Wi-Fiスロット



ASUS Wi-Fi スロットは ASUS WiFi-b™ アドオンカード向けに設計されており、ワイヤレスLAN向けの環境をセットアップします。ASUS WiFi-b™ アドオンカードは独占的なソフトウェアアクセスポイント(AP)をバンドルして、スタンドアロン AP の追加費用を節約します。それだけでなく、カードは使いやすいユーティリティとアプリケーションが搭載し、ノートブック、PDA、その他のワイヤレス LAN 周辺装置に素早く接続することが可能です。2-19 ページをご覧ください。

AI NETソリューション



Marvell® Gigabit LAN コントローラチップセットはボード上に搭載されており、LAN オンマザーボード(LOM)アプリケーション用のシングルチップソリューションを提供しています。コントローラは 32 ビット 10/100/1000BASE-T Gigabit イーサネットメディアアクセスコントロール(IEEE 802.3 準拠)と物理層トランシーバソリューションを統合して、高性能ネットワークアプリケーションをサポートします。コントローラには仮想ケーブルテスト(VCT)ネット診断ユーティリティが付属し、100メートルまでの離れた場所からケーブル障害をインテリジェントに診断して報告します。この機能により、より安定したネットワーク接続を維持することができます。5-12 ページをご覧ください。

AIオーディオテクノロジー



マザーボードは PC マルチメディアシステム用に設計された 16 ビット DAC、ステレオ 16 ビット ADC、AC97 2.3 互換マルチチャンネルオーディオを搭載した、オンボード ALC850 CODEC を通して、8 チャンネルオーディオをサポートしています。また、オーディオポートに差し込まれた周辺装置をインテリジェントに検出して、非互換デバイスを識別します。5-13 ページをご覧ください。

AIオーバークロック



この機能は30% (取付けられているCPUとDRAMによって異なります)までのオーバークロックを可能にして、システム性能を上げながらシステムの安定性を維持します。「4.4.1 ジャンプフリー構成」を参照してオーバークロック用のBIOSアイテムを設定してください。4-17 ページをご覧ください。

AI BIOS ソリューション



AI BIOS は、次のASUSの3つのインテリジェントなソリューションを組み合わせたものです: CrashFree BIOS2、Q-Fan、POST Reporter。

ASUS Qファンテクノロジー



ASUS Qファンテクノロジーはシステムローディングに従ってファン速度をスマートに調節し、静かで、熱を発生させない、効率的な操作を確保します。4-31ページをご覧ください。

CrashFree BIOS 2



この機能により、BIOSコードやデータが破損したとき、サポートCDやブート可能なフロッピーディスクからオリジナルのBIOSデータを復元することが可能になります。この保護により、交換用のROMチップを買う必要がなくなります。4-5ページをご覧ください。

ASUS POST Reporter™



本マザーボードはASUS POST Reporter™ と呼ばれる新しいエキサイティングな機能を提供し、パワーオンセルフテスト(POST)の間に親しみやすい音声メッセージと警告を出して、システムのブートステータスとブートエラーがあればその原因を通知します。バンドリングされたWinbond Voice Editorソフトウェアにより、異なる言語で音声メッセージをカスタマイズすることができます。3-3ページをご覧ください。

ASUS MyLogo2™



マザーボードに搭載されたこの新機能により、カスタマイズ可能なブートロゴでシステムに自分のスタイルを追加することができます。4-34、5-7ページをご覧ください。

C.P.R. (CPUパラメータリコール)



マザーボード BIOSのC.P.R. 機能では、クロックアップによりシステムがハングアップした場合、BIOS のデフォルトの設定に自動的にリセットします。クロックアップによりシステムがハングアップしたとき、C.P.R.のおかげでシステムシャーシを開けて RTC データを消去しなくても済みません。システムをシャットダウンして再起動してください。BIOS はユーザーが CPU 設定を再び修正できるように、前の設定を表示します。

ASUS EZ Flash BIOS



ASUS EZ Flashを使うと、オペレーティングシステムをロードする前でもシステムBIOSを簡単に更新できます。DOSベースのユーティリティやフロッピーディスクからブートする必要はありません。4-4ページをご覧ください。

ASUS 多言語BIOS

多言語BIOSにより、利用可能なオプションから希望する言語を選択できます。ローカライズされたBIOSメニューでは、簡単かつ素早く構成することを可能にしています。4-12ページをご覧ください。

ASUS インスタントミュージック

この独特な機能により、オペレーティングシステムに入らなくてもオーディオファイルを再生することができます。ASUSインスタントミュージックの特殊機能キーを押すだけで、音楽をお楽しみいただけます! 4-27、5-9ページをご覧ください。

第2章

システムを構築するために必要な
ハードウェア情報です。マザーボードの
スイッチ・ジャンパ・コネクタについて
詳しく説明します。

ハードウェアセットアップ

本章の内容

2.1	続行する前に	2-1
2.2	マザーボードの概要	2-2
2.3	中央処理装置(CPU)	2-6
2.4	システムメモリ	2-12
2.5	拡張スロット	2-16
2.6	ジャンパ	2-20
2.7	コネクタ	2-23

2.1 続行する前に

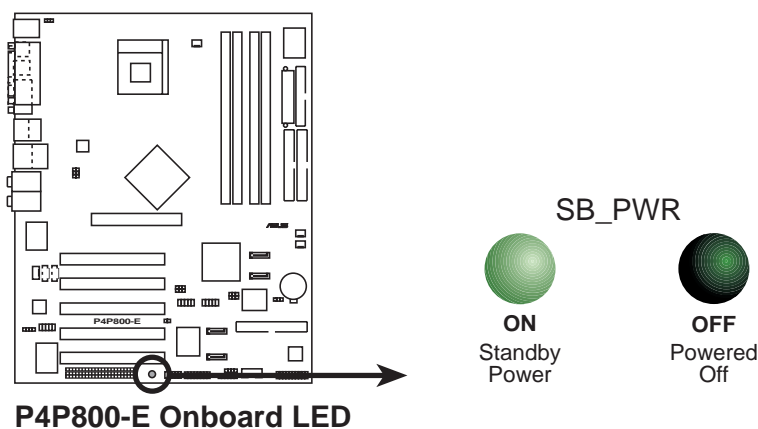
マザーボードコンポーネントを取付ける前に、またはマザーボード設定を変更する前に、次の注意事項を守ってください。



1. コンポーネントに触れる前に、コンセントから電源コードを抜く。
2. コンポーネントを取り扱う前は、静電気で損傷しないように、アースされたリストバンドを使用するか、安全にアースされた物体または電源装置のケースなどの金属物体に触れる。
3. ICに触れないように、コンポーネントを持つときは端をつかむ。
4. コンポーネントを取り外すときは、必ずアースされた静電気防止パッドの上に置くか、またはコンポーネントに付属する袋の中に入れる。
5. コンポーネントの取り付け/取り外しを行う前に、ATX電源装置の電源がオフになっていることを、または電源コードが電源装置から抜いてあることを確認する。そうしないと、マザーボードや周辺装置、コンポーネントなどが損傷する原因となります。

オンボードLED

マザーボードには、スタンバイ電源LEDが付属しています。LEDが緑色に点灯しているとき、システムがオン、スリープモードまたはソフトオフモードになっていることを示し、マザーボードコンポーネントにケーブルの取り付けや取り外しを行う前に、システムをシャットダウンし、電源ケーブルを抜く必要があることを喚起します。下の図は、オンボードLEDの場所を示します。



2.2 マザーボードの概要

マザーボードを取付ける前に、シャーシの構成を調べてマザーボードがシャーシにフィットするかどうかを確認してください。



マザーボードの取り付けまたは取り外しを行う前に、必ず電源コードを抜いてください。そうしないと、負傷したりマザーボードコンポーネントが損傷することがあります。

2.2.1 配置方向

マザーボードを取付けるとき、マザーボードがシャーシに正しい向きで配置されていることを確認してください。外部ポートのあるエッジは、下の図に示すようにシャーシの背面にあります。

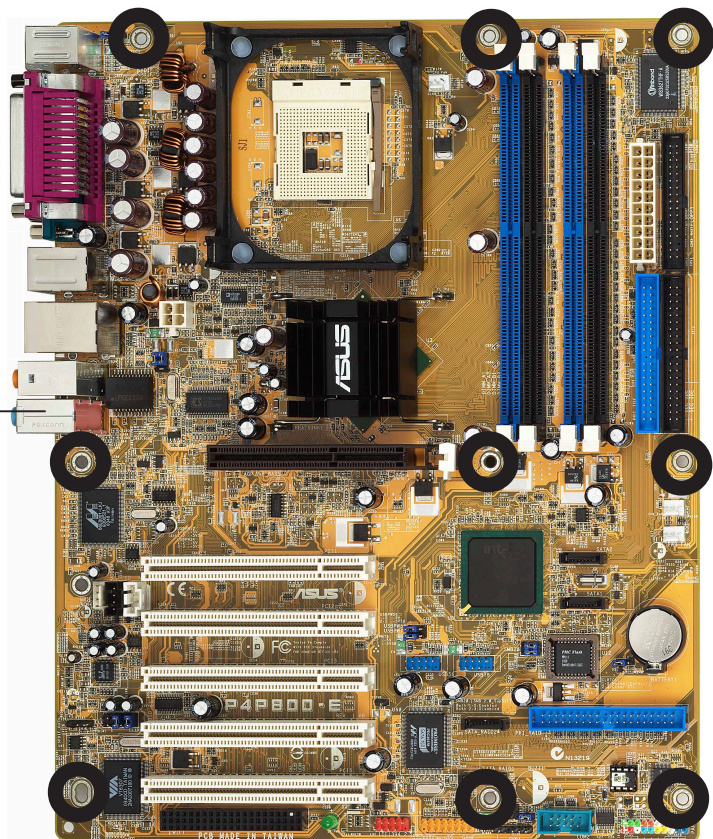
2.2.2 ネジ穴

9本のネジを円で示された穴に取り付け、マザーボードをシャーシに固定します。

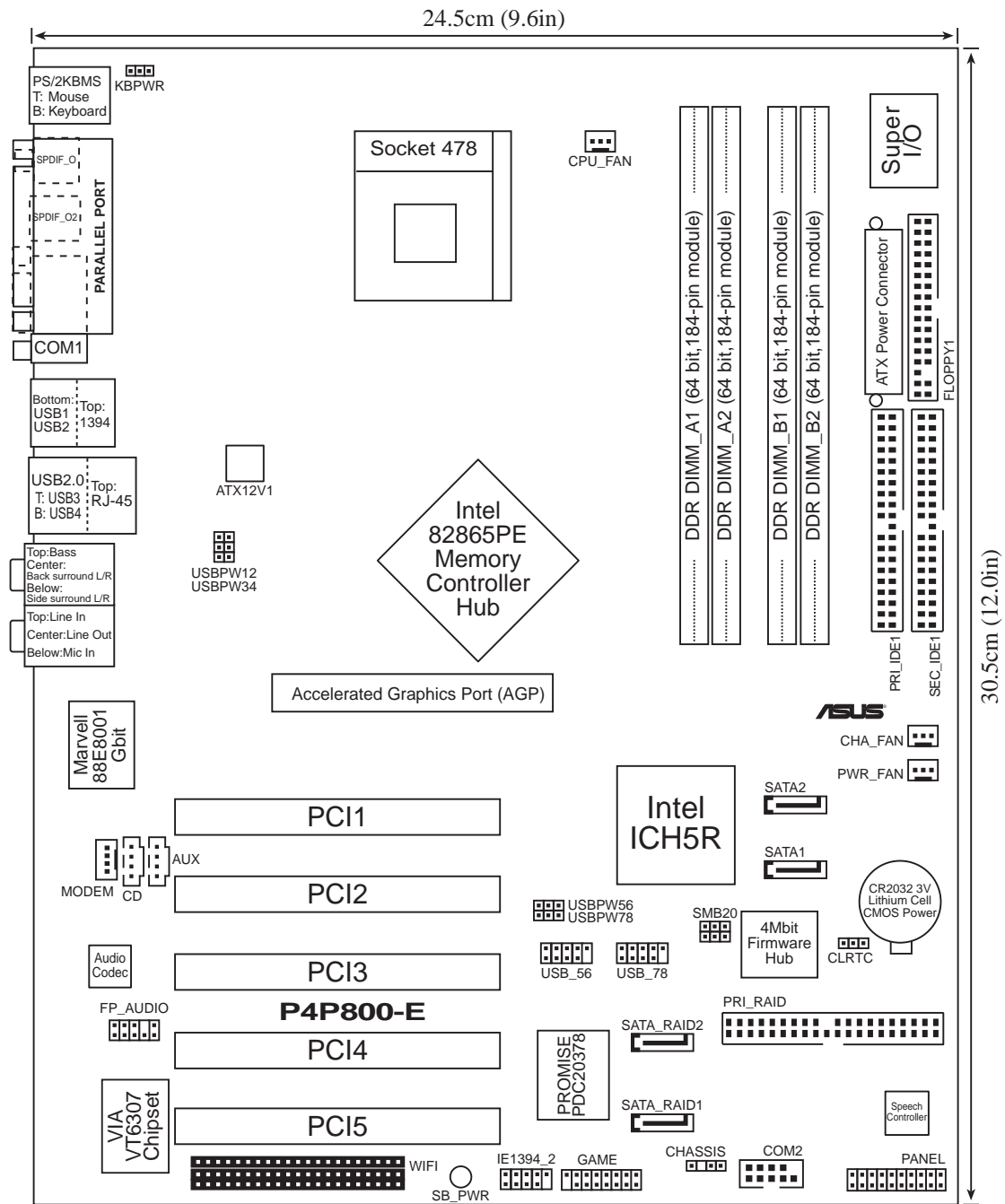


ネジをきつく締めすぎないでください! マザーボードが損傷する原因となります。

この面をシャーシ背面に向けて置いてください。



2.2.3 マザーボードのレイアウト



2.2.4 レイアウトの内容

スロット	ページ
1. PCI スロット	2-18
2. AGP スロット	2-18
3. Wi-Fi スロット	2-19
4. DDR DIMM スロット	2-12

ジャンパ	ページ
1. クリアRTC RAM (3 ピン CLRRTC)	2-20
2.USB デバイスの呼び起こし(3 ピン USBPW12、 USBPW34、USBPW56、USBPW78)	2-21
3. キーボード電源(3 ピン KBPWR)	2-22
4. SMB 2.0 ジャンパ	2-22

背面パネルのコネクタ	ページ
1. PS/2 マウスポート	2-23
2. パラレルポート	2-23
3. IEEE 1394 ポート	2-23
4. Gigabit LAN ポート(RJ-45)	2-23
5. 中央/サブウーファ	2-23
6. 背面スピーカーアウトジャック	2-23
7. ラインインジャック	2-23
8. ラインアウトジャック	2-23
9. マイクジャック	2-23
10.側面スピーカーアウトジャック	2-23
11.USB 2.0 ポート3と4	2-24
12.USB 2.0 ポート1と2	2-24
13.シリアルコネクタ	2-24
14.S/PDIF 光ケーブルジャック	2-24
15.S/PDIF 同軸ケーブルジャック	2-24
16.PS/2 キーボードポート	2-24

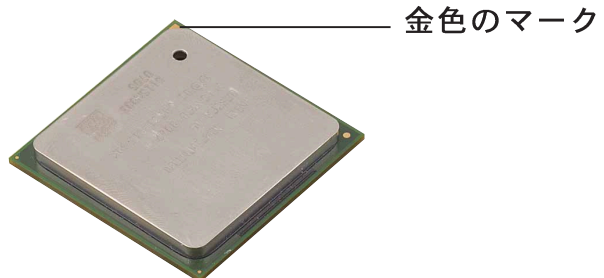
内部コネクタ	ページ
1. RAI データコネクタ(40-1ピン PRI_RAID)	2-25
2. プライマリ IDE コネクタ(40-1ピン PRI_IDE1)	2-26
3. セカンダリ IDE コネクタ(40-1ピン SEC_IDE1)	2-26
4. フロッピーディスクコネクタ(34-1 ピン FLOPPY)	2-26
5. シリアル ATA コネクタ(7ピン SATA1, SATA2)	2-27
6. RAID SATA コネクタ(7 ピン SATA_RAID1, SATA_RAID2)	2-29
7. CPU ファンコネクタ(3 ピンCPU_FAN)	2-30
8. 電源ファンコネクタ(3 ピンPWR_FAN)	2-30
9. シャーシファンコネクタ(3 ピンCHA_FAN)	2-30
10.シリアルポート 2 コネクタ(10-1 ピン COM2)	2-30
11.ATX 電源コネクタ(20 ピン ATXPWR)	2-31
12.ATX 12V 電源コネクタ(4 ピン ATX12V)	2-31
13.USB ヘッド(10-1 ピン USB_56, USB_78)	2-32
14.CD コネクタ(4 ピン CD)	2-33
15.AUX コネクタ(4 ピン AUX)	2-33
16.MODEM コネクタ(4 ピン MODEM)	2-33
17.IEEE 1394 コネクタ(10-1 ピン IE1394_2)	2-33
18.前面パネルオーディオコネクタ(10-1 ピン FP_AUDIO)	2-34
19. GAME/MIDI コネクタ(16-1 ピン GAME)	2-34
20. シャーシ侵入コネクタ (4-1 ピンシャーシ)	2-35
21.システムパネルコネクタ(20 ピン PANEL)	2-35
- システム電源 LED リード (緑 3-1 ピン PLED)	
- システム警告スピーカーリード(オレンジ 4 ピン SPKR)	
- リセットスイッチ(青 2 ピン RESET)	
- ATX 電源スイッチ(黄 2 ピン PWRBTN)	
- システム管理割込リード(ライトブルー 2 ピン SMI)	
- ハードディスクアクティビティ LED (赤 2 ピン IDE_LED)	

2.3 中央処理装置(CPU)

2.3.1 概要

マザーボードには、Intel® Pentium® 4 プロセッサ用に設計された表面実装 478 ピンゼロインサーションフォース(ZIF)ソケットが付属しています。

CPU のマークされた隅(金色の三角形付き)に注意してください。取り付けを正しく行うには、このマークがソケットの特定の隅に合わせる必要があります。



Intel® ハイパースレッドテクノロジーに関する注意



1. マザーボードは、ハイパースレッドテクノロジーを搭載した Intel® Pentium® 4 CPUをサポートします。
2. ハイパースレッドテクノロジーは、Windows® XPおよびLinux 2.4.x (kernel)以降のバージョンの元でのみサポートされています。Linuxの元では、ハイパースレッドコンパイラを使ってコードをコンパイルしています。他のオペレーティングシステムを使用している場合、BIOSでハイパースレッドテクノロジーアイテムを無効にして、システムの安定性と性能を確保してください。
3. WinXP Service Pack 1をインストールすることをお勧めします。
4. サポートされているオペレーティングシステムをインストールする前に、BIOSでハイパースレッドテクノロジーアイテムを有効にしているか確認してください。
5. ハイパースレッドテクノロジーに関する詳細については www.intel.com/info/hyperthreading にアクセスしてください。

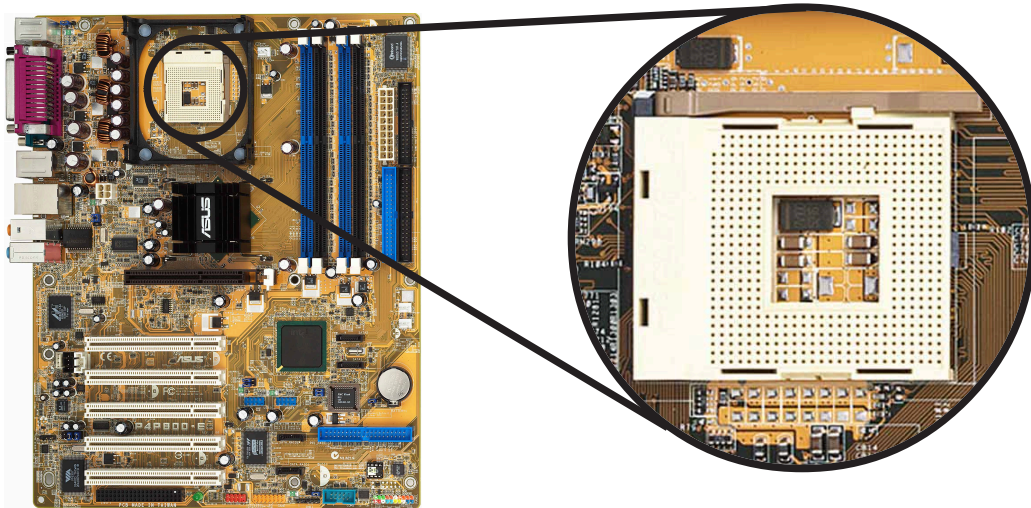
本マザーボードで、ハイパースレッドテクノロジーを使用する方法。

1. ハイパースレッドテクノロジーをサポートするIntel® Pentium® 4 CPU を購入します。そのCPUを取付けます。
2. システムの電源をオフにし、BIOSセットアップに入ります (第4章をご覧ください)。詳細メニューで、ハイパースレッドテクノロジーアイテムが有効に設定されていることを確認します。アイテムは、ハイパースレッドテクノロジーをサポートするCPUを取り付けている場合のみ、表示されます。
3. コンピュータをリブートします。

2.3.2 CPUを取り付ける

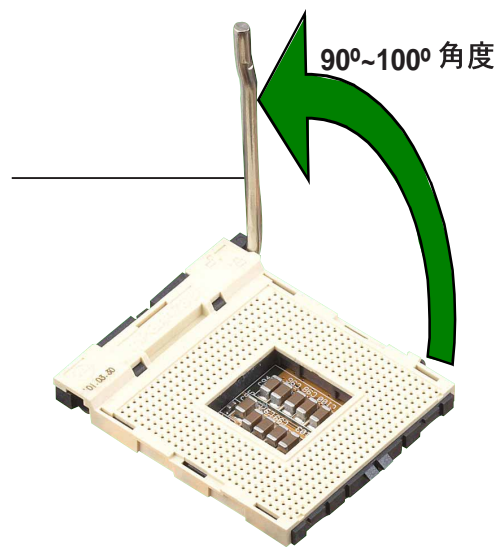
次の手順に従って、CPUを取付けます。

1. マザーボードで、478ピンZIFソケットを探します。



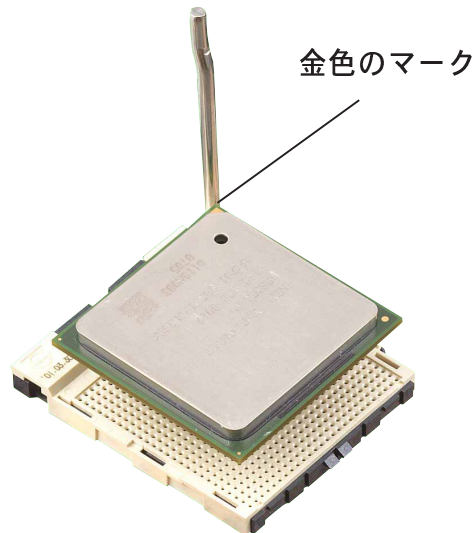
2. レバーを横側に押し、ソケットのロックを解除し、90°-100°の角度まで持ち上げます。

ソケット
レバー



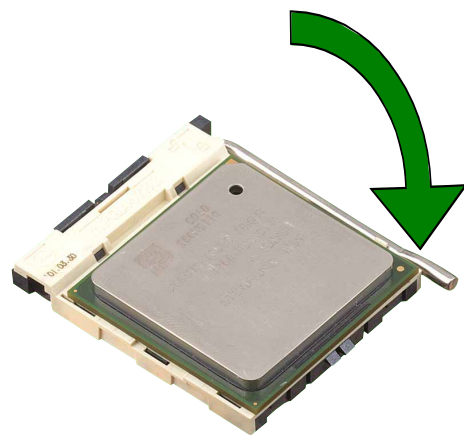
ソケットレバーが90°-100°の角度に持ち上げられていることを確認してください。そうでないと、CPUは完全にフィットしません。

3. CPUを、そのマークが付いたコーナーがソケットレバーの台に一致するように、ソケットの上に配置します。
4. CPUが適切な位置にフィットするまで、ソケットにそっと差し込みます。



CPUは1つの方向にしか正しくフィットしません。CPUをソケットに差し込むときに無理に力を入れないでください。ピンが曲がったり、CPUが損傷する原因となります。

5. CPUを適切な場所に取り付けたら、ソケットレバーを押し下げてCPUを固定します。レバーがサイドタブでカチッと鳴ると、ロックされたことを示します。



インストール後、4ピン電源ケーブルをマザーボードに確実に差し込んでください。



このマザーボードは、ロックされていない Intel® Willamette CPU をサポートしていません。

2.3.3 ヒートシンクとファンを取り付ける

Intel® Pentium® 4プロセッサは、最適の熱状態と性能を確実にするには、特別に設計されたヒートシンクとファンアセンブリを必要とします。



箱入りIntel® Pentium® 4プロセッサをお求めになると、梱包にはヒートシンク、ファン、リテンションメカニズムが含まれています。

CPUを単体でお求めになる場合、Intel®公認のヒートシンクとファンのみを使用していることを確認してください。

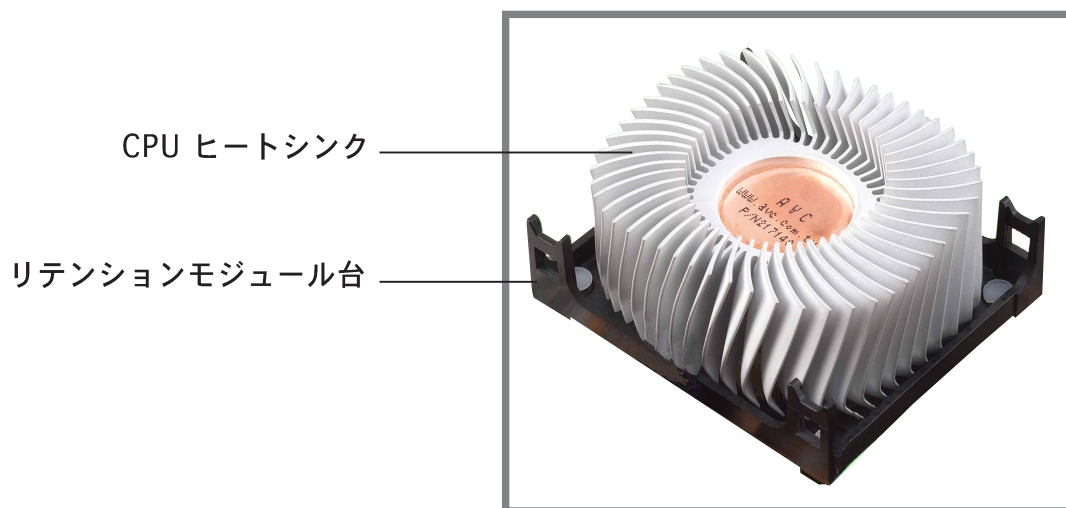
以下の手順に従って、CPUヒートシンクとファンを取り付けてください。

1. 取り付けたCPUの上部に、ヒートシンクがリテンションモジュール台に正しくフィットしていることを確認しながら、ヒートシンクを配置します。



リテンションモジュール台は、購入されたマザーボードにすでに取り付けられています。

CPUまたはマザーボードコンポーネントを取り付けるとき、リテンションモジュール台を取り外す必要はありません。



箱入りIntel® Pentium® 4プロセッサパッケージには、CPUヒートシンクとリテンションメカニズム用の取り付け説明書が付属しています。本項の説明書がCPUのマニュアルと同じでない場合、後者の方に従ってください。

2. ヒートシンクの上部のリテンションメカニズムとファンの位置を合わせます。リテンションメカニズムの4つのフックの位置がモジュール台の各隅の穴に揃ったら、カチッと音を立ててかみ合います。



ファンとリテンションメカニズムアセンブリが、ヒートシンクやモジュール台に完全にフィットしていることを確認してください。そうでないと、穴にフックをはめ込むことができません。



リテンションメカニズムをモジュール台にフィットさせている間、リテンションロックを上を持ち上げていてください。

- リテンションメカニズムのロックを押し下げて、ヒートシンクとファンをモジュール台に固定します。

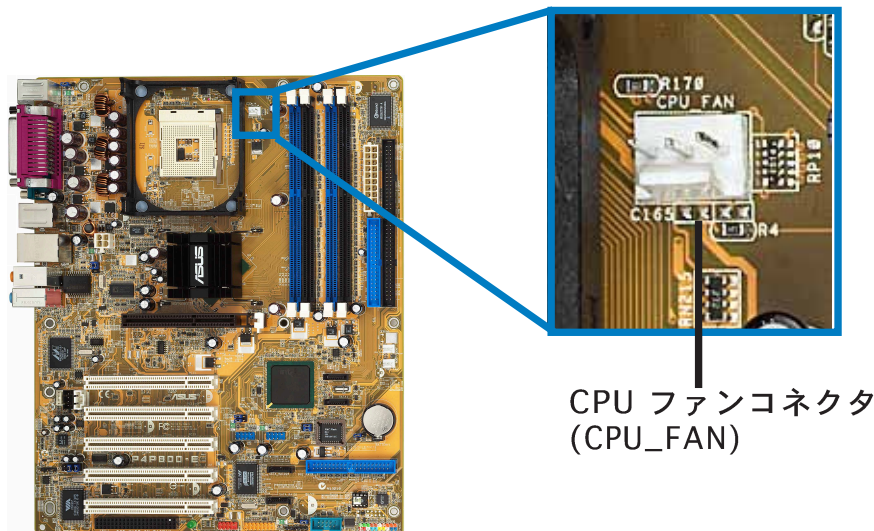


固定されると、リテンションロックは反対方向を向きます。



2.3.4 CPUファンケーブルを接続する

ファン、ヒートシンク、リテンションメカニズムを適切な位置に取り付け
たら、CPUファンケーブルをCPU_FANとラベルされたマザーボードのコ
ネクタに接続します。



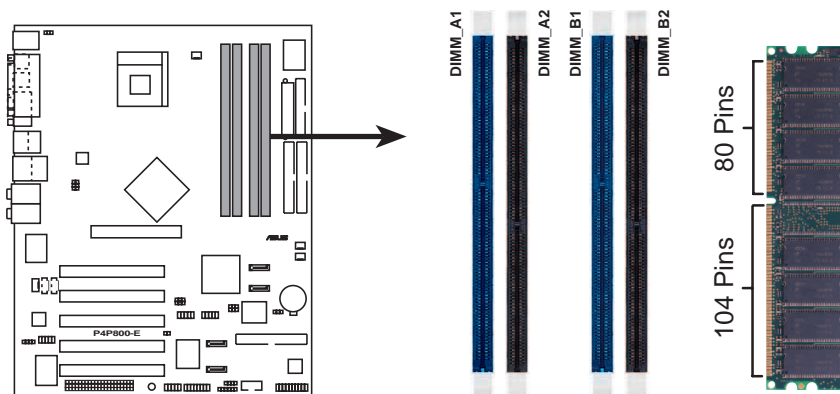
CPUファンコネクタの接続を忘れないでください! このコネクタを接続
しないと、ハードウェア監視エラーが発生する原因となります。

2.4 システムメモリ

2.4.1 概要

このマザーボードには、4つのダブルデータレート(DDR)デュアルインラインメモリモジュール(DIMM)ソケットが付属しています。

次の図は、ソケットの位置を説明しています。



P4P800-E 184-Pin DDR DIMM Sockets

2.4.2 メモリ構成

本項のメモリ構成を使用して、64MB、128MB、256MB、512MB、1GB DDR DIMMをDIMMソケットに取り付けることができます。

重要な注



1. 推奨する構成以外のDDR DIMMを取り付けると、メモリサイジングエラーとシステムブートエラーが起こる原因となります。表1の推奨構成をご使用ください。
2. まず青い DIMM スロットを使用してください。
3. デュアルチャネル構成では、各チャネルに対して同一の（同じタイプとサイズの）DDR DIMMペアのみを取り付けてください。
4. 常に同じCASレイテンシを持つ DIMM を取り付けてください。そうでないと、システムは低い周波数で動作します。最適の互換性を得るには、同じベンダーからメモリモジュールを入手することをお勧めします。推奨ベンダーリストを参照してください。
5. 4つのソケットが全て1GB DIMMに取り付けられているとき（合計4GB）、ICH5Rリソース割当によりシステムは（4GBより少し少ない）3+GBしか検出できません。
6. 3つのメモリソケットに取り付けられた3つのDDR DIMMは、単一チャネルモードで機能します。
7. メモリ周波数がCPU FSBに一致することを確認してください。設定については、表2を参照してください。

表 1 推奨するメモリ構成

モード/DIMM種類	ソケット			
	DIMM_A1 (青)	DIMM_A2 (黒)	DIMM_B1 (青)	DIMM_B2 (黒)
シングルチャネル (1)	取付け済み	-	-	-
(DDR400/DDR333/ DDR266) (2)	-	取付け済み	-	-
(3)	-	-	取付け済み	-
(4)	-	-	-	取付け済み
デュアルチャネル (1)	取付け済み	-	取付け済み	-
(DDR400/DDR333/ DDR266) (2)	-	取付け済み	-	取付け済み
(3)*	取付け済み	取付け済み	取付け済み	取付け済み

* デュアルチャネル構成(3)の場合、次を行ってください。

- ・ 4つのソケット全てに同一のDIMMを取り付ける または
- ・ DIMM_A1 と DIMM_B1 (青いソケット) に同一のDIMMペア
およびDIMM_A2 と DIMM_B2 (黒いソケット) に同一のソケット
を取り付ける

表 2 メモリ周波数/CPU FSB 同期

CPU FSB	DDR DIMM タイプ	メモリ周波数
800 MHz	PC3200/PC2700*/PC2100	400/333*/266 MHz
533 MHz	PC2700/PC2100	333/266 MHz
400 MHz	PC2100	266 MHz



*800MHz CPU FSBを使用しているとき、PC2700 DDR DIMMはチップセットの制限により320MHz (333MHzではなく) でのみ動作しません。

2.4.3 DDR 推奨ベンダーリスト (QVL)

次の表は、このマザーボードで使用するためにテストされ認可を得た、DDR400 メモリモジュールの一覧を表示しています。

サイズ	ベンダー	モデル	ブランド	SS/DS	コンポーネント	A*	B*	C*
256MB	Apacer	77.10636.465	SAMSUNG	SS	K4H560838D-TCC4	•	•	•
256MB	Apacer	77.10636.465	SAMSUNG	SS	K4H560838D-TCC4	•		
256MB	Transcend	TS32MLD64V4F3	MOSEL	SS	V58C2256804SAT5B	•	•	
512MB	Transcend	TS64MLD64V4F3	Mosel	DS	V58C2256804SAT5B	•	•	•
256MB	A DATA	MDGAD5F3G315B1EC2	ADATA	SS	ADD8608A8A-5B	•	•	
256MB	A DATA	MDOWB5F3G316B1EAE	Winbond	SS	W942508BH-5	•	•	
512MB	MICRON	MT16VDDT6464AG-40BCB	MICRON	DS	MT46V32M8TG-5BC	•	•	
128MB	Infineon	HYS64D16301GU-5-B	Infineon	SS	HYB25D256160BT-5B	•	•	•
256MB	Infineon	HYS64D32300GU-5-B	Infineon	SS	HYB25D256800BT-5B	•		
512MB	Infineon	HYS64D32300HU-5-B	Infineon	DS	HYB25D256800CE-5B	•	•	
256MB	Infineon	HYS64D32300HU-5-C	Infineon	DS	HYB25D256800CE-5C	•	•	
512MB	Winbond	W9451GCDB-5	Winbond	DS	W942508CH-5	•	•	•
256MB	SAMSUNG	M368L3223ETM-CCC	SAMSUNG	SS	K4H560838E-TCCC	•	•	
512MB	SAMSUNG	M368L6423FTM-CCC	SAMSUNG	DS	K4H560838F-TCCC	•	•	•
256MB	TwinMOS	M2G9I08AFATT9F081AA4T	TwinMOS	SS	TMD7608F8E50D	•	•	
256MB	TwinMOS	M2S9I08AFAPS9F0811A-T	PSC	SS	A2S56D30ATP	•	•	•
256MB	Hynix	HYMD232646B8J-D43 AA	Hynix	SS	HY5DU56822BT-D43	•	•	
512MB	Corsair	CMX512-3200C2 XMS3202v1.2	N/A	DS	N/A	•	•	•
256MB	ATP	AG32L64T8SQC4S	SAMSUNG	SS	K4H560838D-TCC4	•		
256MB	CENTURY	DXV6S8SSCCD3K27C	SAMSUNG	SS	K4H560838D-TCCC	•	•	•
512MB	CENTURY	DXV2S8SSCCD3K27C	SAMSUNG	DS	K4H560838D-TCCC	•	•	
256MB	Kingston	KVR400X64C3A/256	hynix	SS	HY5DU56822BT-D43	•	•	
256MB	KINGMAX	MPXB62D-38KT3R	KINGMAX	SS	KDL388P4EA-50	•	•	
512MB	KINGMAX	MPXC22D-38KT3R	KINGMAX	DS	KDL388P4EA-50(A)	•	•	
512MB	KINGMAX	MPXC22D-38KT3R	KINGMAX	DS	V58C2256804SAT5B	•	•	•
128MB	NANYA	NT128D64SH4B1G-5T	NANYA	SS	NT5DS16M16BT-5T	•	•	•
256MB	Elixir	M2U25664DS88B3G-5T	Elixir	SS	N2DS25680BT-5T	•	•	•
512MB	Elixir	M2U51264DS88B3G-5T	Elixir	DS	N2DS25680BT-5T	•	•	•
256MB	Kreton	N/A	Kreton	SS	VT3225804T-5	•	•	•
512MB	Kreton	N/A	Kreton	DS	VT3225804T-5	•	•	•
256MB	Veritech	VT400FMV/2561103	Veritech	SS	VT56DD32M8PC-5	•	•	•

- A* - 単一チャンネルメモリ構成の場合、表 1,で参照されたスロットに挿入された1つのモジュールをサポートします。
- B* - 1 対のデュアルチャンネルメモリ構成として、青いスロットまたは黒色スロットに挿入された1対のモジュールをサポートします。
- C* - 2 対のデュアルチャンネルメモリ構成として、青いスロットまたは黒色スロットに挿入された4つのモジュールをサポートします。



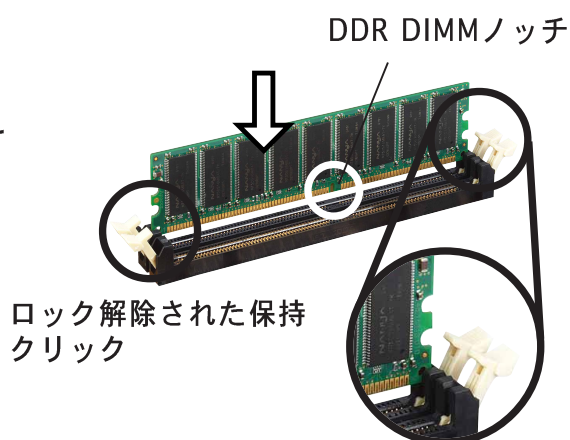
ASUS 正規のベンダーからのみ DDR DIMM を取得してください。最新の QVL については、ASUS の Web にアクセスしてください。

2.4.4 DIMMの取り付け



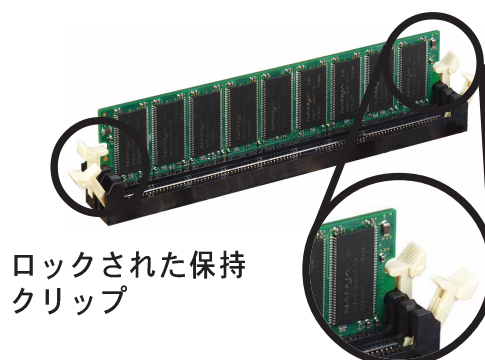
DIMMまたはその他のコンポーネントの増設または取り外しを行う前に、電源装置を抜いていることを確認してください。そうしないと、マザーボードとコンポーネントがひどい損傷をこうむる原因となります。

1. 保持クリップを外側に押し、DIMMのロック解除を行います。
2. DIMMのノッチがソケットの裂け目に一致するようにDIMMをソケットに合わせます。



DDR DIMMには、一方向にのみフィットするようにノッチが付いています。DIMMが損傷する原因となるので、DIMMをソケットに無理に押し込まないでください。

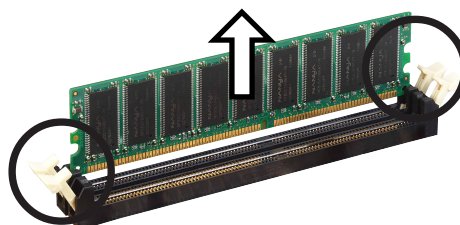
3. 保持クリップがカチッと音を立てて適切な位置に閉まりDIMMが正しく取り付けられるまで、DIMMをソケットにしっかりと挿入します。



2.4.5 DIMMの取り外し

次の手順に従ってDIMMを取り外します。

1. 保持クリップを外側に同時に押し、DIMMのロック解除を行います。



保持クリップを押すとき、指でDIMMを軽く支えます。DIMMは余分な力を加えると弾き飛ばされて損傷をこうむることがあります。

2. ソケットからDIMMを取り外します。

2.5 拡張スロット

将来、拡張カードを取り付ける必要が生じる場合があります。マザーボードには5つのPCIスロット、1つのアクセラレーテッドグラフィックスポート(AGP) Proスロット、Wi-Fiスロットがあります。以下で、サポートされるスロットと拡張カードを説明します。



拡張カードの増設または取り外しを行う前に、電源コードを抜いていることを確認してください。そうしないと、負傷したりマザーボードコンポーネントが損傷する原因となります。

2.5.1 拡張カードの取り付け

次の手順に従って、拡張カードを取り付けます。

1. 拡張カードを取り付ける前に、カードに付属するマニュアルを読みカードに必要なハードウェア設定を行ってください。
2. システム装置のカバーを取り外します（マザーボードがシャーシにすでに取り付けられている場合）。
3. 使用するスロットの反対側にあるブラケットを取り外します。将来使用するために、ネジは捨てずに保存してください。
4. カードコネクタをスロットに合わせ、カードがスロットに完全に取り付けられるまでしっかり押します。
5. カードを取り外したネジでシャーシに固定します。
6. システムのカバーを元に戻します。

2.5.2 拡張カードの構成

拡張カードを取り付けた後、ソフトウェア設定を調整してカードを構成します。

1. システムの電源をオンにし、必要なBIOS設定を行います。BIOSセットアップの詳細については、第4章をご覧ください。
2. IRQをカードに合わせます。次ページの表を参照してください。
3. 拡張カードのソフトウェアデバイスをインストールします。

2.5.3 割り込みの割り当て

標準の割り込み割当

IRQ	優先順位	標準機能
0	1	システムタイマ
1	2	キーボードコントローラ
2	N/A	プログラム可能割当
3*	11	通信ポート (COM2)
4*	12	通信ポート (COM1)
5*	13	サウンドカード (LPT2の場合もあります)
6	14	フロッピーディスクコントローラ
7*	15	プリンタポート (LPT1)
8	3	システムCMOS/リアルタイムクロック
9*	4	ACPIモード (使用時)
10*	5	PCIステアリング用IRQホルダ
11*	6	PCIステアリング用IRQホルダ
12*	7	PS/2互換マウスポート
13	8	数値データプロセッサ
14*	9	1次 IDE チャンネル
15*	10	2次 IDE チャンネル

* これらのIRQは、通常ISAまたはPCIデバイスで利用できます。

このマザーボード用のIRQ割当

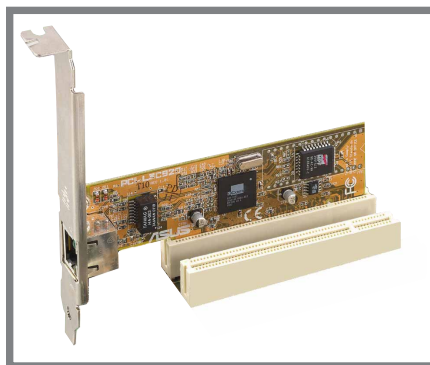
	A	B	C	D	E	F	G	H
PCIスロット1	—	—	—	—	—	共有	—	—
PCIスロット2	—	—	—	—	—	—	共有	—
PCIスロット3	—	—	—	—	—	—	—	共有
PCIスロット4	—	—	—	—	共有	—	—	—
PCIスロット5	—	—	—	—	—	共有	—	—
AGP スロット	使用済み	—	—	—	—	—	—	—
オンボードUSB1.1/2.0コントローラ	—	—	—	—	共有	共有	共有	共有
オンボードLAN	—	—	—	—	—	—	共有	—
オンボードオーディオ	—	—	使用済み	—	—	—	—	—



共有スロットでPCIカードを使用しているとき、デバイスがIRQの共有をサポートしていることを、またはカードがIRQ割当を必要としていないことを確認してください。そうでないと、2つのPCIグループの間で競合が発生し、システムが不安定になったりカードを操作できなくなったりします。

2.5.4 PCI スロット

スロットはLANカード、SCSIカード、USBカード、およびPCI仕様に準拠するその他のカードなどのPCIカードをサポートします。次の図は、PCIスロットに取り付けられたLANカードを示しています。



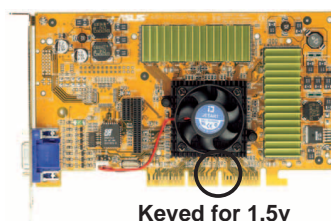
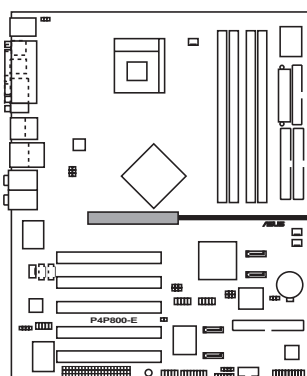
- 長いPCIカードを取り付けているとき、PCI3、4、5スロットに取り付けることをお勧めします。PCIスロット1と2に取り付けられた長いPCIカードは、SATAコネクタに干渉することがあります。
- PCIスロット5およびWi-Fiスロットは、同時に使用することはできません。

2.5.5 AGP スロット

AGP8X/4X カードをサポートする加速グラフィックスポート(AGP)スロット。AGPカードをご購入になるとき、+1.5V仕様に準拠するカードを求めていることを確認してください。カードのゴールデンフィンガーのノッチは、マザーボードのAGPスロットに確実にフィットするためのものです。



このマザーボードには、1.5V AGPカード以外のカードを取り付けないでください! 3.3V AGP カードはこのマザーボードでサポートされていません。



P4P800-E Accelerated Graphics Port (AGP)

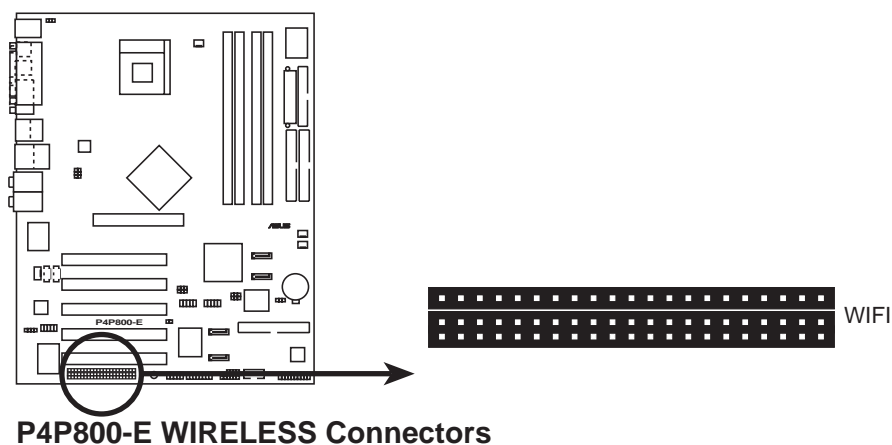


ATi 9500 または 9700 Pro Series VGAカードを取り付ける場合、最適な性能とオーバークロックの安定性を得るには、カードバージョン PN xxx-xxxxx-30以降のみを使用してください。

2.5.6 Wi-Fiスロット

Wi-Fi (Wireless Fidelity) スロットは利用可能なとき、ASUS Wi-Fi-b™ ジュールをサポートします。製品の更新については、ASUSのWebサイト (www.asus.com)にアクセスしてください。

Wi-Fiスロットは、2.4 GHz周波数バンドで動作するワイヤレスデバイス用の米電気電子技術者協会(IEEE) 802.11b/g標準に準拠しています。



ASUS WiFi-b™ 設定



- ・ PCI 5スロットとWi-Fiスロットは、同時に使用できません。
- ・ ASUS Wi-Fi-b™ジュールは別個にお買い求めください。

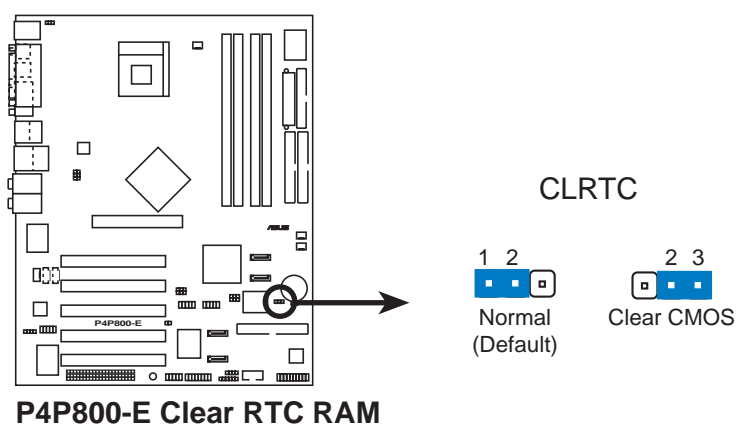
2.6 ジャンパ

1. RTC RAM (CLRRTC)の消去

このジャンパによって、CMOSのリアルタイムクロック(RTC) RAMを消去できます。CMOS RTC RAM データを消去することによって、CMOSメモリの日、時間、システムのセットアップパラメータを消去できます。CMOSのRAMデータは、システムパスワードなどのシステムセットアップ情報を含み、オンボードのボタンセルバッテリーによって電源を供給されます。

RTC RAMを消去するには、次の手順を実行します。

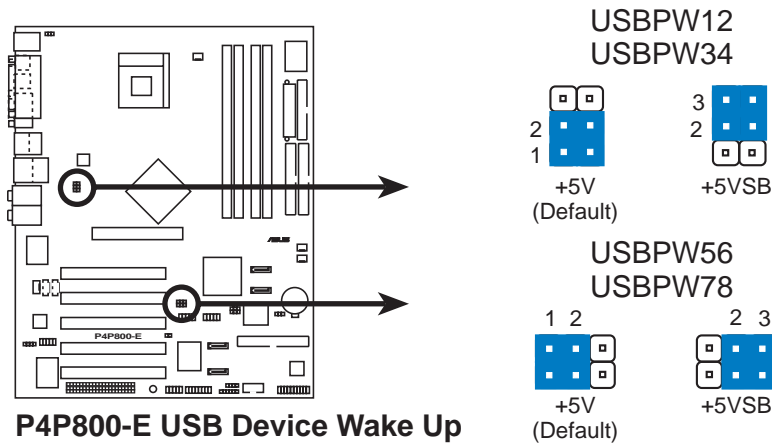
1. コンピュータの電源をオフにし、電源コードを抜きます。
2. ボード上のバッテリーを取り外します。
3. ピン1-2 (デフォルト) からピン2-3にジャンパキャップを移します。ピン2-3に約5~10秒間キャップをかぶせ、それからキャップをピン1-2に戻します。
4. バッテリーを交換します。
5. 電源コードを差し込み、コンピュータの電源をオンにします。
6. ブートプロセスの間、キーを押し下げBIOSセットアップに入ったらデータを再入力します。



オーバークロックによりシステムがハングアップしたとき、RTCを消去する必要はありません。オーバークロックによるシステムエラーの場合は、C.P.R (CPUパラメータリコール) 機能を使用してください。システムをシャットダウンしてリブートすると、BIOSはパラメータ設定をデフォルト値に自動的にリセットできます。

2. USBデバイスの呼び起こし (3ピンUSBPW12、USBPW34、USBPW56、USBPW78)

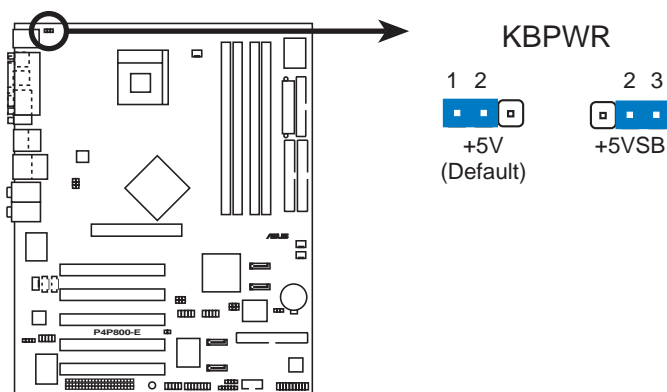
これらのジャンパを+5Vに設定すると、接続されたUSBデバイスを使用して、コンピュータをS1スリープモード（停止したCPU、リフレッシュしたDRAM、低パワーモードで実行するシステム）から呼び起こします。+5VSBに設定すると、S3とS4スリープモード（CPUへの電源なし、遅いリフレッシュのDRAM、低下した電源モードにある電源装置）から呼び起こします。



- ・ USB デバイスの呼び起こし機能は、各USBポートに対して+5VSB リードに500mAを提供できる電源装置を必要とします。この電源装置がなければ、システムは起動できません。
- ・ 消費される全電流は、標準状態でもスリープモードでも、電源容量(+5VSB)を超えることはできません。

3. キーボード電源 (3-ピンKBPWR)

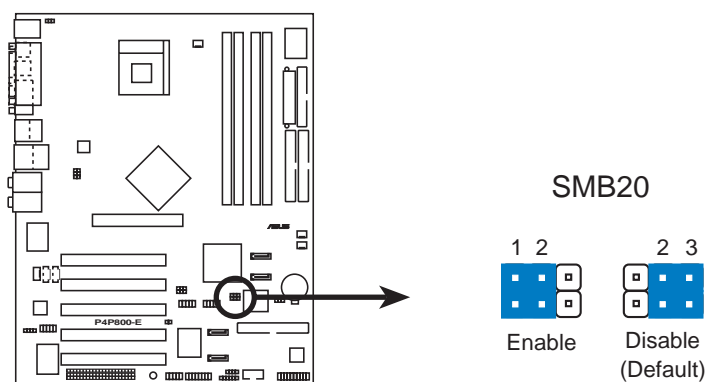
このジャンパにより、キーボード呼び起こし機能の有効/無効を切り替えることができます。キーボードのキーを押したときにコンピュータを呼び起こしたい場合、このジャンパをピン2-3 (+5VSB)に設定してください (デフォルト値は[Disabled])。この機能は、+5VSBリード上で少なくとも1Aを、またBIOSで対応する設定をサポートできるATX電源装置を必要とします。



P4P800-E Keyboard Power Setting

4. SMB2.0 (two 3ピンSMB20)

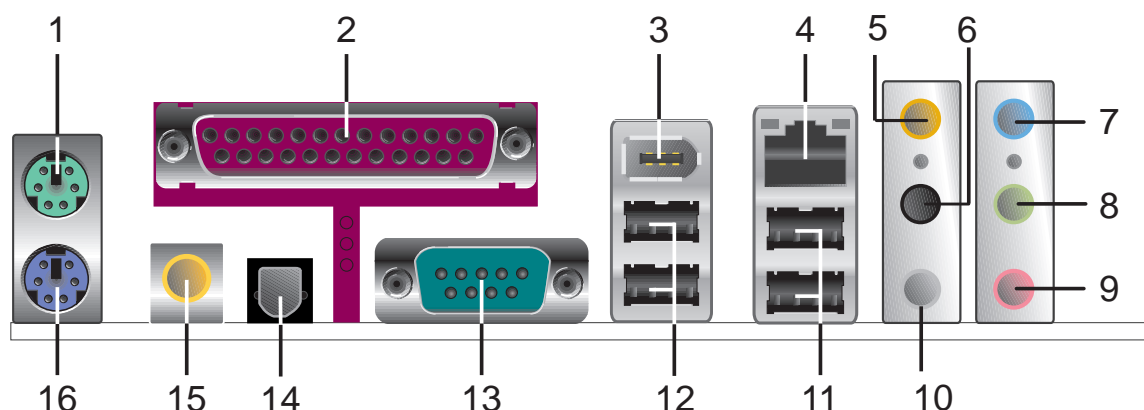
これらのジャンパによって、マザーボードでサポートされているSMBus 2.0機能の有効/無効を切り替えることができます。デフォルトでは、これらのジャンパは短くされて (ジャンパキャップをかぶせて)、機能を無効にしています。SMBus 2.0仕様に準拠するPCIデバイスを取り付ける場合、ジャンパキャップを取り外してSMBus 2.0機能を有効にしてください。



P4P800-E SMB2.0 Support

2.7 コネクタ

2.7.1 背面パネルコネクタ



1. PS/2 マウスポート。この緑の 6 ピンコネクタは PS/2 マウス用です。
2. 平行ポート。この 25 ピンポートは平行プリンタ、スキャナ、またはその他のデバイスを接続します。
3. IEEE 1394 ポート。この 6 ピン IEEE 1394 ポートはオーディオ/ビデオデバイス、記憶周辺装置、その他の PC、ポータブルデバイスに対して、高速接続性を提供します。
4. RJ-45 ポート。このポートは、ネットワークハブを通して構内通信網(LAN)に接続します。
5. 中央/サブウーファジャック。このセンター/サブウーファ(イエローオレンジ)ジャックはセンター/サブウーファスピーカーに接続します。
6. 背面スピーカージャック。この側面スピーカー(黒)ジャックは 4 チャンネル、6 チャンネル、8 チャンネルオーディオ構成で、背面スピーカーに接続します。
7. ラインインジャック。このラインイン(ライトブルー)ジャックはテーププレーヤーまたはその他のオーディオソースを接続します。
8. ラインアウトジャック。このラインアウト(ライム)ジャックはヘッドフォンまたはスピーカーを接続します。4 チャンネル、6 チャンネル、8 チャンネルモードで、このジャックの機能は前面スピーカーアウトになります。
9. マイクジャック。このマイク(ピンク)ジャックはマイクを接続します。
10. 側面スピーカーアウトジャック。この背面スピーカーアウト(グレイ)ジャックは、8 チャンネルオーディオ構成で側面スピーカーに接続します。

オーディオ2, 4, 6,または8チャンネル構成

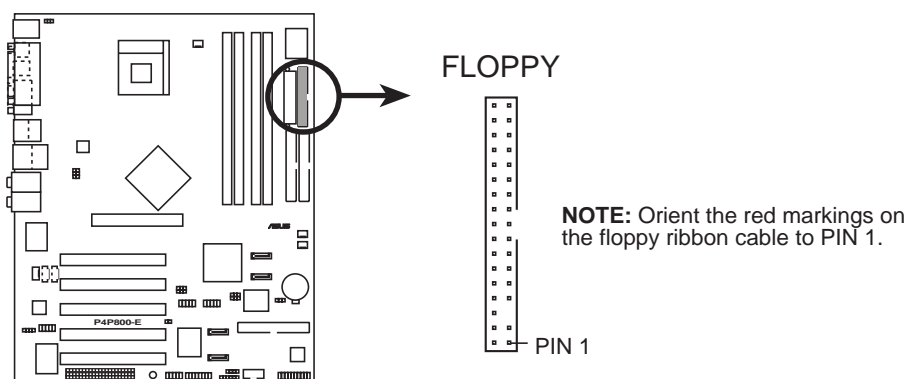
	ヘッドセット/ 2チャンネル	4チャンネル	6チャンネル	8チャンネル
ライトブルー	ラインイン	ラインイン	ラインイン	ラインイン
ライム	ラインアウト	フロントスピー カーアウト	フロントスピー カーアウト	フロントスピー カーア ウト
ピンク	マイクイン	マイクイン	マイクイン	マイクイン
イエローオレンジ	-	-	中央/サブウーファ	中央/サブウーファ
黒	-	背面スピー カーア ウト	背面スピー カーア ウト	背面スピー カーア ウト
グレー	-	-	-	側面スピー カーア ウト

- 11.USB 2.0 ポート 3 と 4。これら2つの4ピンユニバーサルシリアルバス(USB)ポートは、USB 2.0 デバイスを接続するために使用できます。
- 12.USB 2.0 ポート 1 と 2。これら2つの4ピンユニバーサルシリアルバス(USB)ポートは、USB 2.0 デバイスを接続するために使用できます。
- 13.シリアルコネクタ。この9ピンCOM1ポートは、シリアルデバイス用です。
- 14.S/PDIF 光アウトジャック。このジャックは、光ケーブルコネクタを搭載する外部オーディオ出力デバイスに接続します。
- 15.S/PDIF 同軸アウトジャック。このジャックは、同軸ケーブルコネクタを搭載する外部オーディオ出力デバイスに接続します。
- 16.PS/2 キーボードポート。この紫のコネクタは、PS/2 キーボード用です。

2.7.2 内部コネクタ

1. フロッピーディスクドライブコネクタ (34-1ピンフロッピー)

このコネクタは、付属のフロッピードライブのリボンケーブルをサポートします。マザーボードに一方の端を接続したら、もう一方の端をフロッピードライブに接続してください(ピン5プラグでリボンケーブルを使用しているとき、間違っても挿入しないようにピン5は取り外されます)。



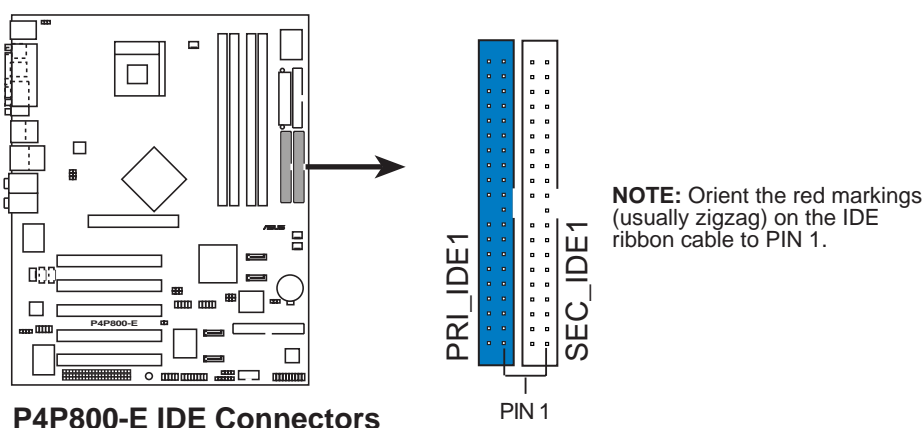
P4P800-E Floppy Disk Drive Connector

2. IDE コネクタ (40-1ピン PRI_IDE1, SEC_IDE1)

このコネクタは、付属の UltraDMA/100/66 IDEハードディスクリボンケーブルをサポートします。ケーブルの青いコネクタを1次 (推奨) または2次コネクタに接続してから、グレーのコネクタを UltraDMA/100/66スレーブデバイス (ハードディスクドライブ) に、黒いコネクタをUltraDMA/100/66マスタデバイスに接続します。



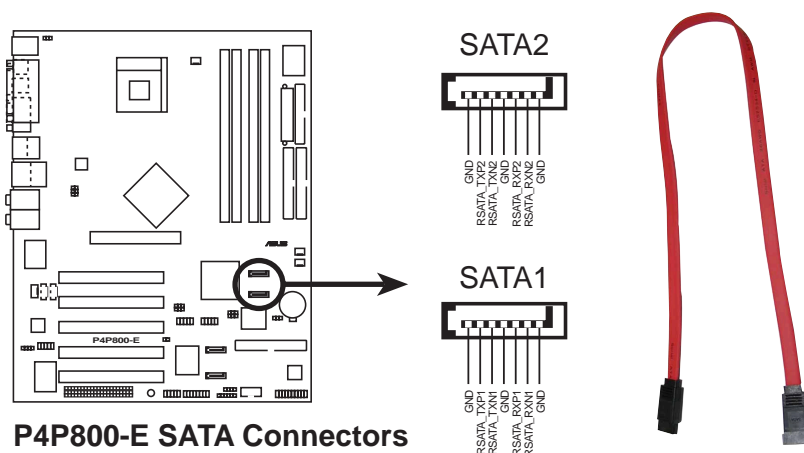
1. マスターまたはスレーブモードでデバイスを設定しているとき、ハードディスクドライブのマニュアルに従ってください。
2. 各IDEコネクタのピン20はUltraDMAケーブルコネクタのカバーされた穴に一致するように取り除かれます。これによって、ケーブルを接続するときに方向を間違えることはなくなります。
3. UltraDMA/100/66ケーブルの青いコネクタの傍にある穴は故意に付けられたものです。



P4P800-E IDE Connectors

3. シリアルATA コネクタ (7ピンSATA1、 SATA2)

これらの次世代コネクタは、1次内部記憶装置用に薄いシリアルATAケーブルをサポートします。現在のシリアルATAインターフェイスにより、133 MB/s (Ultra ATA/133)を組み込んだ標準の平行ATAよりも高速な、150 MB/秒までのデータ転送速度を可能にしています。



P4P800-E SATA Connectors

シリアル ATA に関する重要な注

1. 従来のオペレーティングシステム(DOS、Windows® 98、Windows® Me、Windows® NT)環境で、シリアルATAコネクタを使用すると、1つのIDEチャンネル(プライマリまたはセカンダリチャンネル)に対するICHRチップセットサポートが無効になります。
2. シリアルATA RAID機能(RAID 0,1)は、Windows® XPとWindows® 2000を使用している場合のみ利用できます。
3. シリアルATAドライブと接続のホットプラグサポートは、本マザーボードではサポートされていません。
4. シリアルATAを使用してWindows® XP™ Service Pack 1をインストールします。

パラレル ATA およびシリアルATAデバイス構成

次はIntel ICH5R仕様がサポートするパラレルATAとシリアルATAデバイス構成です。

ネイティブオペレーティングシステム(OS)はWindows® 2000/XPです。ICH5RはこれらのOSを使って、最大6つのデバイスをサポートします。

古いタイプOSはMS-DOS、Windows® 98/Me/NT4.0です。ICH5RはこれらのOSを使って、最大4つのデバイスをサポートします。

オペレーティングシステム	P-ATA		S-ATA	
	1次 (2デバイス)	2次 (2デバイス)	ポート0 (1デバイス)	ポート1 (1デバイス)
1. Windows® 2000/XP	✓	✓	✓	✓
2. Windows® 98SE/ME				
Configuration A	✓	—	✓	✓
Configuration B	—	✓	✓	✓
Configuration C	✓	✓	—	—

凡例:

✓ サポート
— 無効

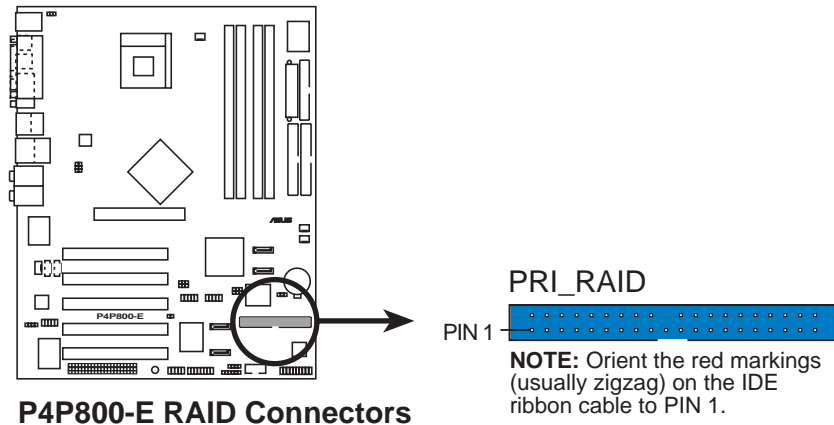
BIOSで要求されるIDEの構成設定

上のP-ATAとS-ATAのデバイス構成については、次の表を参照して適切なBIOS設定を行ってください。BIOSアイテムの詳細は、をご覧ください「4.3.6 IDE構成」。

BIOSアイテム	Windows® 2000/XP	Windows® 98SE/ME		
		A	B	C
オンボードIDE操作モード	拡張モード	互換モード	互換モード	互換モード
拡張モードサポートオン	S-ATA	-	-	-
IDEポート設定	-	Primary P-ATA+S-ATA	Sec. P-ATA+S-ATA	P-ATAポートのみ

4. RAID ATA/133/100/66/33 コネクタ(40-1ピン PRI_RAID)

このコネクタはオンボード Promise® 20378 RAID コントローラを通して、シリアル ATA コネクタを搭載する RAID 0、RAID 1 または RAID 0 + 1 構成をサポートします。この機能を使用してディスクアレイ構成をセットアップし、追加 IDE デバイスをサポートできます。

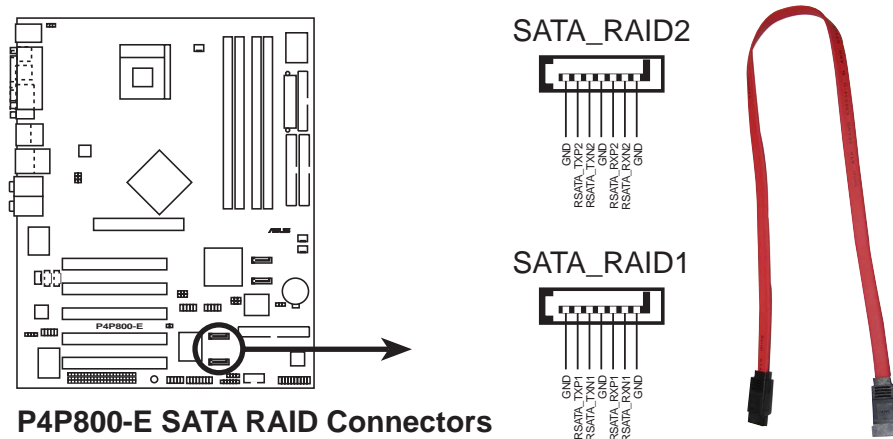


RAID機能に関する重要な注:

- 1 デフォルトで、PRI_RAIDコネクタに接続するドライブは、ディスクアレイとしてではなく、独立したドライブとしてATA133/100/66/33プロトコルに従います。
- 2 RAID/SATA コントローラチップセットは、CD-ROMやDVD-ROMなどのATAPIデバイスをサポートしません。

5. シリアル ATA RAID コネクタ(7 ピン SATA_RAID1、SATA_RAID2)

これらのシリアル ATA コネクタは、SATA ハードディスクをサポートし RAID セットとして構成できます。オンボード Promise® PDC20378 RAID コントローラを通して、RAID ATA133 コネクタと共に RAID 0、RAID 1、RAID 0+1、マルチ RAID 構成を作成することができます。RAID 構成に関する詳細については、第 5 章をご覧ください。



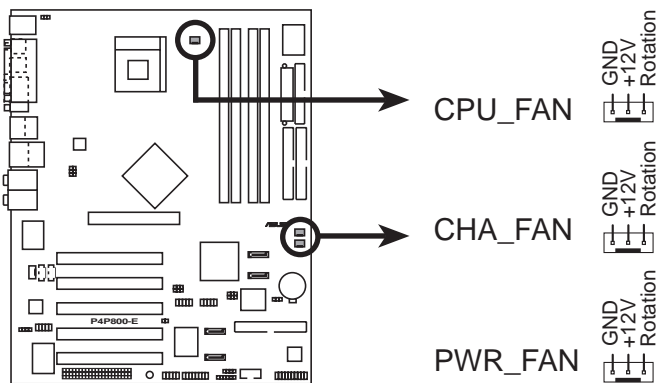
1. RAID セットを作成したい場合、シリアル ATA ケーブルを接続しシリアルATAデバイスを取り付けていることを確認してください。シリアルATAデバイスを接続していない場合、POST の間に SataRaid™ ユーティリティと SATA BIOS セットアップに入ることはできません。
2. Promise® PDC20376 RAID コントローラは CD-ROMs, DVD-ROM などの、ATAPI デバイスをサポートしていません。

6. CPU、シャーシ、電源ファンコネクタ (3ピンCPU_FAN, PWR_FAN, CHA_FAN)

ファンコネクタは350mA~740mA (8.88W 最大)の、または+12Vで合計1A~2.22A (26.64W 最大)のクーリングファンをサポートします。各ケーブルの黒いワイヤがコネクタのアース用ピンにぴったり合っていることを確認しながら、ファンケーブルをマザーボードのコネクタに接続してください。



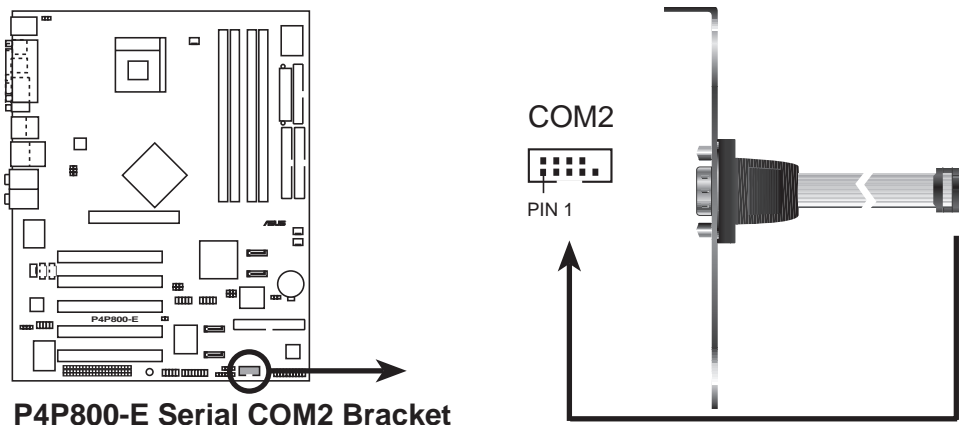
ファンケーブルをファンコネクタに接続するのを忘れないでください。システム内に十分な通気がないと、マザーボードコンポーネントが損傷することがあります。これらはジャンパではありません! ファンコネクタにジャンパキャップをかぶせないでください!



P4P800-E 12-Volt Fan Connectors

7. シリアルポート 2 コネクタ (10-1 ピン COM2)

このコネクタはシリアルポートブラケットを使用して、2番目のシリアルポートを提供しています。ブラケットケーブルをこのコネクタに接続してから、ブラケットをシステムシャーシ背面にあるスロット開口部に取り付けます。



P4P800-E Serial COM2 Bracket



シリアルポートブラケット(COM2)は別個にお買い求めください。

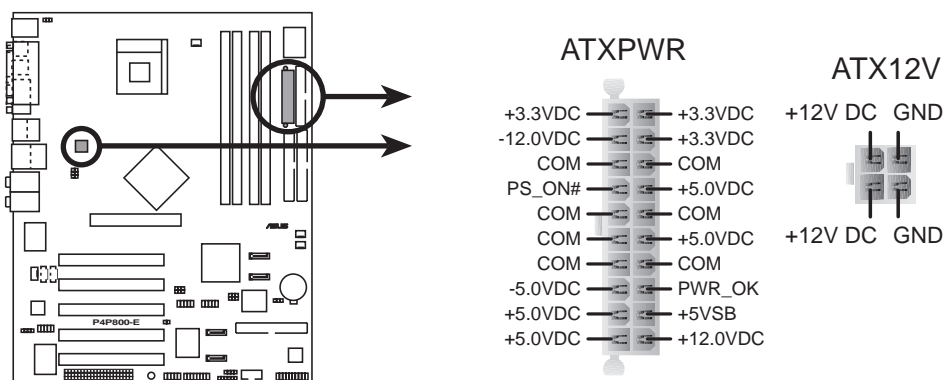
8. ATX 電源コネクタ (20ピン ATXPWR, 4ピン ATX12V)

これらのコネクタはATX 12V電源装置に接続します。電源装置から出るプラグは、一方向でのみこれらのコネクタにフィットするように設計されています。適切な方向を探し、コネクタが完全にフィットするまでしっかり押し下げます。

20ピンATXPWR1コネクタだけでなく、このマザーボードは、4ピンATX +12V電源プラグを接続して、CPUに十分な電力を提供する必要があります。



1. 4ピンATX +12V電源プラグの接続を忘れないでください。そうしないと、システムは起動できません。
2. お使いのATX 12V電源装置が+12Vリードで8Aを、および+5ボルトのスタンバイリード(+5VSB)で少なくとも1Aを提供できることを確認してください。推奨する最小のワット数は230W、または完全に構成されたシステムの場合は300Wです。適切な電流が供給されていないと、システムは不安定になったり起動できなくなります。



P4P800-E ATX Power Connectors

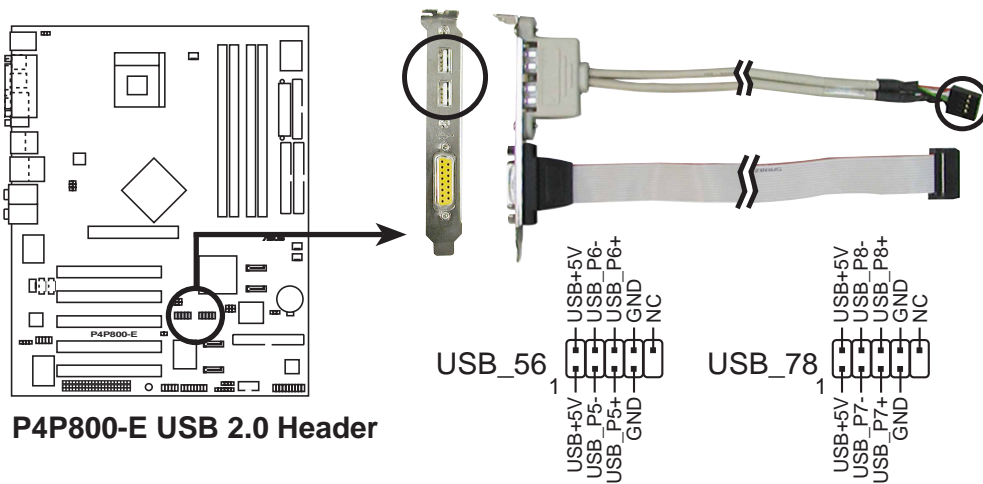
9. USB ヘッド (10-1 ピン USB56, USB78)

リアパネルのUSBポートが適切でない場合、追加USBポートに対して2つのUSBヘッドを利用できます。USBヘッドは、最大480 Mbpsの接続速度をサポートするUSB 2.0仕様でコンパイルされます。USB 1.1での従来の12 Mbpsを上回る速度によって、より高速なインターネット接続、双方向型のゲーム、高速周辺装置の同時実行が可能になります。

このヘッドにオプションのUSB 2.0/GAMEモジュールを接続してください。モジュールは2つのUSB 2.0ポートを搭載して、高解像度カメラ、スキャナ、プリンタなどの次世代USB周辺装置をサポートします。



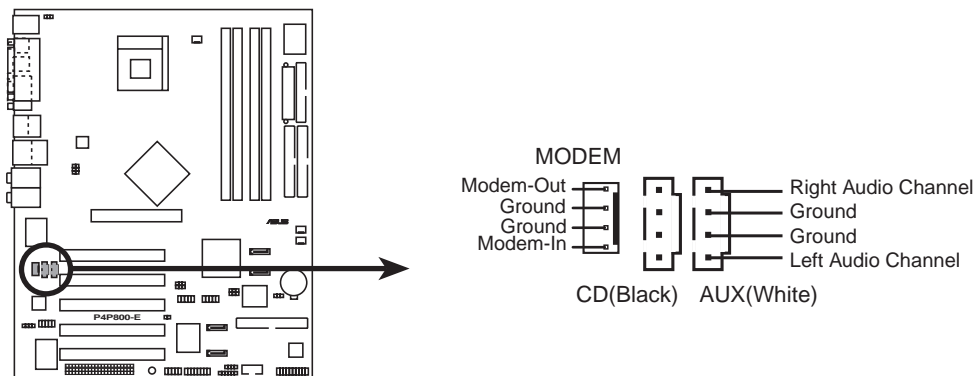
USB 2.0機能を使用する前に、ドライブをインストールする必要があります。



1394 cable を USB コネクタには絶対に接続しないでください。マザーボードが損傷する恐れがあります。

10.内部オーディオコネクタ (4ピン MODEM, CD, AUX)

これらのコネクタによって、CD-ROM、TV チューナー、MPEG カードなどのサウンドソースからステレオオーディオ入力を受信できます。モデムコネクタによって、オンボードオーディオは同様のコネクタを持つボイスモデムカードとインターフェイスを取ることができます。また、オーディオとボイスモデムカード間のmono_in（電話など）とmono_out（スピーカーなど）の共有が可能になります。



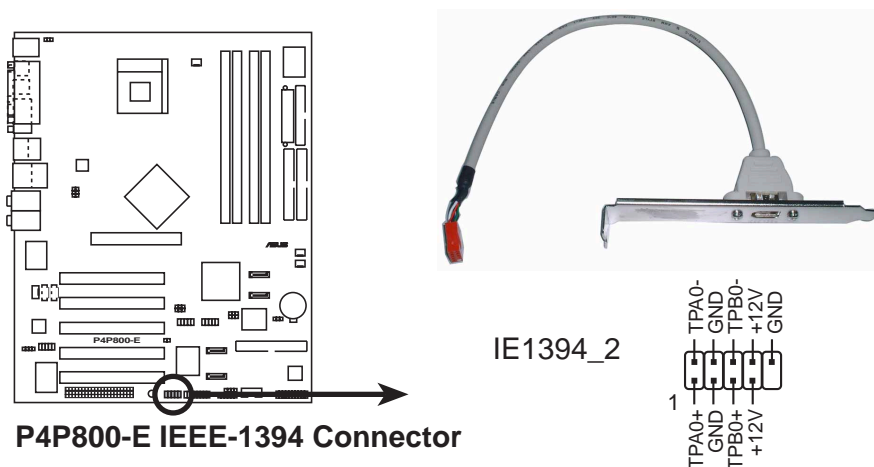
P4P800-E Internal Audio Connectors



8 チャンネルオーディオ構成の場合、AUXインはシステムリソースロケーションが原因で機能することはできません。

11.IEEE 1394 コネクタ (10-1 ピン IE1394_2)

このコネクタは、オプションの1394モジュール用です。モジュールから出る10-1 ピン1394ケーブルプラグをこのコネクタに接続します。1394準拠の内部ハードディスクをこのコネクタに接続することもできます。



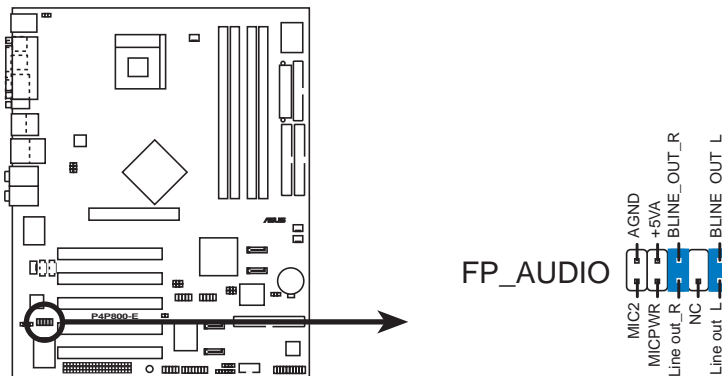
P4P800-E IEEE-1394 Connector



USB ケーブルをIEEE 1394 (orange)コネクタに、絶対に接続しないでください。マザーボードを損傷させる原因となります!

12. フロントパネルオーディオコネクタ (10-1 ピン FP_AUDIO)

これはIntelフロントパネルのオーディオケーブル用のインターフェイスで、オーディオデバイスの簡単な接続と制御を可能にしています。デフォルトで、LINE OUT_R/BLINE_OUT_RとラベルされたピンとLINE OUT_L/BLINE_OUT_Lピンは、ジャンパキャップにより短くなっています。キャップの取り外しは、フロントパネルのオーディオケーブルを接続するときのみ、行ってください。



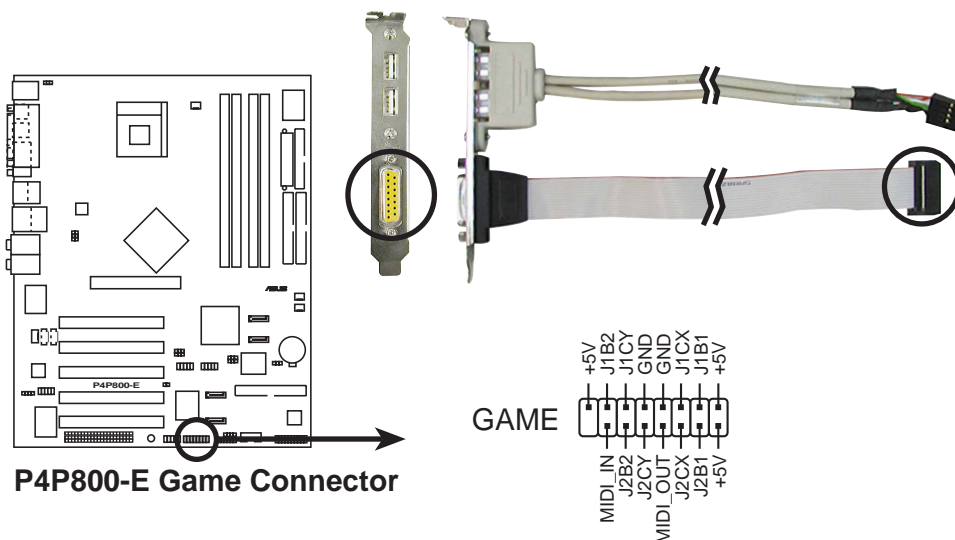
P4P800-E Front Panel Audio Connector



フロントパネルオーディオラインアウトコネクタと背面パネルラインアウトジャックは同時に使用できません。

13. GAME/MIDI コネクタ (16-1 ピンゲーム)

このコネクタはオプションのゲーム/MIDIモジュールをサポートします。ゲーム/MIDIケーブルをこのコネクタに接続してください。モジュールのゲーム/MIDIポートはゲームをプレーする場合にはジョイスティックやゲームパッドを、オーディオファイルを編集する場合にはMIDIデバイスを接続します。

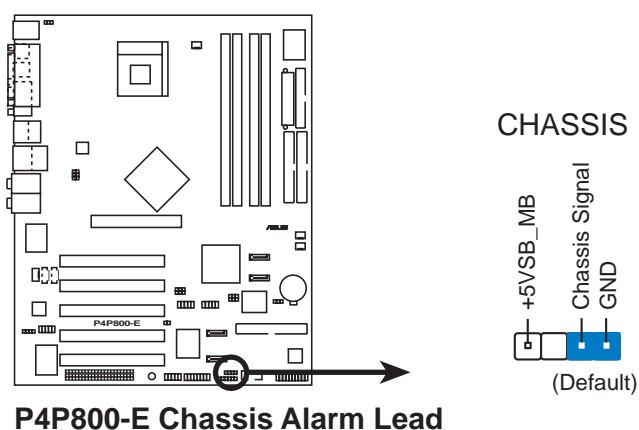


P4P800-E Game Connector

14. シャーシ侵入コネクタ (4-1 ピンシャーシ)

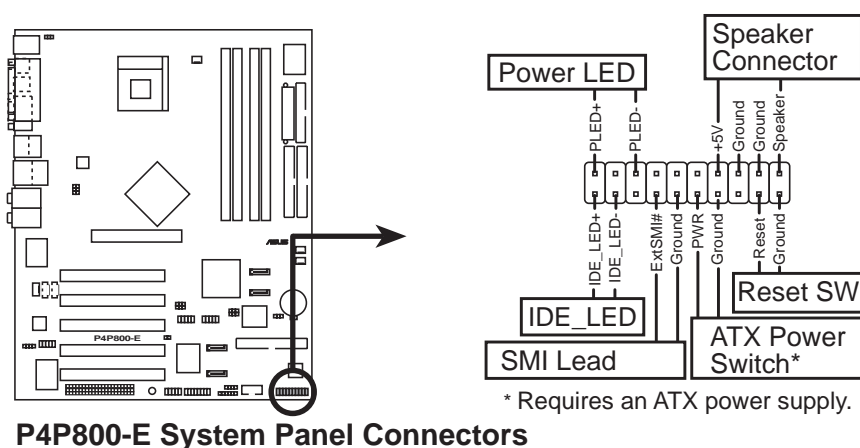
このリードは侵入検出機能で設計されたシャーシ用です。これはシャーシ侵入センサーまたはマイクロスイッチなどの、外部検出メカニズムを必要とします。シャーシコンポーネントを取り外すとき、センサーは高レベルの信号を引き起こしてこのリードに送信し、シャーシ侵入イベントを記録します。

デフォルトで、「シャーシ信号」および「アース」とラベルされたピンは、ジャンパキャップによって短くなっています。シャーシ侵入検出機能を使いたい場合、ピンからジャンパキャップを取り外してください。



15. システムパネルコネクタ (20ピン PANEL)

このコネクタは、複数のシステムフロントパネル機能を提供します。



- ・ システム電源 LED リード (緑の 3-1 ピン PLED)

この3-1 ピンコネクタはシステム電源に接続します。LED はシステムの電源をオンにすると点灯し、システムがスリープモードに入ると点滅します。

- ・ システム警告スピーカーリード (オレンジの 4ピン SPKR)
この4ピンコネクタはケースにマウントされたスピーカーに接続され、システムビープ音と警告を鳴らします。
- ・ スイッチリードのリセット (青い 2 ピン RESET)
この2ピンコネクタは、ケースにマウントされたリセットスイッチに接続し、システム電源をオフにすることなくシステムをリブートします。
- ・ ATX 電源スイッチ / ソフトオフスイッチリード (黄色の 2 ピン PWRBTN)
このコネクタは、システム電源を制御するスイッチに接続します。電源スイッチを押すとシステムはBIOSまたはOS設定に従って、オンとスリープ、またはオンとソフトオフの間で切り替わります。オンモードになっている間に電源スイッチを4秒以上押すと、システムはオフになります。
- ・ システム管理割り込みリード (ライトブルーの 2 ピン SMI)
この2ピンコネクタによって、システムを手動でサスペンドモード、または「グリーン」モードにすることができます。この場合、システムアクティビティは直ちに縮小して電力を節約し、一部のシステムコンポーネントの寿命を伸ばします。ケースにマウントされたサスペンドスイッチをこの2ピンコネクタに接続します。
- ・ ハードディスクアクティビティリード (赤い 2 ピン IDE_LED)
この2ピンコネクタはHDD LEDケーブル用です。IDEコネクタのどれかに接続されているデバイスの読み込みまたは書き込みアクティビティにより、IDE LEDが点灯します。



システムパネルコネクタは色分けされているため、簡単で確実に接続することができます。説明したように、特定のコネクタの色に注意してください。

第3章

本章では、電源オンシーケンス、ポーカル POST メッセージ、システムのシャットダウン方法について説明いたします。

基本操作

本章の内容

3.1	初めて起動する	3-1
3.2	コンピュータの電源をオフにする	3-2
3.3	ASUS POST Reporter™	3-3

3.1 初めて起動する

1. 全ての接続を行った後、システムケースのカバーを元に戻します。
2. 全てのスイッチがオフになっていることを確認してください。
3. 電源コードを、システムシャーシの背面にある電源コネクタに接続します。
4. 電源コードを、サージプロテクタに装備されているコンセントに接続します。
5. 次の順序で装置の電源をオンにします:
 - a. モニタ
 - b. 外部SCSI装置(チェーンの最後の装置からオンにする)
 - c. システム電源(ATX 電源装置を使用している場合、シャーシ前面のATX 電源スイッチを押すだけでなく、電源装置のスイッチをオンにする必要があります)。
6. 電源をオンにすると、システムのフロントパネルケースの電源LEDが点灯します。ATX電源装置の場合、システムLEDはATX電源スイッチを押したときに点灯します。モニタが「グリーン」標準に準拠している場合、または「電源スタンバイ」機能を搭載している場合、システムLEDがオンになった後にモニタLEDが点灯するか、オレンジ色になったり緑色になったりします。それから、システムは電源オンテストを実行します。テストの実行中は、BIOSがビープ音を出したり(次のBIOSビープコード表をご覧ください)、画面に追加メッセージが表示されます。電源をオンにしてから30秒たっても画面に何も表示されない場合、システムは電源オンテストに失敗した可能性があります。ジャンパ設定と接続をチェックするか、販売店に連絡してアドバイスを求めてください。
7. 電源オン時に、を押し下げているとBIOSセットアップに入ります。第4章の指示に従ってください。

3.2 コンピュータの電源をオフにする

3.2.1 OSシャットダウン機能を使用する

Windows® 98/98SE/ME/2000 を使用している場合、次の手順に従ってください:

1. スタートボタンをクリックし、シャットダウンをクリックします。
2. シャットダウンオプションボタンを選択していることを確認して、OK ボタンをクリックし、コンピュータをシャットダウンします。
3. Windows® がシャットダウンした後、電源装置をオフにする必要があります。

Windows® XPを使用している場合、次の手順に従ってください:

1. スタートボタンをクリックし、コンピュータのシャットダウンを選択します。
2. 電源オフボタンをクリックし、コンピュータをシャットダウンします。
3. Windows® がシャットダウンした後、電源装置をオフにする必要があります。

3.2.2 デュアル機能電源スイッチを使用する

システムの電源がオンになっている間電源スイッチを4秒以下押すと、システムはBIOS設定に従って、スリープモードまたはソフトオフモードに入ります。電源スイッチを4秒以上押すと、システムはBIOS設定に関わらずソフトオフモードに入ります。第4章の「4.5電源メニュー」をご覧ください。

3.3 ASUS POST Reporter™

本マザーボードはWinbondスピーチコントローラを組み込んで、ASUS POST Reporter™と呼ばれる特殊機能をサポートします。この機能はボーカルPOSTメッセージを表示して、システムイベントと起動ステータスを通知する警報を出します。起動エラーの場合、問題の特定の原因が聞こえます。

これらのPOSTメッセージは、梱包に付属するWinbond Voice Editorソフトウェアを使用してカスタマイズできます。独自のメッセージを記録して、それをデフォルトのメッセージの代わりに使用できます。

3.3.1 ボーカルPOSTメッセージ

次は、デフォルトのPOSTメッセージと対応するアクションの一覧です。

POST メッセージ	アクション
CPUが取り付けられてされていません	<ul style="list-style-type: none">・ CPU ソケットにサポートされたプロセッサを取り付けます。サポートされたプロセッサについては、「2.3 中央処理装置(CPU)」をご覧ください。
システムが CPU テストに失敗しました	<ul style="list-style-type: none">・ CPU が正しく取り付けられているかチェックします。・ ヘルプについては、ASUS 技術センターにお電話ください。本書の表紙の裏の「ASUS 連絡情報」をご覧ください。
システムがメモリテストに失敗しました	<ul style="list-style-type: none">・ サポートされた DDR DIMM をソケットに取り付けます。・ DIMMソケットのDIMMが正しく取り付けられているかチェックします。・ DIMMsに欠陥がないか確認します。・ DIMM を取り付ける指示については、「2.4 システムメモリ」を参照してください。
システムが VGA テストに失敗しました	<ul style="list-style-type: none">・ PCI VGAカードをPCIスロットのどれかに、または+0.8V/1.5V AGPカードをAGPスロットに取り付けます。・ VGA/AGPカードに欠陥がないか確認します。
CPU オーバークロッキングのためにシステム	<ul style="list-style-type: none">・ BIOSでCPU設定をチェックし、推奨される設定エラーが発生しましたのみに設定していることを確認します。

POSTメッセージ	アクション
キーボードが検出されません	<ul style="list-style-type: none"> ・ キーボードが紫色のPS/2コネクタまたはリアパネルに正しく接続されているかチェックします。 ・ コネクタの位置については、「2.7.1 背面パネルコネクタ」をご覧ください。
IDEハードディスクが検出されません	<ul style="list-style-type: none"> ・ IDEハードディスクドライブをマザーボードのIDEコネクタのどれかに接続しているか確認します。
CPU温度が高すぎます	<ul style="list-style-type: none"> ・ CPUファンが正しく作動しているかチェックします。
CPUファンエラーです	<ul style="list-style-type: none"> ・ CPUファンをチェックして、電源をシステムに取り付けた後オンになるか確認します。 ・ CPUファンがファン速度検出機能をサポートしているか確認します。
CPU 電圧が範囲外です	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電源装置をチェックして、欠陥がないことを確認します。 ・ ヘルプについては、ASUS 技術センターにお電話ください。本書の表紙の裏の「ASUS 連絡情報」をご覧ください。
システムが電源オンセルフテストを完了しました	<ul style="list-style-type: none"> ・ アクションを取る必要はありません
コンピュータはオペレーティングシステムから	<ul style="list-style-type: none"> ・ アクションを取る必要はありません 起動中です



BIOSセットアップでASUS POST Reporter™を無効にすることができます。「4.4.7 スピーチ構成」をご覧ください。

3.3.2 Winbond Voice Editor

Winbond Voice Editor は、POST音声メッセージを編集するユーティリティです。インストール方法は「5.2.3 ソフトウェア メニュー」をご覧ください。



ASUS PC Probeの動作中に Winbond Voice Editor を使用しないでください。リソースの衝突が発生します。

Winbond Voice Editorの使用方法:

プログラムの起動方法

デスクトップ上の「Winbond Voice Editor」アイコンをダブルクリックするか、スタートメニューのプログラム / Winbond Voice Editor / Voice Editor を実行します。

Winbond Voice Editor画面が表示されます。

	Voice1	Voice2	Voice3	Voice4	Voice5
CPU installation	nocpu				
NO CPU instruction	cpufail				
Memory Detection	memfail				
VGA Detection	vgafail				
Over Clocking	overclock				
PS2 Keyboard Detection	nokb				
FDD Detection	nofdd				
IDE HDD Detection	nohdd				
CPU Over temperature	overheat				
CPU Voltage Fail	voltage				
CPU FAN Fail	fanfail				
System Check OK	postok				
Start Booting	bootos				

デフォルト
メッセージ
POST
イベント

Wave ファイルの再生

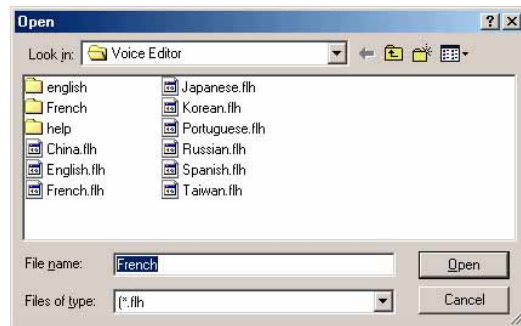
音声メッセージ(Waveファイル)を再生するには、画面左側の POST イベント欄から再生したいメッセージを選択し「Play」をクリックします。



初期設定ではメッセージは英語です。

使用する言語の変更

1. 「Load」をクリックすると有効な言語の一覧が表示されます。
2. 希望の言語を選択し「開く」をクリックします。Voice Editor画面のイベント欄に選択した言語が表示されます。



ファイルのサイズの制限のため、言語によっては、一部のメッセージが音声対応してない場合があります。

3. 「Write」をクリックします。変更した結果がBIOSのEEPROMに書き込まれます。
4. 確認画面が表示されますので「Yes」をクリックします。



次回の起動時から選択した言語が有効になります。

POST メッセージのカスタマイズ

希望の言語が一覧に表示されない場合や独自のメッセージを使用したい場合、以下の方法でメッセージをご自分で録音することができます。

POST音声メッセージのカスタマイズ方法

1. Voice Editor 画面の左側にあるイベント一覧の内容をメモ用紙などに控えてください。
2. 各イベントに対するメッセージを考えます。



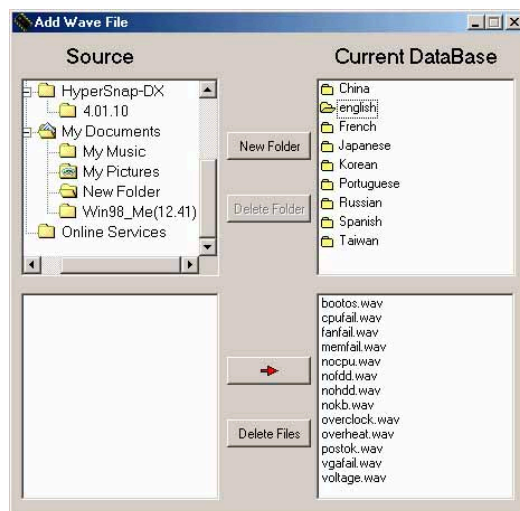
メッセージのサイズには制限があります。圧縮後のサイズでメッセージ全部の合計が1Mビット以下です。メッセージはなるべく短くしてください。

3. WAVEファイルを録音できるソフトウェア(Windowsのサウンドレコーダーなど)でメッセージを録音します。
4. メッセージはWAVE形式(.WAV)で保存してください。サイズを小さくするために音質が劣化しない程度に圧縮してください。例えば、8ビット、モノラル、サンプリングタイム 22kHz が適当です。

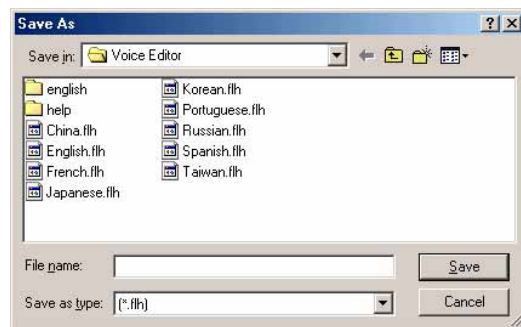
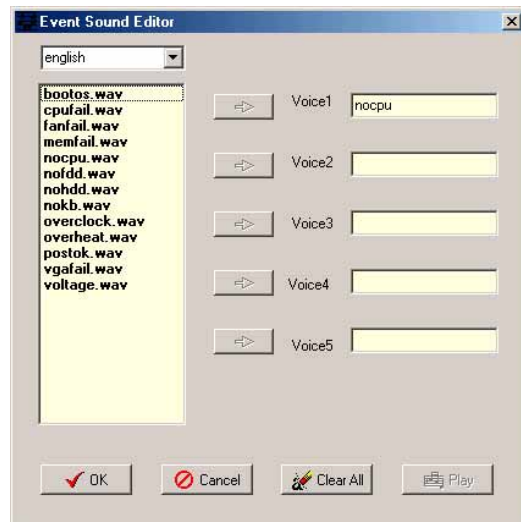


保存するファイルは、専用のフォルダを作成し、そこに保存することをお勧めします。

5. Voice Editor を起動します。
「Add」をクリックするとWAVEファイルの一覧が表示されます。
6. 作成したオリジナルのWAVEファイルを Voice Editor のデータベースにコピーします。



7. Voice Editor 画面に戻り、変更したいPOSTイベントを選択し「Edit」をクリックします。Event Sound Editor 画面が表示されます。
8. イベントに設定したいWAVEファイルを選択し「Voice1」の左側にある矢印をクリックします。選択したファイルが右側のボックス内に表示されます。
9. 「OK」をクリックし、もとの画面に戻ります。
10. 必要なだけ7項から9項を繰り返します。
11. 「Save」をクリックします。設定の保存画面になります。
12. 設定ファイルに名前をつけ保存します。拡張子は「.flh」になります。「Save」をクリックします。
13. 「Write」をクリックします。変更結果がBIOSのEEPROMに書き込まれます。
14. 確認画面が表示されますので「Yes」をクリックします。



ファイルサイズをオーバーした、というエラーメッセージが表示された場合は、以下の1つ、またはすべてを実行してみてください。

- ・ メッセージの録音時間を短くします。
- ・ WAVEファイルの品質を低くして保存します。
- ・ あまり発生することのないイベント(FDD Detection, IDE HDD Detectionなど)に対するメッセージは設定しないようにします。

第4章

BIOSセットアップを用いたマザーボードの設定方法を説明します。BIOSパラメータの詳しい解説があります。

BIOSセットアップ

本章の内容

4.1	BIOSの管理と更新	4-1
4.2	BIOSセットアッププログラム	4-9
4.3	メインメニュー	4-12
4.4	詳細メニュー	4-16
4.5	電源メニュー	4-28
4.6	ブートメニュー	4-32
4.7	メニューの終了	4-37

4.1 BIOSの管理と更新

次のユーティリティは、マザーボードの基本入出力システム(BIOS)セットアップを管理し更新します。

1. ASUS AFUDOS - DOS モードで起動可能なフロッピーディスクを使用してBIOSを更新します。
 2. ASUS EZ Flash - POST 中にフロッピーディスクを使用して BIOSを更新します。
 3. ASUS CrashFree BIOS 2 - 起動可能なフロッピーディスクまたはマザーボードサポートCDを使用して、BIOS を更新します。
 4. ASUS Update - Windows® 環境で BIOS を更新します。
- これらのユーティリティの詳細については、対応する項を参照してください。

重要な注



将来BIOSを復元する必要がある場合に備えて、オリジナルのマザーボードBIOSファイルのコピーを起動可能なフロッピーディスクに保存してください。ASUS更新またはAFUDOSユーティリティを使用して、オリジナルのマザーボードBIOSをコピーします。

ASUSのWebサイトにアクセスし、ASUS更新ユーティリティを使用してこのマザーボード用の最新のBIOSファイルをダウンロードしてください。

4.1.1 起動可能なフロッピーディスクの作成

1. 次のどれかを実行して、起動可能なフロッピーディスクを作成してください。

DOS環境

1.44 MB のフロッピーディスクをドライブに挿入します。DOSプロンプトで、次を入力します:

`format A:/S` 次に<Enter>を押します。

Windows® 98SE/ME/2000/XP環境

- a. 1.44 MB のフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
- b. Windows デスクトップから、Start (スタート) をクリックし、My Computer (マイコンピュータ) を選択します。
- c. 3 1/2 Floppy Drive (3 1/2 フロッピードライブ) アイコンを選択します。
- d. メニューからFile (ファイル) をクリックし、Format (フォーマット) を選択します。Format 3 1/2 Floppy Disk (3 1/2 フロッピーディスクのフォーマット) ウィンドウが表示されます。
- e. Windows® XP を使用している場合、フォーマットオプションフィールドから Create an MS-DOS startup disk (MS-DOS起動ディスクの作成) を選択し、Start (スタート) をクリックします。

または

Windows® 98SE/ME/2000 を使用している場合、フォーマットのタイプから、Full (完全) オプションボタンを選択し、Start (スタート) をクリックします。

2. オリジナルの（または最新の）マザーボードBIOSをブート可能なフロッピーディスクにコピーします。

4.1.2 AFUDOSを使用してBIOSを更新する

DOS環境でAFUDOS.EXEユーティリティを使用してBIOSを更新します。

1. ASUSのWebサイト(www.asus.com)にアクセスして、マザーボードの最新のBIOSファイルをダウンロードしてください。BIOSファイルは、ブート可能なフロッピーディスクに保存してください。



BIOSファイル名を紙に書き留めてください。プロンプトで正確なBIOSファイル名を入力する必要があります。

2. サポートCDからBIOSファイルを含むブート可能なフロッピーディスクにAFUDOS.EXEユーティリティをコピーします。
3. フロッピーディスクからシステムをブートします。
4. DOSプロンプトで、コマンドラインを入力します。
`afudos /i<filename.rom>`

"filename.rom"は、ブート可能なフロッピーディスクにコピーした最新の（またはオリジナルの）BIOSファイルを意味します。

画面は更新プロセスのステータスを表示します。



画面のBIOS情報は参照のためのものです。画面に表示される情報は、次の情報と異なっていることがあります。

```
A:\>afudos /iP4P800E.rom
AMI Firmware Update Utility - Version 1.10
Copyright (C) 2002 American Megatrends, Inc. All rights reserved.

Reading file ..... done
Erasing flash .... done
Writing flash .... 0x0008CC00 (9%)
```



BIOSを更新している間、システムをシャットダウンまたはリセットしないでください! システムのブートエラーの原因となります!

BIOSの更新プロセスが完了したら、ユーティリティはDOSプロンプトに戻ります。

```
A:\>afudos /ip4p800e.rom
AMI Firmware Update Utility - Version 1.10
Copyright (C) 2002 American Megatrends, Inc. All rights reserved.

Reading file ..... done
Erasing flash .... done
Writing flash .... 0x0008CC00 (9%)
Verifying flash .. done

A:\>
```

5. ハードディスクからシステムをリブートします。

4.1.3 AFUDOSを使用してPCからBIOSをコピーする

AFUDOS.EXE ユーティリティは、現在のシステムBIOS設定をフロッピーディスクまたはハードディスクにコピーするためにも使用されます。コピーは、システムBIOSがエラーを起こしたり破損した場合のバックアップとして使用できます。

1. DOSプロンプトで、次のようにコマンドラインを入力します。

`afudos /o<ファイル名>`

"ファイル名"には、メインのファイル名として(8)文字以下の英数字と拡張子として(3)文字以下の英数字からなるファイル名を、ユーザーが自由に入れることができます。

2. Enterキーを押します。



画面のBIOS情報は、参照専用です。実際の画面の表示は、図に表示されるものとまったく同じでないこともあります。

メインのファイル名

拡張子

```
A:\>afudos /oMYBIOS03.rom
AMI Firmware Update Utility - Version 1.10
Copyright (C) 2002 American Megatrends, Inc. All rights reserved.

Reading flash ..... 0x0008CC00 (9%)
```

- ユーティリティは、デフォルトで現在のシステムBIOSをフロッピーディスクにコピーします。フロッピーディスクが書き込み禁止になっていないか、ファイルを格納するだけの十分なスペース（少なくとも600 KB）があるかを確認してください。

```
A:\>afudos /oMYBIOS03.rom
AMI Firmware Update Utility - Version 1.10
Copyright (C) 2002 American Megatrends, Inc. All rights reserved.

Reading flash ..... done

A:\>
```

BIOSのコピープロセスが完了したら、ユーティリティはDOSプロンプトに戻ります。

4.1.4 ASUS EZフラッシュを使用して、BIOSを更新する

ASUS EZフラッシュ機能により、ディスクから長い起動プロセスを行ったりDOSベースのユーティリティを使用しなくても、BIOSを簡単に更新できます。EZフラッシュはBIOSファームウェアに組み込まれているため、電源オンセルフテスト(POST)の間に<Alt> + <F2>を押すだけでアクセスできます。

ASUS EZを使用してBIOSを更新するには、次の手順を実行します。

- ASUSのWebサイト(www.asus.com)にアクセスしてマザーボードの最新のBIOSファイルをダウンロードし、そのファイル名をP4P800-E.ROMに変更します。BIOSファイルをフロッピーディスクに保存します。
- システムをリブートします。
- EZフラッシュを起動するには、POSTの間に<Alt> + <F2>を押して次を表示します。

```
User recovery requested. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
```



- ドライブにフロッピーディスクが見つからない場合、「フロッピーが見つかりません」というエラーメッセージが表示されます。
- フロッピーディスクに正しいBIOSファイルが見つからない場合、「P4P800-E.ROMが見つかりません!」というエラーメッセージが表示されます。

4. BIOSファイルを含むフロッピーディスクを挿入します。
P4P800-E.ROM ファイルがフロッピーディスクに見つからない場合、EZフラッシュはBIOS更新プロセスを実行し、プロセスが完了したらシステムを自動的にリブートします。



BIOSを更新している間、システムをシャットダウンまたはリセットしないでください! システムのブートエラーが発生する原因となります!

```
User recovery requested. Starting BIOS recovery...  
Checking for floppy...  
Floppy found!  
Reading file "P4P800-E.rom". Completed.  
Start flashing...  
Flashed successfully. Rebooting.
```

4.1.5 CrashFree BIOS 2でBIOSを回復する

CrashFree BIOS 2自動回復ツールにより、マザーボードの現在のBIOSがエラーを起こしたり破損した場合、マザーボードのサポートCDから、またはBIOSファイルを含むフロッピーディスクからBIOSを自動的に回復できます。



1. BIOS更新プロセスを続行する前に、マザーボードに付属するサポートCDまたはマザーボードBIOS (P4P800-E.ROM) を含むフロッピーディスクを準備します。
2. オリジナルのマザーボードBIOSのコピーをブート可能なフロッピーディスクに保存している場合、このディスクを使用してBIOSを回復することもできます。「4.1.1 ブート可能なフロッピーディスクを作成する」をご覧ください。

フロッピーディスクからBIOSを回復するには、次の手順を実行します。

1. システムをブートします。
2. 破損したBIOSが検出された場合、次のメッセージが表示されます。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...  
Checking for floppy...
```

3. このマザーボードのオリジナルの、または最新のBIOSファイル (P4P800-E.ROM)を含むフロッピーディスクを挿入します。ASUSのWebサイトからダウンロードしたBIOSファイルが異なるファイル名 (例、P4P800-E11.ROM))を持っている場合、そのファイル名をP4P800-E.ROMに変更します。P4P800-E.ROMが見つかり、BIOS更新プロセスが続行します。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
Floppy found!
Reading file "P4P800-E.ROM". Completed.
Start flashing...
```



BIOSを更新している間、システムをシャットダウンしたりリセットしないでください! システムのブートエラーの原因となります!

4. BIOSの更新プロセスが完了したら、システムをリブートしてください。

サポートCDからBIOSを回復するには、次の手順を実行します。

1. システムをブートします。
2. 破損したBIOSが検出されたら、次の画面メッセージが表示されます。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
```



ドライブにフロッピーディスクが見つからない場合、システムはCD-ROM.を自動的にチェックします。

3. CD-ROM.にサポートCDを設置します。サポートCDには、このマザーボードのオリジナルBIOSが含まれています。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
Floppy not found!
Checking for CD-ROM...
CD-ROM found.
Reading file "P4P800-E.ROM". Completed.
Start flashing...
```



BIOSを更新している間、システムをシャットダウンしたりリセットしないでください! システムのブートエラーの原因となります!

4. BIOSの更新プロセスが完了したら、システムをリブートしてください。



回復されたBIOSは、このバイオスの最新のBIOSバージョンでないことがあります。ASUSのWebサイト(www.asus.com)にアクセスして、最新のBIOSファイルをダウンロードしてください。

4.1.6 ASUS Update (更新)

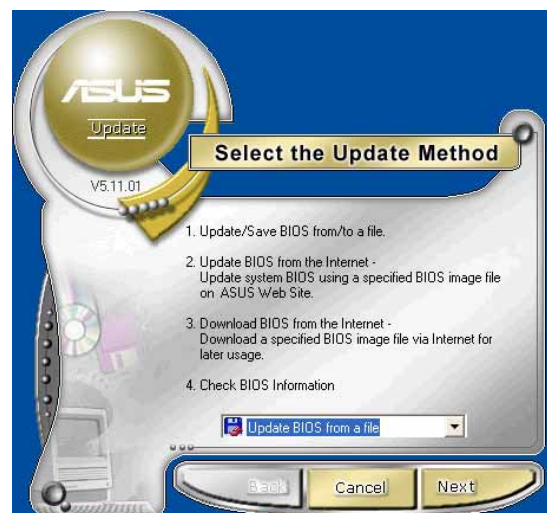
ASUS Update(更新)は、Windows® 環境でマザーボード BIOS を更新するユーティリティです。このユーティリティはマザーボードパッケージに付属するサポートCDでご利用になれます。ASUS Update(更新)には、ネットワークまたはインターネットサービスプロバイダ(ISP)を通して、インターネットに接続する必要があります。

ASUS 更新をインストールするには、次の手順に従います:

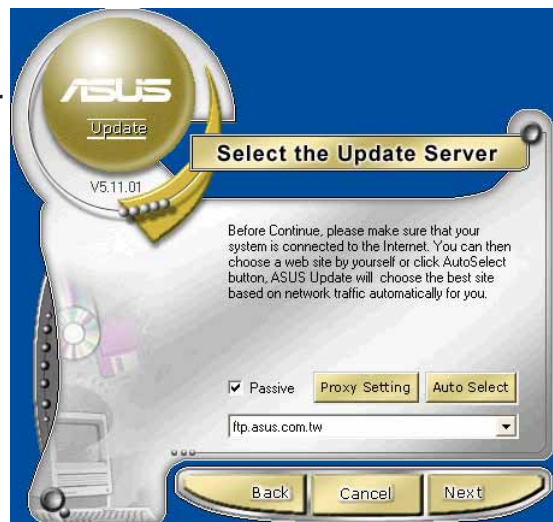
1. サポート CD を CD-ROMドライブに挿入します。Drivers (ドライバ) メニューが表示されます。
2. Utilities (ユーティリティ) タブをクリックし、Install ASUS Update VX.XX.XX (ASUS更新VX.XX.XXのインストール) をクリックします。Utilities (ユーティリティ) のメニュー画面については、5-3 ページをご覧ください。
3. ASUS Update(更新)ユーティリティがシステムにコピーされます。

ASUS更新を使用して BIOS を更新するには、次の手順に従います:

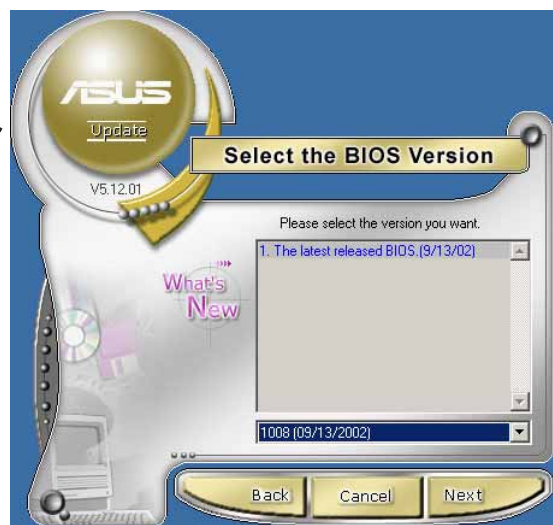
1. Windows のスタートメニューから以下を実行します:
Start > Programs > ASUS > ASUSUpdate > ASUSUpdate. ASUS Update画面が表示されます。
2. アップデート方法を選択し「Next」をクリックします。



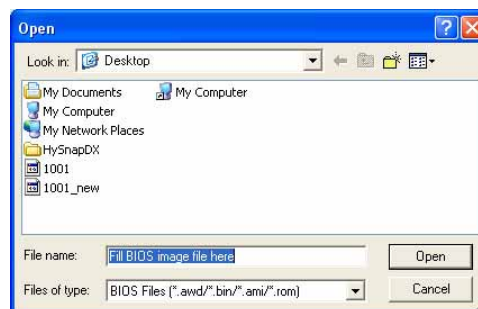
3. 「updating/downloading from the Internet」を選択した場合、適当な ASUS FTP サイトを選択するか「Auto Select(自動選択)」を選択します。「Next」をクリックします。



4. FTP サイトから、希望の BIOS のバージョンを選択します。
5. 画面の指示に従ってアップデートを行います。



ファイルからアップデートする場合、BIOSファイルが保存されている場所を選択します。BIOSファイルを選択し「保存」をクリックします。画面の指示に従ってアップデートを行います。



4.2 BIOSセットアッププログラム

本マザーボードはプログラム可能なファームウェアハブをサポートしており、「4.1 BIOSの管理と更新」で述べた付属ユーティリティを使用して更新できます。

マザーボードを取り付けているとき、システムを再構成しているとき、または「セットアップの実行」を指示されたとき、BIOSセットアッププログラムを使用してください。本項では、このユーティリティを使用して構成する方法を説明します。

セットアッププログラムを使用するように指示されない場合でも、将来コンピュータの構成を変更する必要がある場合もあります。例えば、セキュリティパスワード機能を有効にしたり、電源管理設定を変更する必要があるかもしれません。この場合、コンピュータがこれらの変更を認識してファームウェアハブのCMOS RAMでそれらの変更を記録できるように、BIOSセットアッププログラムを使用してシステムを再構成する必要があります。

マザーボードのファームウェアハブには、セットアップユーティリティが格納されています。コンピュータを起動するとき、システムはこのプログラムを実行する機会を提供します。電源オンセルフテスト(POST)の間、<Delete>を押してセットアップユーティリティに入ってください。<Delete>を押さないと、POSTはテストルーチンを続行します。

POST後にセットアップに入る場合、<Ctrl> + <Alt> + <Delete>を押して、システムシャシのリセットボタンを押して、システムを再起動してください。システムの電源をオフにしてから再びオンにすることも、再起動できます。これは、最初の2つが失敗した場合に、最後の選択肢としてのみ行ってください。

セットアッププログラムは、できるだけ使いやすいように設計されています。これは、メニュー制御のプログラムです。これによって、さまざまなサブメニューをスクロールし、ナビゲーションキーを使用して利用可能なオプションから選択できることとなります。



BIOS設定を変更した後、システムが不安定になった場合、デフォルトの設定をロードしてシステムの安定性を確認してください。終了メニューの下で、デフォルト設定のロードを選択します。「4.7 終了メニュー」をご覧ください。



1. 本章で示したBIOSセットアップ画面は、参照のためのものです。画面の表示と全く同じでないこともあります。
 2. ASUSのWebサイト(www.asus.com)にアクセスして、最新の製品とBIOS情報をダウンロードしてください。
-

4.2.1 BIOSメニュー画面

メニューアイテム メニューバー 構成フィールド 全般ヘルプ

サブメニューバー ナビゲーションキー

4.2.2 メニューバー

画面上部のメニューには、次のメインアイテムがあります。

メイン	基本構成システムを変更
詳細	システムの詳細設定を変更
電源	拡張電源管理(APM)構成を変更
ブート	システムブート構成を変更
終了	終了オプションを選択し、デフォルトの設定をロード

メニューバーのアイテムを選択するには、希望するアイテムが強調表示されるまで、キーボードの右または左矢印キーを押します。

4.2.3 ナビゲーションキー

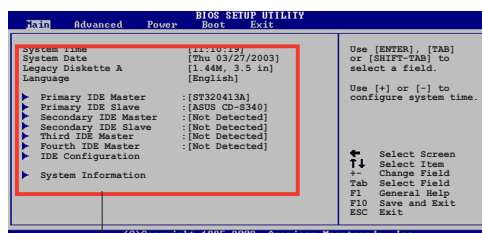
メニュー画面の右下隅にはその特定メニューのナビゲーションキーがあります。ナビゲーションキーを使用すると、メニューのアイテムを選択して設定を変更できます。



一部のナビゲーションキーは、画面ごとに異なっています。

4.2.4 メニューアイテム

メニューバーの強調表示されたアイテムは、そのメニューに特定のアイテムを表示します。例えば、メインを選択すると、メインのメニューアイテムが表示されます。



メニューバーのその他のアイテム（詳細、電源、ブート、終了）には、それぞれのメニューアイテムがあります。

メインメニュー
アイテム

4.2.5 サブメニューアイテム

全てのメニュー画面でサブメニューのあるアイテムは、アイテムの前の黒三角で区別されています。サブメニューを表示するには、アイテムを選択してEnterを押します。

4.2.6 構成フィールド

これらのフィールドは、メニューアイテムの値を表示します。アイテムがユーザー構成可能である場合、アイテムの反対のフィールドの値を変更できます。ユーザー構成可能でないアイテムは、変更することができません。

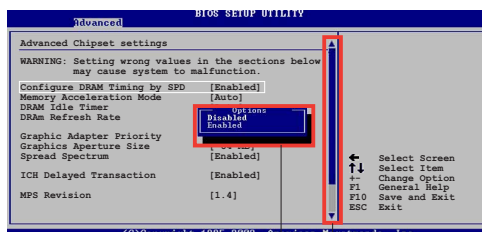
構成可能なフィールドはカッコで囲まれ、選択すると強調表示されます。フィールドの値を変更するには、その値を選択してからEnter押し、オプションの一覧を表示します。「4.2.7 ポップアップウィンドウ」を参照してください。

4.2.7 ポップアップウィンドウ

メニューアイテムを選択してからEnterを押すと、そのアイテムの構成オプションの付いたポップアップウィンドウが表示されます。

4.2.8 スクロールバー

スクロールバーは、画面に収まりきらないアイテムがあるとき、メニュー画面の右側に表示されます。上/下矢印キーまたはPageUp/PageDownキーを押すと、画面に他のアイテムが表示されます。



ポップアップ
ウィンドウ

スクロールバー

4.2.9 全般ヘルプ

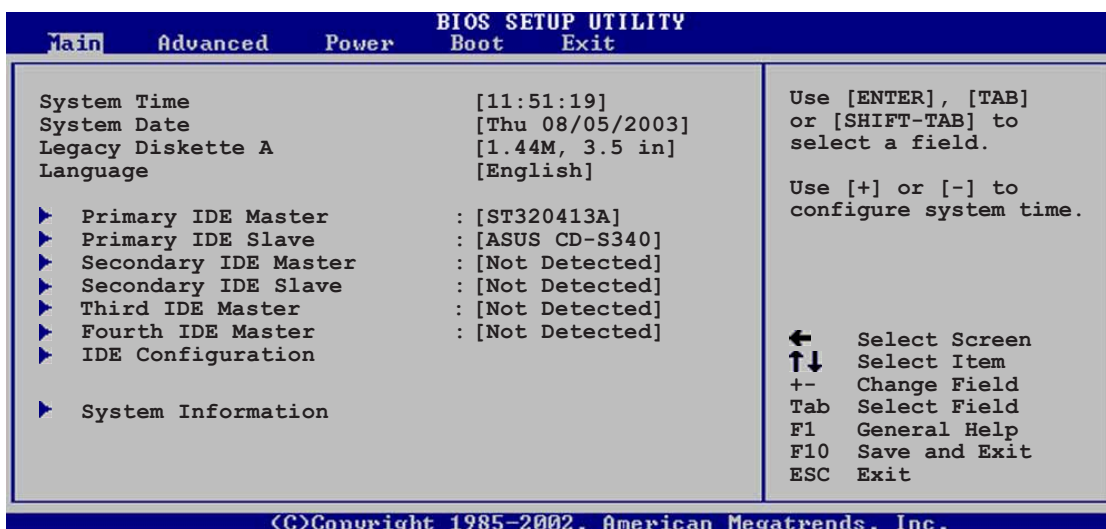
メニュー画面の右上隅には、選択したアイテムの簡単な説明が表示されます。

4.3 メインメニュー

BIOSセットアッププログラムに入るとき、メインのメニュー画面が表示され、基本システム情報の概要が提供されます。



メニュー画面アイテムの情報およびその情報をナビゲートする方法については、「4.2.1 BIOSメニュー画面」を参照してください。



4.3.1 System Time [xx:xx:xxxx]

このアイテムによって、システム時間を設定できます。

4.3.2 System Date [Day xx/xx/xxxx]

このアイテムによって、システムの日付を設定できます。

4.3.3 Legacy Diskette A [1.44M, 3.5 in.]

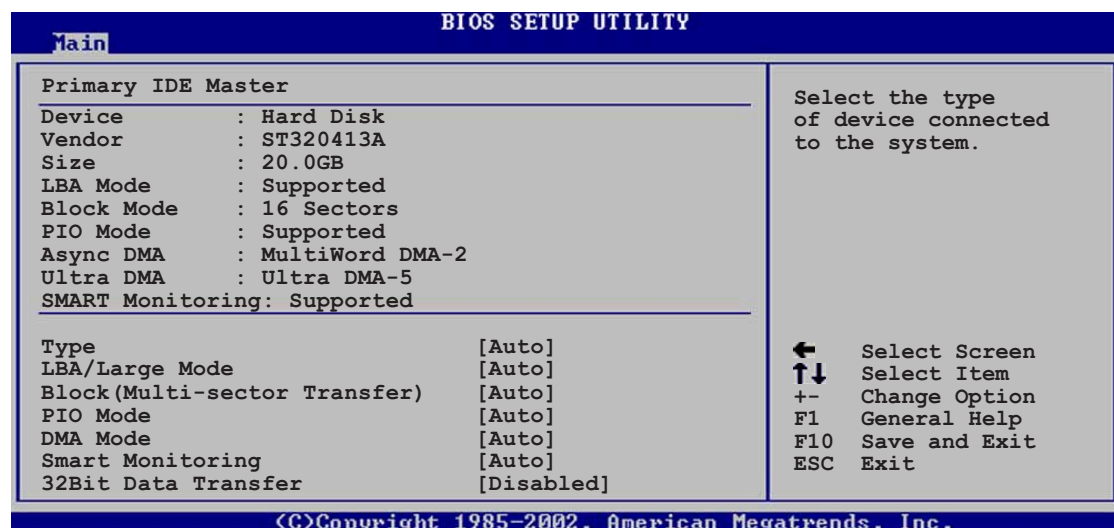
取り付けられているフロッピードライブのタイプを設定します。構成オプション: [無効] [360K, 5.25 in.] [1.2M, 5.25 in.] [720K, 3.5 in.] [1.44M, 3.5 in.] [2.88M, 3.5 in.]

4.3.4 Language [English]

このフィールドによって、利用可能なオプションからBIOS言語バージョンを選択できます。 [Fransais] [German] [English]

4.3.5 1次および2次IDE マスタ/スレーブ

セットアップに入っている間、BIOSはIDEデバイスの存在を自動検出します。それぞれのIDEデバイスに対して個々のサブメニューがあります。デバイスのアイテムを選択してからEnterを押すと、IDEデバイス情報が表示されます。



淡色表示されたアイテム（デバイス、ベンダー、サイズ、LBAモード、PIOモード、Async DMA、Ultra DMA、SMART監視）の反対側にある値はBIOSによって自動検出され、ユーザーの側で構成することはできません。これらのアイテムは、IDEがシステムに取付けられていなければ、N/Aを表示します。

Type [Auto]

IDEドライブのタイプを選択します。CD-ROMドライブを特別に構成しているとき、Autoを設定することによって、適切なIDEデバイスタイプを自動選択することができます。お使いのデバイスがZIP、LS-120、MOドライブのどれかである場合、ARMD (ATAPIリムーバブルメディアデバイス)を選択してください。構成オプション: [Not Installed] [Auto] [CDROM] [ARMD]

LBA/Large Mode [Auto]

LBAモードの有効/無効を切り替えます。デバイスがこのモードをサポートしていればLBAモードを自動有効に設定します。また、デバイスがLBAモードで前もってフォーマットされていない場合、無効に設定します。構成オプション: [Disabled] [Auto]

Block (Multi-sector Transfer) [Auto]

マルチセクタ転送の有効/無効を切り替えます。自動に設定されているとき、デバイスからのまたはデバイスへのデータ転送は、デバイスがマルチセクタ機能をサポートしている場合、一度で複数のセクタを発生します。無効に設定されている場合、デバイスからのまたはデバイスへのデータ転送は、一度で1つのセクタを発生します。構成オプション: [Disabled] [Auto]

PIO Mode [Auto]

PIOモードを選択します。構成オプション: [Auto] [0] [1] [2] [3] [4]

DMA Mode [Auto]

DMAモードを選択します。構成オプション: [Auto] [SWDMA0] [SWDMA1] [SWDMA2] [MWDMA0] [MWDMA1] [MWDMA2] [UDMA0] [UDMA1] [UDMA2] [UDMA3] [UDMA4] [UDMA5]

SMART Monitoring [Auto]

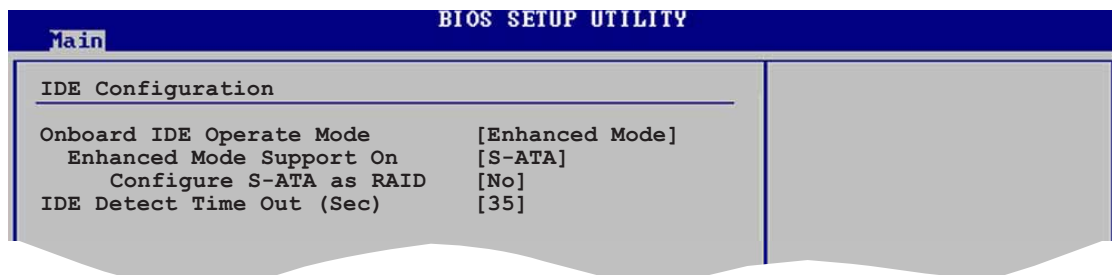
Smartモニタリング、分析、リポーティングテクノロジーを設定します。構成オプション: [Auto] [Disabled] [Enabled]

32Bit Data Transfer [Disabled]

32ビットデータ転送の有効/無効を切り替えます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

4.3.6 IDE構成

このメニューのアイテムによって、システムに取付けられているIDEデバイスの構成を設定または変更できます。アイテムを選択したい場合、アイテムを選択してから、Enterを押してください。



Onboard IDE Operate Mode [Enhanced Mode]

インストールされているオペレーティングシステム(OS)に従って、IDE操作モードを選択できます。Windows 2000/XPなどのネイティブOSを使用している場合、詳細モードに設定します。MS-DOS、Windows ME/98/NT4.0などの古いタイプのOSを使用している場合、互換モードに設定します。

構成モード: [Compatible Mode] [Enhanced Mode]

Enhanced Mode Support On [S-ATA]

デフォルトS-ATA設定により、シリアルATAおよびパラレルATAポートでネイティブのOSを使うことができます。OS互換性を損なう原因となるので、デフォルトの設定を変更しないようにお勧めします。この設定で、シリアルATAデバイスを一切取り付けていない場合のみ、パラレルATAポートで古いタイプのOSを使用できます。

P-ATA+S-ATA とP-ATA オプションは上級ユーザー専用です。これらのオプションのどれかを設定して問題が発生した場合、デフォルト設定S-ATAに戻ってください。

構成オプション: [P-ATA+S-ATA] [S-ATA] [P-ATA]



エンハンスドモードサポートオンは、アイテムオンボードIDE操作モードがエンハンスドモードに設定されている場合のみ、表示されます。

IDE Port Settings [Primary P-ATA+S-ATA]

古いタイプのオペレーティングシステムを使用している場合、IDEポートの選択をアクティブにできます。1次パラレルATAとシリアルATAポートを使用したい場合、[Primary P-ATA+S-ATA]に設定します。または、その代わりに2次P-ATAポートを有効にするには、[Secondary P-ATA+SATA]に設定します。[P-ATA Ports Only]に設定すると、ICH5によってサポートされる2つのシリアルATAポートを無効にします。構成オプション: [Primary P-ATA+S-ATA] [Secondary P-ATA+S-ATA] [P-ATA Ports Only]



IDEポート設定は、アイテムオンボードIDE操作モードが互換モードに設定されている場合のみ表示されます。

Configure S-ATA as RAID [No]

このフィールドはS-ATAを構成してコントローラまたはRAIDとして機能します。構成オプション: [Yes] [No]

Serial ATA BOOTROM [Enabled]

このフィールドは、シリアルATAブートROMの有効/無効を切り替えます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]



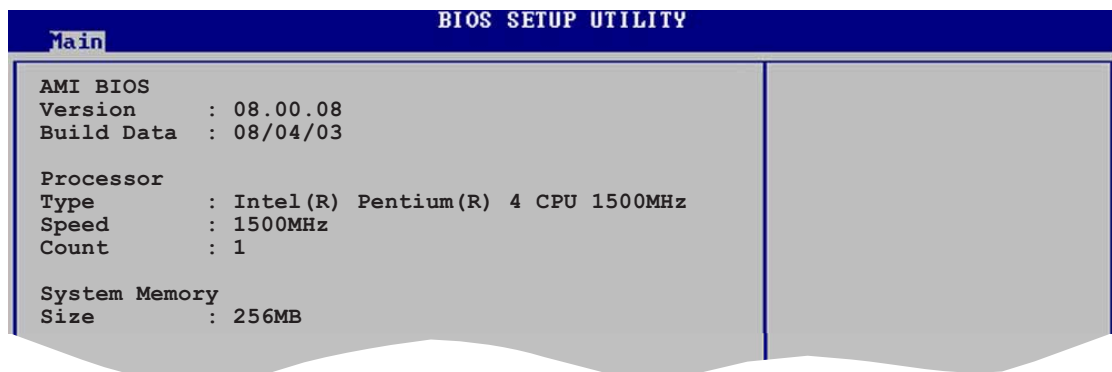
シリアルATA BOOTROM アイテムは、RAIDとしてS-ATAを構成するが[Yes]に設定されているときのみ、表示されます。

IDE Detect Time Out [35]

ATA/ATAPIデバイスを検出するためのタイムアウト値を選択します。構成オプション: [0] [5] [10] [15] [20] [25] [30] [35]

4.3.7 システム情報

このメニューは、全般的システム仕様の概観を提供します。メニューのアイテムはBIOSにより自動検出されます。



AMI BIOS

このアイテムは、自動検出されたBIOS情報を表示します。

Processor

このアイテムは、自動検出されたCPU仕様を表示します。

System Memory

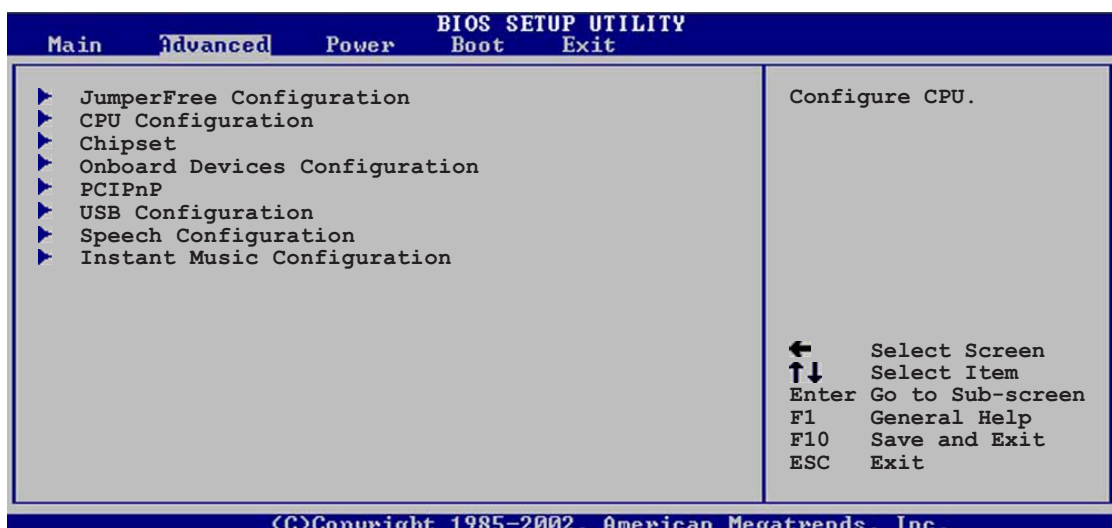
このアイテムは、自動検出されたシステムメモリを表示します。

4.4 詳細メニュー

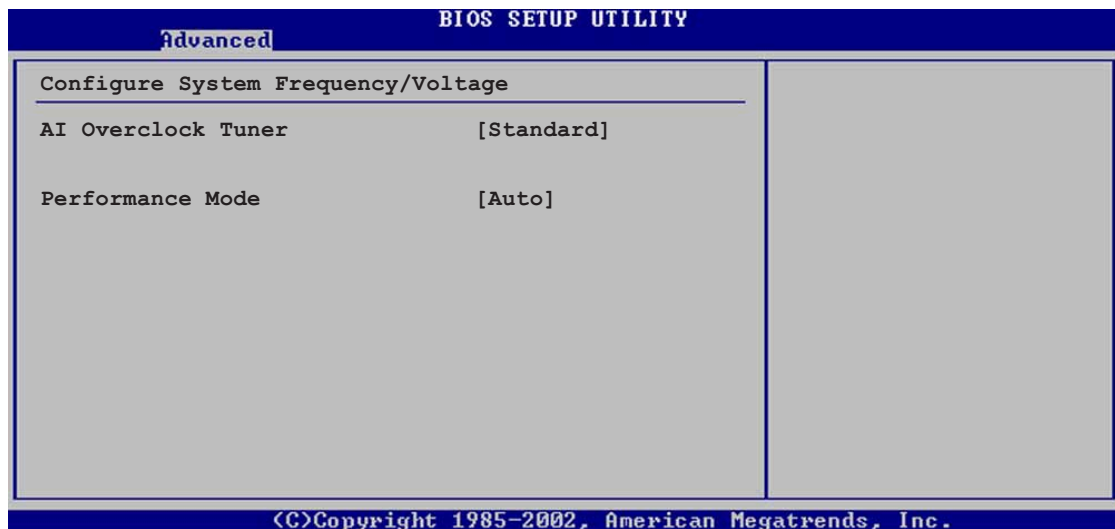
詳細メニューアイテムにより、CPUおよびその他のシステムデバイス用の設定を変更できます。



詳細メニューアイテムの設定を変更するときは、注意してください。フィールド値を間違えると、システムが誤作動する原因となります。



4.4.1 ジャンプフリー構成



AI Overclock Tuner [Standard]

希望する内部CPU周波数を達成するために、CPUオーバークロックオプションを選択できるようにします。現在のオーバークロックオプションのどれかを選択してください。構成オプション: [Manual] [Standard] [Overclock 5%] [Overclock 10%] [Overclock 20%] [Overclock 30%]



きわめて高いCPU周波数を選択すると、システムが不安定になります! この場合、デフォルト設定に戻してください。



ロックされていないCPUを使用している場合、アイテムCPU比がAIオーバークロックチューナーアイテムの下に表示されます。利用可能なオプションから、希望する比を選択することができます。

CPU Ratio [12]

このフィールドは、CPUコアクロックとフロントとサイドバス(FSB)周波数の間の比を設定します。

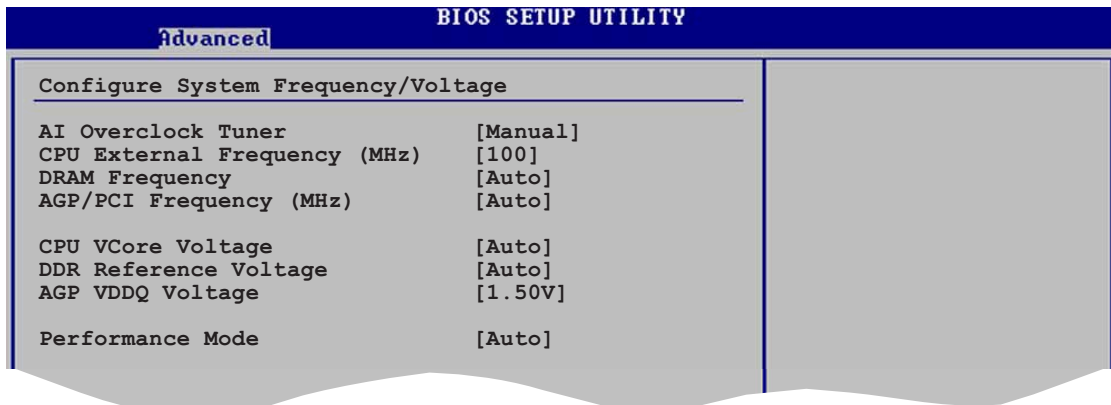


無効な比がCMOSで設定されていると、実際の値と設定値は異なります。

Performance Mode [Auto]

エンハンスドシステムパフォーマンスを可能にします。[Turbo]に設定すると、システムは不安定になります。この場合、デフォルトの設定 [Auto]に戻してください。構成オプション: [Auto] [Standard] [Turbo]

AIオーバークロックチューナーアイテムを[Manual]に設定すると、関連するオーバークロックアイテムが表示されます。



CPU External Frequency (MHz) [XXX] (value is auto-detected)

クロックジェネレータにより、システムバスとPCIバスに送信された周波数を指示します。バス周波数（外部周波数）に複数のバスを掛けると、CPU速度になります。このアイテムの値はBIOSにより自動検出され、手動で構成することはできません。値は、100から400までです。<+>と<->キーを使用してFSBを調整します。

Table 4.4.1 FSB/CPU 外部同期周波数

正面バス	CPU 外部周波数
FSB 800	200 MHz
FSB 533	133 MHz
FSB 400	100 MHz

DRAM Frequency [Auto]

DDR操作周波数を設定できます。構成オプション: [266 MHz] [333 MHz] [400 MHz] [500 MHz] [533 MHz] [Auto]

AGP/PCI Frequency (MHz) [Auto]

高いAGP/PCI周波数に調整すると、システムパフォーマンスとオーバークロック機能を高めることができます。構成オプション: [Auto] [66.66/33.33] [72.73/36.36] [80.00/40.00]



きわめて高いAGP/PCI周波数を選択すると、システムが不安定になります! この場合、デフォルト設定に戻してください。

CPU VCore Voltage [Auto]

CPU VCore電圧を選択できるようになります。構成オプション: [Auto] [1.9500V] [1.9250V] [1.9000V] [1.8750V] [1.8500V] [1.8250V] [1.8000V] [1.7750V] [1.7500V] [1.7250V] [1.7000V] [1.6750V] [1.6500V] [1.6250] [1.6000V] [1.5875V] [1.5750V] [1.5625V] [1.5500V] [1.5375V] [1.5250V] [1.5125V] [1.5000V]



CPU VCore電圧を設定する前に、CPUマニュアルを参照してください。Vcore電圧を高くすると、CPUをひどく損傷することがあります。

DDR Reference Voltage [Auto]

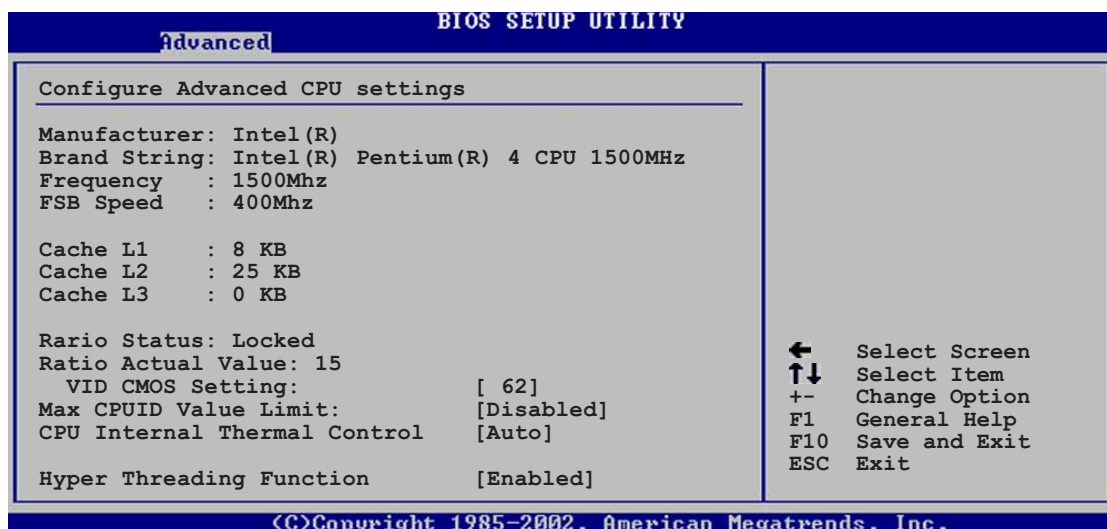
DDR SDRAM 操作電圧を選択できるようになります。構成オプション: [2.85V] [2.75V] [2.65V] [2.55V] [Auto]

AGP VDDQ Voltage [1.50V]

AGP操作電圧を選択できるようになります。構成オプション: [1.80V] [1.70V] [1.60V] [1.50V]

4.4.2 CPU 構成

このメニューのアイテムは、BIOSによって自動検出されたCPU関連情報を表示します。



VID CMOS Setting [62]

プロセッサを実行する VID CMOS 設定を設定します。矢印キーを使用して値を調整してください。

Max CPUID Value Limit [Disabled]

拡張 CPUID 機能を搭載した CPU をサポートできない従来のオペレーティングシステムを起動する場合、この機能を有効にしてください。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

CPU Internal Thermal Control [Auto]

このアイテムは、CPU 内部熱コントロール機能を有効にしたり、自動に設定します。構成オプション: [Auto] [Disabled]

Hyper-Threading Technology [Enabled]

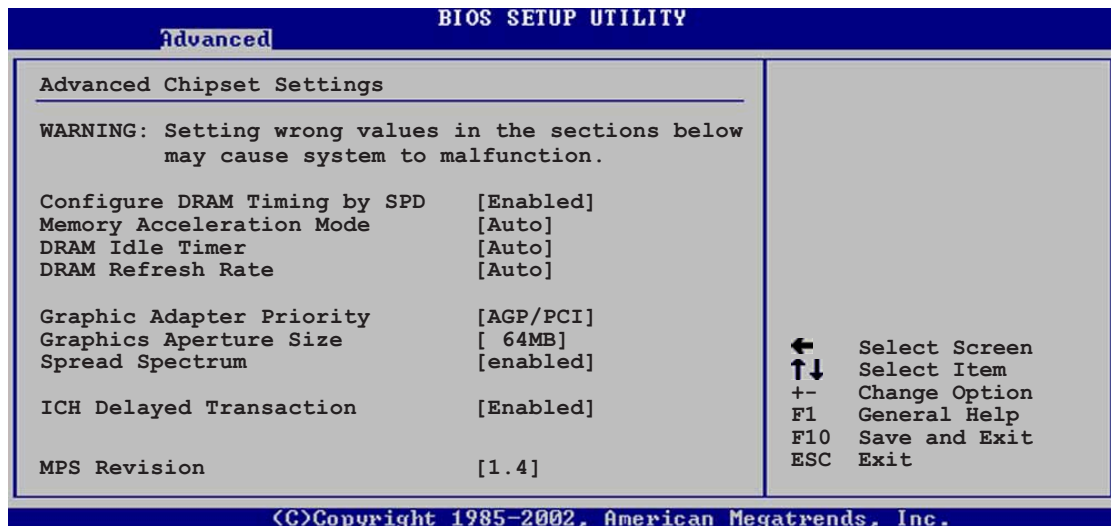
このアイテムによって、プロセッサの有効/無効を切り替えることができます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]



アイテムハイパースレッドテクノロジーは、この機能をサポートする Intel Pentium 4 CPUを取付けている場合のみ表示されます。

4.4.3 チップセット

チップセットメニューでは、詳細なチップセット設定の変更が可能です。アイテムを選択してからEnterを押すと、サブメニューが表示されます。



Configure DRAM Timing by SPD [Enabled]

このアイテムが有効になっているとき、DRAMタイミングパラメータはDRAM SPD（シリアルプレゼンスディクト）に従って設定されます。無効になっているとき、DRAMサブアイテムを通してDRAMタイミングパラメータを手動で設定できます。このアイテムが無効になっているとき、次のサブメニューが表示されます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

DRAM CAS# Latency [2.5 Clocks]

このアイテムは、SDRAMのリードコマンドとデータを実際に利用できるようになる時間のレイテンシを制御します。構成オプション: [2.0 Clocks] [2.5 Clocks] [3.0 Clocks]

DRAM RAS# Precharge [4 Clocks]

このアイテムは、DDR SDRAMにprechargeコマンドを発行した後のアイドルクロックを制御します。構成オプション: [4 Clocks] [3 Clocks] [2 Clocks]

DRAM RAS# to CAS# Delay [4 Clocks]

このアイテムは、DDR SDRAMアクティブコマンドと読み込み/書き込みコマンドの間のレイテンシを制御します。構成オプション:
[4 Clocks] [3 Clocks] [2 Clocks]

DRAM Precharge Delay [8 Clocks]

構成オプション: [8 Clocks] [7 Clocks] [6 Clocks] [5 Clocks]

DRAM Burst Length [4 Clocks]

構成オプション: [4 Clocks] [8 Clocks]

Memory Acceleration Mode [Auto]

[Enabled]がCPUからメモリへの待ち時間を最小化するとき、このフィールドはシステム性能を上げます。このアイテムを有効にすると、ASUSハイパーパステクノロジー機能をアクティブにします。構成オプション: [Auto] [Enabled]



[Enabled]に設定すると、システムが不安定になります! この場合、デフォルトの設定[Auto]に戻ってください。

DRAM Idle Timer [Auto]

構成オプション: [Infinite] [0T] [8T] [16T] [64T] [Auto]

DRAM Refresh Mode [Auto]

構成オプション: [Auto] [15.6 uSec] [7.8 uSec] [64 uSec]



上のアイテムのどれかの設定を変更した後システムが不安定になったら、デフォルトの設定に戻してください。

Graphic Adapter Priority [AGP/PCI]

1次ブートデバイスを使用するための、グラフィックスコントローラを選択できます。構成オプション: [AGP/PCI] [PCI/AGP]

Graphics Aperture Size [64MB]

AGPグラフィックデータ用にマップされたメモリのサイズを選択できます。構成オプション: [4MB] [8MB] [16MB] [32MB] [64MB] [128MB] [256MB]

Spread Spectrum [Enabled]

このフィールドは、クロックジェネレータのスペクトラム拡散の有効/無効を切り替えます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

ICH Delayed Transaction [Enabled]

構成オプション: [Disabled] [Enabled]

MPS Revision [1.1]

構成オプション: [1.1] [1.4]

4.4.4 オンボードデバイス構成

Advanced		BIOS SETUP UTILITY	
OnBoard AC'97 Audio	[Auto]		
OnBoard Promise Controller	[Enabled]		
OnBoard IEEE 1394 Controller	[Enabled]		
Onboard LAN	[Enabled]		
OnBoard LAN Boot ROM	[Disabled]		
Serial Port1 Address	[3F8/IRQ4]		
Serial Port2 Address	[2F8/IRQ3]		
Parallel Port Address	[378]		
Parallel Port Mode	[ECP]		
ECP Mode DMA Channel	[DMA3]		
Parallel Port IRQ	[IRQ7]		
OnBoard Game/MIDI Port	[Disabled]		

OnBoard AC'97 Audio [Auto]

[Auto]によって、BIOSはオーディオデバイスが使用されているかどうかを検出できます。オーディオデバイスが検出されれば、オンボードオーディオコントローラは有効になり、オーディオデバイスが検出されなければ、コントローラは無効になります。構成オプション: [Disabled] [Auto]

OnBoard Promise Controller [Enabled]

オンボード Promise® 20378 RAID コントローラの有効/無効を切り替えます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

Operating Mode [RAID]

システムのオペレーティングモードを設定します。このアイテムは、Onboard Promise Controller アイテムがEnabled（有効）に設定されているときのみ、表示されます。構成オプション: [RAID] [IDE]

OnBoard IEEE 1394 Controller [Enabled]

オンボードIEEE 1394コントローラの有効/無効の切り替えが可能です。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

OnBoard LAN [Enabled]

オンボードLANコントローラの有効/無効の切り替えが可能です。構成オプション: [Disabled] [Enabled]



DOS または Windows® MEでは、Marvell® 88E8001は S5 ウェイク・オン・ラン機能をサポートしません。

OnBoard LAN Boot ROM [Disabled]

オンボードLANコントローラで、オプションROMの有効/無効の切り替えが可能です。このアイテムは、オンボードLANアイテムが有効に設定されている場合のみ表示されます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

Serial Port1 Address [3F8/IRQ4]

シリアルPort1ベースアドレスを選択できます。構成オプション: [Disabled] [3F8/IRQ4] [3E8/IRQ4] [2E8/IRQ3]

Serial Port2 Address [2F8/IRQ3]

シリアルPort2ベースアドレスを選択できます。構成オプション: [Disabled] [2F8/IRQ3] [3E8/IRQ4] [2E8/IRQ3]

Parallel Port Address [378]

パラレルポートベースアドレスを選択できます。構成オプション: [Disabled] [378] [278] [3BC]

Parallel Port Mode [ECP]

パラレルポートモードの選択を可能にします。構成オプション: [Normal] [Bi-directional] [EPP] [ECP]

ECP Mode DMA Channel [DMA3]

構成オプション: [DMA0] [DMA1] [DMA3]

Parallel Port IRQ [IRQ7]

構成オプション: [IRQ5] [IRQ7]

Onboard Game/MIDI Port [Disabled]

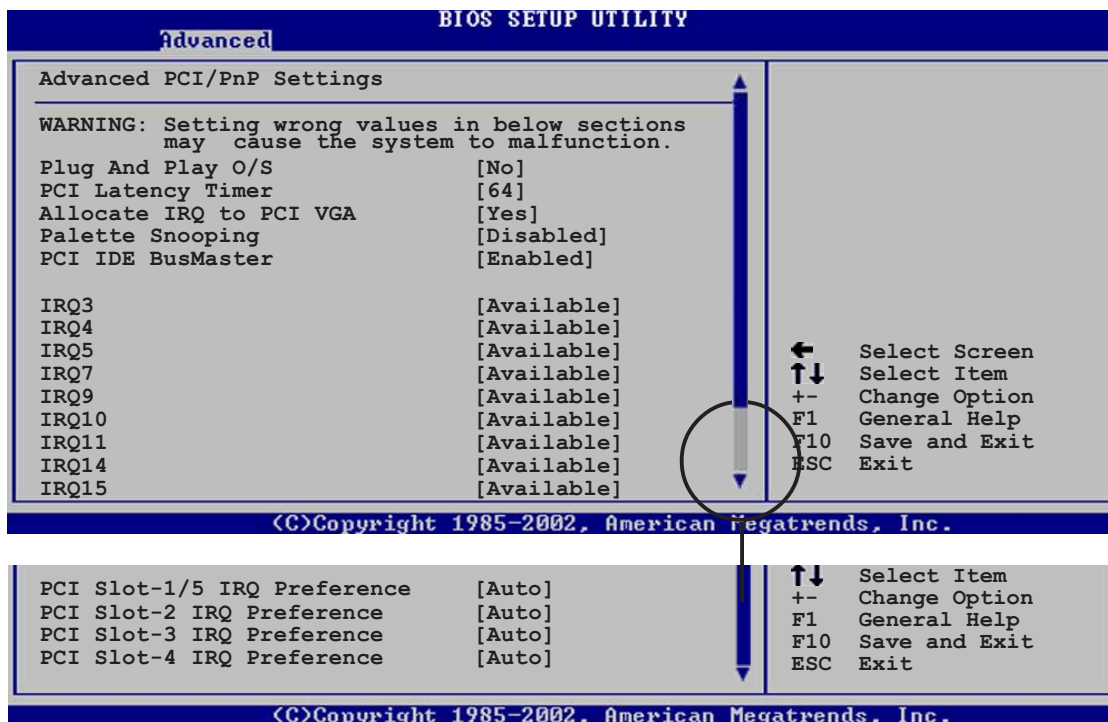
ゲームポートアドレスを選択したり、ポートを無効にできます。構成オプション: [Disabled] [200/300] [200/330] [208/300] [208/330]

4.4.5 PCI PnP

PCI PnPメニューアイテムによって、PCI/PnPデバイスの詳細設定を変更できます。メニューには、PCI/PnPまたは古いタイプのISAデバイスに対してはIRQとDMAチャンネルリソースの設定が、また古いタイプのISAデバイスに対してはメモリサイズブロックの設定が含まれます。



PCI PnPメニューアイテムの設定を変更するときは、注意してください。フィールド値を間違えると、システムが誤作動を起こす原因となります。



Plug and Play [No]

[No]に設定されていると、BIOSはシステムの全てのデバイスを構成します。[Yes]に設定されているときにプラグアンドプレイオペレーティングシステムをインストールしていると、オペレーティングシステムはブートに必要なでないプラグアンドプレイデバイスを構成します。構成オプション: [No] [Yes]

PCI Latency Timer [64]

PCIデバイスレイテンシタイマレジスタに対して、PCIクロックの値を選択できます。構成オプション: [32] [64] [96] [128] [160] [192] [224] [248]

Allocate IRQ to PCI VGA [Yes]

[Yes]に設定されていると、BIOSはPCI VGAカードがIRQを要求している場合、カードにIRQを割り当てます。[No]に設定されていると、BIOSはたとえ要求されても、PCI VGAカードにIRQを割り当てません。構成オプション: [No] [Yes]

Pallete Snooping [Disabled]

[Enabled]に設定されていると、パレットスヌープ機能はISAグラフィックデバイスが正しく機能するように、このデバイスがシステムに取り付けられていることをPCIデバイスに通知します。[Disabled]に設定されていると、この機能を無効にします。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

PCI IDE Busmaster [Enabled]

BIOSは、IDEデバイスに読み込み/書き込みを行っているとき、バスマスタリングを使用できません。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

IRQ xx [Available]

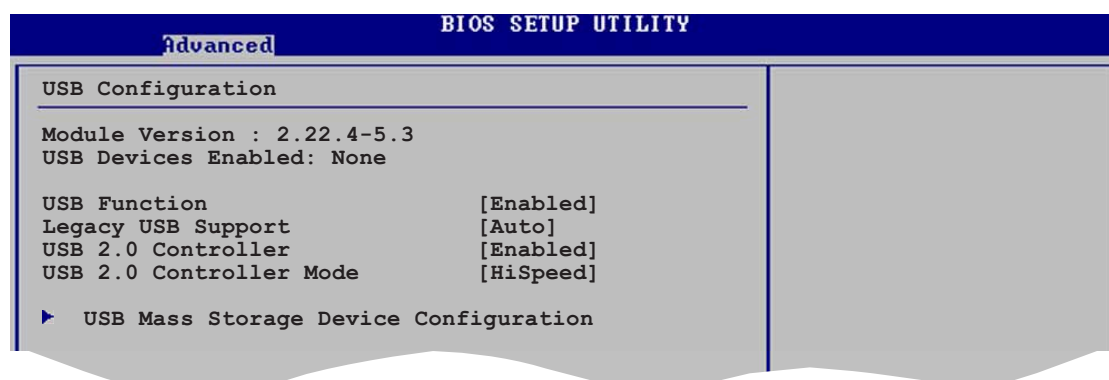
[Available]に設定されていると、特定のIRQはPCI/PnPデバイスを自由に使用できます。[Reserved]に設定されていると、IRQは古いタイプのISAデバイス用に割り当てられます。構成オプション: [Available] [Reserved]

PCI Slot - xx IRQ Preference [Auto]

PCIスロットIRQ初期設定を設定します。
構成オプション: [Auto] [3] [4] [5] [7] [9] [10] [11] [12] [14] [15]

4.4.6 USB 構成

このメニューのアイテムによって、USB関連機能を変更できます。アイテムを選択してからEnterを押すと、構成オプションが表示されます。



モジュールバージョンとUSBデバイスEnabledアイテムは、自動検出された値を表示します。USBデバイスが検出されると、アイテムは「なし」を表示します。

USB Function [Enabled]

アクティブにするUSBポートの数を設定できます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

Legacy USB Support [Auto]

古いタイプのUSBデバイスのサポートの有効/無効の切り替えが可能です。自動に設定すると、システムは起動時にUSBデバイスの存在を検出できます。検出されると、USBコントローラレガシーモードは有効になります。USBデバイスが検出されないと、古いタイプのUSBサポートは無効になります。構成オプション: [Disabled] [Enabled] [Auto]

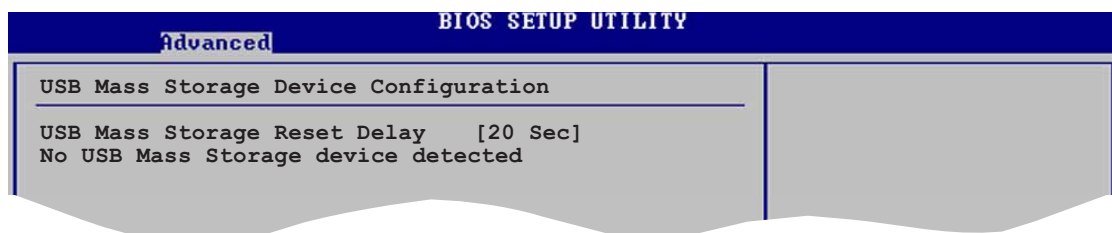
USB 2.0 Controller [Enabled]

USB 2.0コントローラの有効/無効を切り替えることができます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

USB 2.0 Controller Mode [HiSpeed]

HiSpeed (480 Mbps)でまたはFull Speed (12 Mbps)で、USB 2.0コントローラを構成できます。構成オプション: [HiSpeed] [Full Speed]

USB大容量記憶装置構成



USB Mass Storage Reset Delay [20 Sec]

スタートユニットコマンドの後、USB大容量記憶装置に対するPOST待機の秒数を選択できます。システムに何もインストールされていなければ、「USB大容量記憶装置が検出されませんでした」というメッセージが表示されます。構成オプション: [10 Sec] [20 Sec] [30 Sec] [40 Sec]

Emulation [N/A]

自動に設定されているとき、530MB以下の容量のUSBデバイスはフロッピードライブとして、残りのドライブはハードドライブとしてエミュレートされます。強制FDDオプションはHDDフォーマットされたドライブをFDDとして強制的にブートするために使用できます（例、ZIPドライブ）。



デバイスとエミュレーションタイプのアイテムは、取り付けられているUSBデバイスがある場合のみ表示されます。

4.4.7 スピーチ構成

BIOS SETUP UTILITY	
Advanced	
Speech Option	
Speech Post Reporter	[Enabled]
Report IDE Error	[Disabled]
Report System Booting	[Disabled]

Speech POST Reporter [Enabled]

ASUS Speech POST Reporter™ 機能の有効/無効を切り替えることができます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]



次のアイテムは、Speech POST Reporterが有効に設定されている場合のみ、表示されます。

Report IDE Error [Disabled]

構成オプション: [Disabled] [Enabled]

Report System Booting [Disabled]

構成オプション: [Disabled] [Enabled]

4.4.8 インスタントミュージック構成

BIOS SETUP UTILITY	
Advanced	
Instant Music Option	
Instant Music	[Disabled]

Instant Music [Disabled]

BIOSでインスタントミュージック機能の有効/無効を切り替えることができます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]



インスタントミュージックが有効になっていると、PS/2 キーボードの電源アップ機能は自動的に無効になります。5-9ページをご覧ください。

Instant Music CD-ROM Drive [IDE Secondary Master]

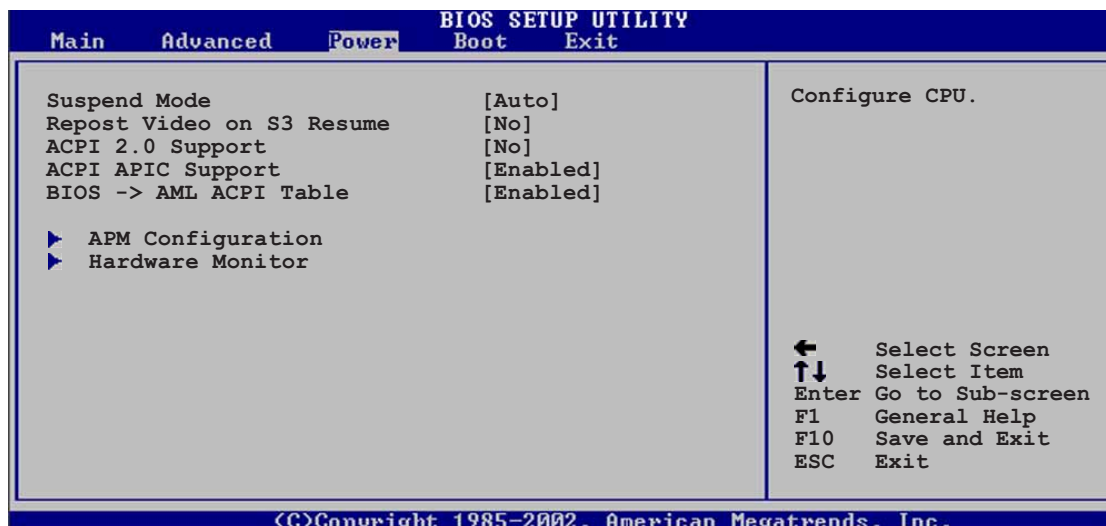
インスタントミュージックCD再生に対して使用するCD-ROMドライブを選択できます。構成オプション: [IDE Primary Master] [IDE Primary Slave] [IDE Secondary Master] [IDE Secondary Slave]



上のアイテムは、インスタントミュージックアイテムを有効にしている場合のみ表示されます。

4.5 電源メニュー

電源メニューアイテムによって、アドバンストパワーマネージメント (APM) の設定を変更できます。アイテムを選択してからEnterを押すと、構成オプションが表示されます。



4.5.1 Suspend Mode [Auto]

システムサスペンド用に使用するACPI状態を選択できます。構成オプション: [S1 (POS) Only] [S3 Only] [Auto]

4.5.2 Repost Video on S3 Resume [No]

VGA BIOS POST on S3/STR レジュームを呼び起こすかどうか決定します。構成オプション: [No] [Yes]

4.5.3 ACPI 2.0 Support [No]

ACPI 2.0仕様に対してさらに表を追加できます。構成オプション: [No] [Yes]

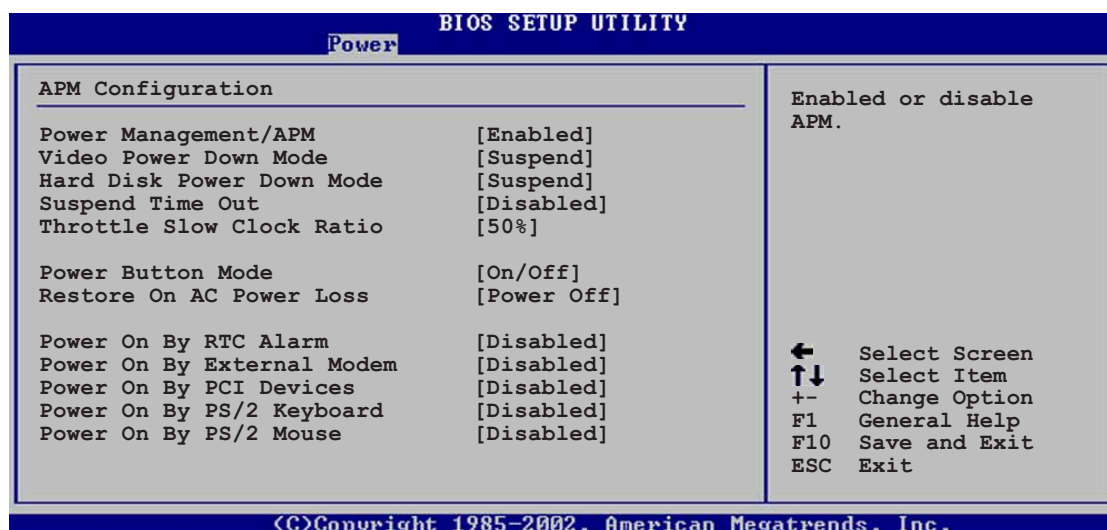
4.5.4 ACPI APIC Support [Enabled]

ASICでACPIサポートの有効/無効を切り替えることができます。有効に設定されていると、ACPI APIC 表ポインタはRSDTポインタに含まれます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

4.5.5 BIOS -> AML ACPI Table [Enabled]

BIOS ->AML変換ポインタの(X)RSDTポインター一覧への組み込みの有効/無効を切り替えることができます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

4.5.6 APM 構成



Power Management/APM [Enabled]

アドバンストパワーマネジメント(APM)機能の有効/無効を切り替えることができます。構成オプション: [Disbaled] [Enabled]

Video Power Down Mode [Suspend]

ビデオのパワーダウンモードを選択できます。構成オプション: [Disabled] [Standby] [Suspend]

Hard Disk Power Down Mode [Suspend]

ハードディスクのパワーダウンモードを選択できます。構成オプション: [Disabled] [Standby] [Suspend]

Suspend Time Out [Disabled]

システムがサスペンドに入る指定時間を選択できます。構成オプション: [Disabled] [1-2 Min] [2-3 Min] [4-5 Min] [8-9 Min] [10 Min] [20 Min] [30 Min] [40 Min] [50 Min] [60 Min]

Throttle Slow Clock Ratio [50%]

スロットルモードでデューティサイクルを選択できます。構成オプション: [87.5%] [75.0%] [62.5%] [50%] [37.5%] [25%] [12.5%]

Power Button Mode [On/Off]

電源ボタンを押したとき、システムはオン/オフモードにまたはサスペンドモードに入ることができます。構成オプション: [On/Off] [Suspend]

Restore on AC Power Loss [Power Off]

電源オフに設定されていると、AC電源損失の後システムはオフ状態に入ります。電源オンに設定されていると、AC電源損失の後システムはオン状態に入ります。最後の状態に設定されていると、AC電源損失の後のシステムの状態には関わらず、システムはオンまたはオフ状態に入ります。構成オプション: [Power Off] [Power On] [Last State]

Power On By RTC Alarm [Disabled]

呼び起こしイベントを生成するために、RTCの有効/無効を切り替えることができます。このアイテムが有効に設定されていると、アイテムRTCアラーム日、RTCアラーム時間、RTCアラーム分、RTCアラーム秒が設定値で表示されます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

Power On By External Modem [Disabled]

これによって、コンピュータがソフトオフモードに入っている間に外部モデムが呼び出しを受信すると、コンピュータの電源を入れるかどうかの [Enabled] または [Disabled] の設定をできるようになります。構成オプション: [Disabled] [Enabled]



コンピュータとアプリケーションが完全に実行されるまで、コンピュータはデータの送受信を行うことができません。従って、一度で接続を行うことはできません。コンピュータがオフになっている間に、外部モデムをオフにしてからオンにすると、初期化ストリングによりシステムの電源はオンになります。

Power On By PCI Devices [Disabled]

[Enabled] に設定されているとき、このパラメータにより、PCI LAN またはモデムカードを通してシステムの電源をオンにできます。この機能は、+5VSB リードで少なくとも1Aを提供するATX電源装置を必要とします。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

Power On By PS/2 Keyboard [Disabled]

このパラメータにより、キーボードの特定のキーを使用してシステムの電源をオンにできます。この機能は、+5VSB リードで少なくとも1Aを提供するATX電源装置を必要とします。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

Power On By PS/2 Mouse [Disabled]

[Enabled] に設定しているとき、このパラメータにより、PS/2マウスを使用してシステムの電源をオンにできます。この機能は、+5VSB リードで少なくとも1Aを提供するATX電源装置を必要とします。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

4.5.7 ハードウェアモニタ

BIOS SETUP UTILITY	
Power	
Hardware Monitor	
CPU Temperature	[44°C/111°F]
MB Temperature	[36°C/96.5°F]
Power Temperature	[N/A]
CPU Fan Control	[Disabled]
CPU Fan Speed	[2393RPM]
Chassis Fan Speed	[N/A]
Power Fan Speed	[N/A]
VCORE Voltage	[1.465V]
3.3V Voltage	[3.328V]
5V Voltage	[5.026V]
12V Voltage	[11.795V]
←	Select Screen
↑↓	Select Item
+ -	Change Option
F1	General Help
F10	Save and Exit
ESC	Exit

(C)Copyright 1985-2002, American Megatrends, Inc.

MB Temperature [xxxC/xxxF]
CPU Temperature [xxxC/xxxF]
POWER Temperature [N/A]

オンボードのハードウェアモニタは、マザーボード、CPU、電源装置の温度を自動的に検出して表示します。検出された温度を表示したくない場合は、無効を選択してください。

Q-Fan Control [Disabled]

このアイテムにより、ASUS Q-Fan機能の有効/無効を切り替え、システムをより効率的に操作するためにファン速度をスマートに調整できます。このフィールドを[Enabled]に設定すると、ファン速度比アイテムが表示されて、適切なファン速度比を選択できます。構成オプション:
[Disabled] [Enabled]

Fan Speed Ratio [11/16]

このアイテムによって、システムの適切なファン速度比を選択できます。デフォルト[11/16]は最小のファン速度比です。追加デバイスを取り付ける場合、またはシステムがさらに強力な換気を要求する場合、もっと高い比を選択してください。構成オプション: [11/16] [12/16] [13/16] [14/16] [15/16]



上のアイテムは、Q-Fanコントロールアイテムが有効に設定されている場合のみ、表示されます。

CPU Fan Speed [xxxxRPM] or [N/A]
Chassis Fan Speed [xxxxRPM] or [N/A]
Power Fan Speed [xxxxRPM] or [N/A]

オンボードハードウェアモニタは、CPU、シャーシ、電源ファンの毎分の回転速度(RPM)を自動的に検出して表示します。ファンのどれかがマザーボードに接続されていない場合、特定のフィールドがN/Aを表示します。

VCORE Voltage、 +3.3V Voltage、 +5V Voltage、
+12V Voltage

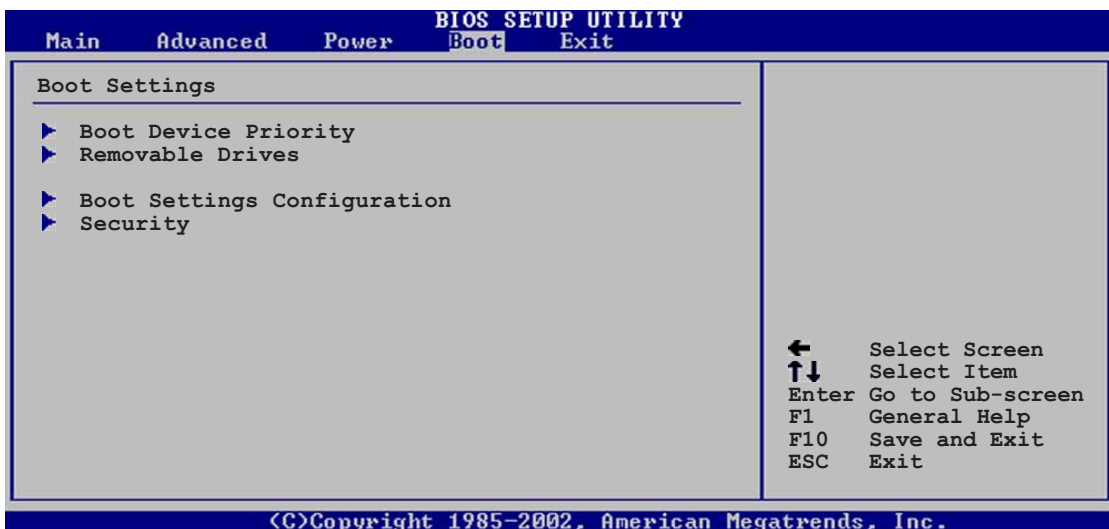
オンボードハードウェアモニタは、オンボード電圧レギュレータを通して電圧出力を自動的に検出します。



マザーボードアイテムのどれかが範囲から外れていると、次のエラーメッセージが表示されます:「ハードウェアモニタがエラーを検出しました。詳細は、電源セットアップYメニューに入ってください」。次に、「F1を押して続行するか、DELを押してセットアップに入ってください」という指示メッセージが表示されます。

4.6 ブートメニュー

ブートメニューアイテムによって、システムのブートオプションを変更できます。アイテムを選択しEnterを押すと、サブメニューが表示されます。



4.6.1 ブートデバイスのプライオリティ

BIOS SETUP UTILITY				
Main	Advanced	Power	Boot	Exit
Boot Device Priority				
1st Boot Device	[1st FLOPPY DRIV]			
2nd Boot Device	[PM-ST320413A]			
3rd Boot Device	[PS-ASUS CD-S340]			

1st ~ xxth Boot Device [1st Floppy Drive]

これらのアイテムは、利用可能なデバイスからブートデバイスの優先順位を指定します。画面に表示されるデバイスアイテムの数は、システムに取り付けられているデバイスの数によって異なります。構成オプション: [xxxxx Drive] [Disabled]

4.6.2 ハードディスクドライブ

BIOS SETUP UTILITY				
Main	Advanced	Power	Boot	Exit
Boot Device Priority				
1st Boot Device	[PM-ST320413A]			
2nd Boot Device	[PS-ASUS CD-S340]			

1st ~ xxth Boot Device [(Hard disk drive model name)]

これらのアイテムは利用可能なハードディスクドライブからブートデバイス優先順位のシーケンスを指定します。画面に表示されるアイテムの数は、システムに取り付けられているハードディスクドライブの数に依存します。構成オプション: [xxxxx Drive] [Disabled]

4.6.3 ブート設定構成

BIOS SETUP UTILITY	
Boot	
Boot Settings Configuration	
Quick Boot	[Enabled]
Full Screen Logo	[Enabled]
Add On ROM Display Mode	[Force BIOS]
Bootup Num-Lock	[On]
PS/2 Mouse Support	[Auto]
Typematic Rate	[Fast]
Wait for 'F1' If Error	[Enabled]
Hit 'DEL' Message Display	[Enabled]
Interrupt 19 Capture	[Disabled]

Quick Boot [Enabled]

このアイテムを有効にすることによって、BIOSはブートしながら一部のパワーオンセルフテスト(POST)をスキップして、システムのブートに必要な時間を削減できます。[Disabled]に設定していると、BIOSは全てのPOSTアイテムを実施します。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

Full Screen Logo [Enabled]

[Enabled] に設定すると起動時にマザーボード固有の画像を表示します。設定できる値は : [Disabled] [Enabled]です。



ASUS MyLogo2™ をお使いになる場合は、[Enabled] に設定してください。

Add On ROM Display Mode [Force BIOS]

オプションROMに対して、表示モードを設定します。構成オプション: [Force BIOS] [Keep Current]

Bootup Num-Lock [On]

NumLockの電源オン状態を選択できます。構成オプション: [Off] [On]

PS/2 Mouse Support [Auto]

PS/2マウスのサポートの有効/無効を切り替えることができます。構成オプション: [Disabled] [Enabled] [Auto]

Typematic Rate [Fast]

キーボードのタイプマティックレートを選擇できます。構成オプション: [Slow] [Fast]

Boot to OS/2 [No]

OS/2互換モードを指定できます。構成オプション: [No] [Yes]

Wait for 'F1' If Error [Enabled]

有効に設定していると、システムはエラーが発生したときにF1が押されるのを待ちます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

Hit 'DEL' Message Display [Enabled]

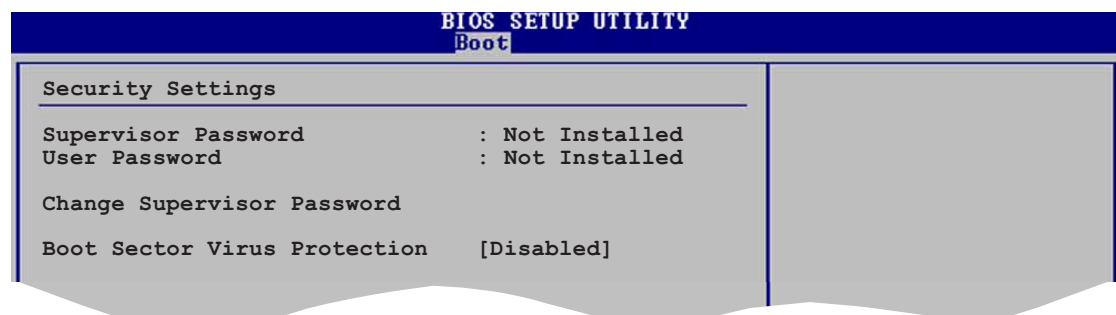
有効に設定されていると、システムはPOSTの間「DELを押してセットアップを実行」というメッセージを表示します。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

Interrupt 19 Capture [Disabled]

[Enabled]に設定しているとき、この機能によってオプションROMは割り込み19にトラップできます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

4.6.4 セキュリティ

セキュリティメニューアイテムによって、システムのセキュリティ設定を変更できます。アイテムを選択してEnterを押すと、構成オプションが表示されます。



管理者パスワードの変更

この相手区を選択するか、管理者パスワードを変更します。画面の上部にある管理者パスワードは、デフォルトのインストールされていないを表示します。パスワードを設定した後、このアイテムはインストール済みを表示します。

管理者パスワードを設定するには、次の手順を実行します。

1. 管理者パスワードアイテムの変更を選択し、<Enter>を押します。
2. パスワードボックスから、少なくとも6つの文字と数字のパスワード組み合わせを入力し、<Enter>を押します。
3. 要求されたら、パスワードを確認します。
パスワードが正常に設定されたら、「パスワードが設定されました」というメッセージが表示されます。

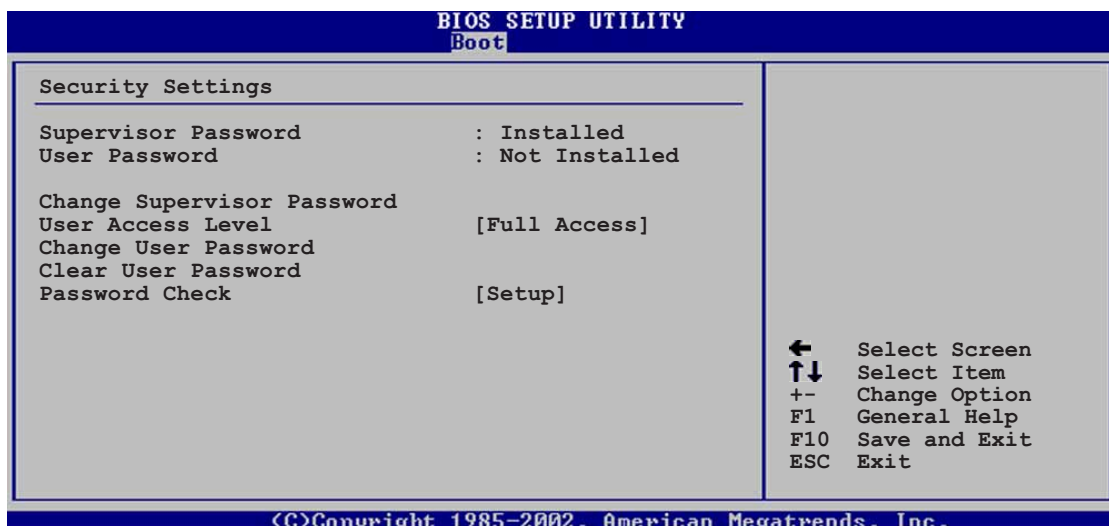
管理者パスワードを変更するには、ユーザーパスワードを設定するときと同じ手順を実行します。

管理者パスワードを消去するには、管理者パスワードの変更を選択し、Enterを押します。「パスワードが削除されました」というメッセージが表示されます。



BIOSパスワードを忘れた場合、CMOS リアルタイムクロック (RTC) RAMを消去することによって消去できます。RTC RAMを消去する方法については、「2.6 ジャンパ」をご覧ください。

管理者パスワードを設定すると、他のアイテムが表示され、他のセキュリティ設定を変更できるようになります。



ユーザーアクセスレベル (Full Access]

このアイテムによって、セットアップアイテムへのアクセス制限を選択できます。構成オプション: [No Access] [View Only] [Limited] [Full Access]

アクセスなしは、セットアップユーティリティへのユーザーアクセスを妨げます。

表示のみは、アクセスを許可しますが、フィールドの変更は一切許可しません。

制限付きは、日付や時間などの選択されたフィールドのみの変更を許可します。

フルアクセスは、セットアップユーティリティの全てのフィールドの表示と変更を許可します。

ユーザーパスワードの変更

このアイテムを選択すると、ユーザーパスワードを設定したり変更できます。画面上部のユーザーパスワードアイテムは、デフォルトの設定されていませんを表示します。パスワードを設定した後、このアイテムは設定されましたを表示します。

ユーザーパスワードを設定するには、次の手順を実行します。

1. ユーザーパスワードの変更アイテムを選択し、<Enter>を押します。
2. 表示されるパスワードボックスで、少なくとも6つの文字と数字のパスワード組み合わせを入力し、<Enter>を押します。
3. 要求されたら、パスワードを確認します。

パスワードが正常に設定されたら、「パスワードが設定されました」というメッセージが表示されます。

ユーザーパスワードアイテムは、設定されましたを表示します。

ユーザーパスワードを変更するには、ユーザーパスワードを設定するときと同じ手順を実行します。

Clear User Password

ユーザーパスワードを消去したい場合、このアイテムを選択します。

Password Check [Setup]

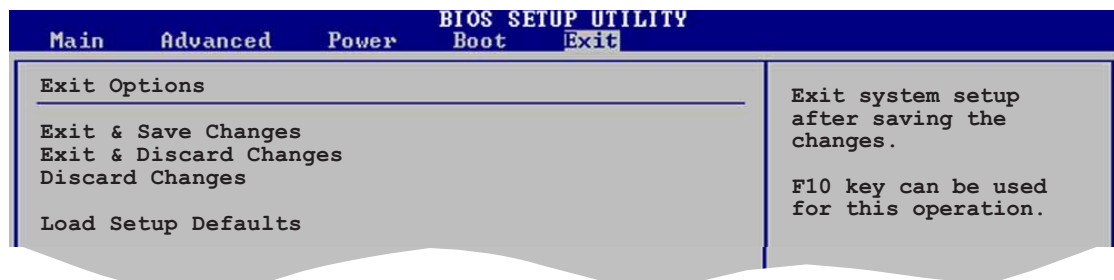
[Setup]に設定されていると、BIOSはセットアップユーティリティにアクセスするときユーザーパスワードをチェックします。[Always]に設定されているとき、BIOSはセットアップにアクセスしシステムをブートするとき、ユーザーパスワードをチェックします。構成オプション: [Setup] [Always]

Boot Sector Virus Protection [Disabled]

ブートセクタウィルス保護の有効/無効を切り替えることができます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

4.7 メニューの終了

終了メニューアイテムによって、BIOSアイテムに対して最適のまたはフェールセーフのデフォルト値をロードし、BIOSアイテムへの変更を保存したり破棄できます。



<Esc>を押しても、このメニューは直ちに終了しません。このメニューからどれかのオプションを選択するか、ツールバーから<F10>を選択して終了します。

変更を保存して終了

選択を終了したら、終了メニューからこのオプションを選択して、選択した値がCMOS RAMに保存されていることを確認します。CMOS RAMはオンボードのバックアップバッテリーに保存され、PCの電源をオフにしても消えることはありません。このオプションを選択すると、確認ウィンドウが表示されます。[Yes]を選択すると、変更を保存して終了します。



変更を保存せずにセットアッププログラムを終了しようとする、プログラムは終了する前に変更を保存するかどうか尋ねるメッセージを表示します。<Enter>を押すと、終了するときに変更を保存します。

変更を破棄して終了

このオプションは、セットアッププログラムに行った変更を保存したくないときだけ、選択します。システムの日付やシステムの時間、パスワード以外のフィールドを変更すると、BIOSは終了する前に確認を求めます。

変更の破棄

このオプションによって、行った変更を破棄しそれまでに保存された値を復元します。このオプションを選択すると、確認が表示されます。[Yes]を選択すると、変更を破棄しそれまでに保存した値をロードします。

セットアップデフォルトのロード

このオプションによって、セットアップメニューのそれぞれのパラメータに関するデフォルト値をロードします。このオプションを選択すると、または<F5>を押すと、確認ウィンドウが表示されます。[Yes]を押すと、デフォルト値がロードされます。値を不揮発性RAMに保存する前に、変更を保存して終了を選択するか、他の変更を行ってください。

第5章

添付のサポートCDに収録されている
ソフトウェアの説明です。

サポートソフトウェア

本章の内容

5.1 OSのインストール	5-1
5.2 サポートCDについて	5-1
5.3 ソフトウェア情報	5-7
5.4 AIネット機能	5-12
5.5 オーディオの構成	5-13
5.6 Promise RAID の構成	5-19
5.7 シリアル ATA 設定用 Intel® RAID	5-27
5.8 RAIDドライバでフロッピーの作成	5-31

5.1 OSのインストール

本マザーボードは Windows® 98SE/ME/2000/Windows 2003サーバー/XP および OS/2 に対応しています。ハードウェアの最新機能を利用するために、各OSは最新バージョンのものを用いてください。



マザーボードの設定やオプション、拡張カードには様々な種類があります。次章からの説明は一般的な例で、お使いのシステムと異なる場合があります。

5.2 サポートCDについて

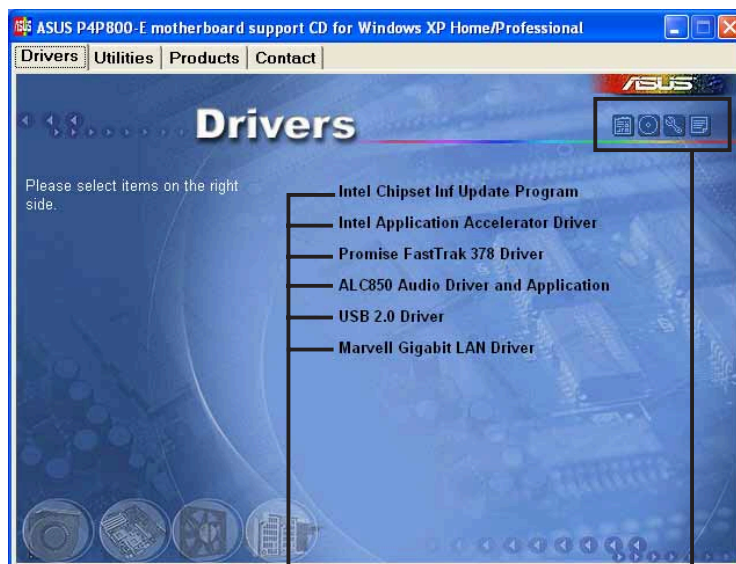
添付のサポートCDには、本マザーボードに必要なドライバ、ソフトウェアおよびユーティリティが含まれています。OSのインストール後に、必ずインストールしてください。



サポートCDの内容は、予告なしに変更される場合があります。最新情報についてはASUSのWEBサイトをご覧ください。

5.2.1 サポートCDの起動方法

サポートCDを使うには、CD-ROMドライブにCDを挿入します。ドライバメニューが自動起動します。



インストールしたい項目をクリックします。

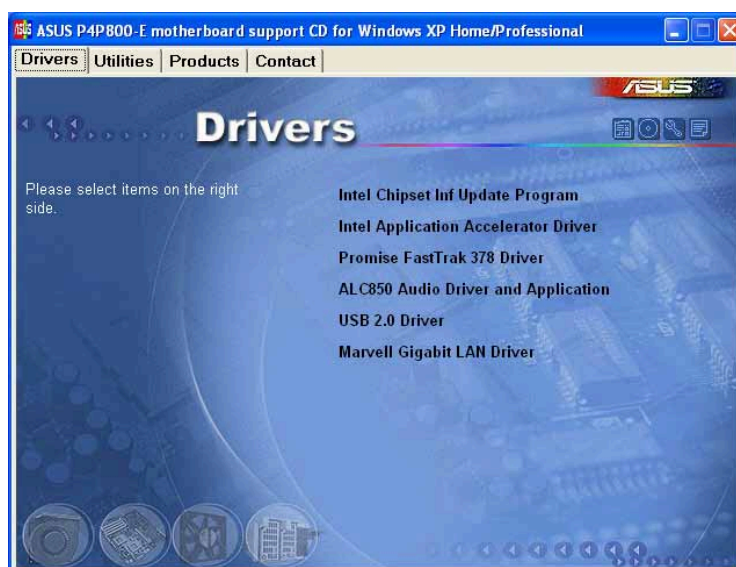
クリックすると詳細情報が表示されます。



メニューが起動しない場合は、BINフォルダ内の ASSETUP.EXE を実行してください。

5.2.2 ドライバメニュー

マザーボードに搭載されているデバイス用のドライバです。各デバイスの機能を有効にするために必要です。



Intelチップセット Inf 更新プログラム

Intel® Chipset Software Installation Utility をインストールします。これは、Intel チップセット用のプラグアンドプレイ情報(Plug-n-Play INF)です。チップセットの機能を Windows が使用できるようにするために必要な情報ファイルです。

このユーティリティは、interactive、silent および unattended preload の3つのモードでインストールできます。interactive モードは、会話型のインストーラです。silent および unattended preload モードは自動インストーラです。

詳しくはユーティリティ内のヘルプを参照してください。

Intelアプリケーションアクセラレータドライバ

このアイテムは、Intel Application Accelerator Driver (Intelアプリケーションアクセラレータドライバ) をインストールします。Windows® 2000 または Windows® XP をお使いの場合、このドライバはシリアル ATAチャンネル用に RAID 0 および RAID を構成します。このドライバは、シリアル ATA の RAID 機能が有効になっているときのみ、インストールできます。

Promise FastTrak 378 ドライバ

このアイテムは、Promise® 20378 RAID コントローラドライバをインストールします。

ALC850 オーディオドライバとアプリケーション

このアイテムはウィザードを実行して、Realtek ALC850 オーディオドライバとアプリケーションをインストールします。

USB 2.0 ドライバ

このアイテムは、ユニバーサルシリアルバス2.0ドライバをインストールします。

Marvell Gigabit LANドライバ

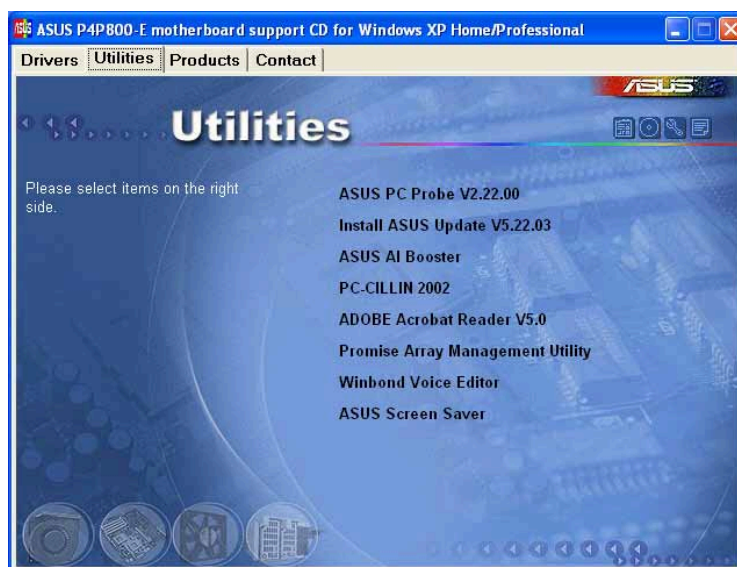
このアイテムは、Marvell® LAN ドライバと診断インストール用のインターフェイスを実行します。



画面の表示とドライバオプションは、他のオペレーティングシステムのバージョンと同じでないことがあります。

5.2.3 ユーティリティメニュー

本マザーボードでサポートされているユーティリティに関するメニューです。



ASUS PC Probe

コンピュータのファン回転数・温度・電圧などのハードウェア情報をモニターすることができるユーティリティです。システムの監視に役立ちます。

Install ASUS Update

最新バージョンのBIOSをWEBサイトから自動でダウンロードするユーティリティです。



ASUS Update を使用するには、あらかじめインターネットに接続しておく必要があります。

ASUS AI Booster

このアイテムは、ASUS AI Booster ユーティリティをインストールします。

PC-CILLIN

PC-cillin Sアンチウィルスソフトウェアをインストールします。詳しくは、オンラインヘルプを参照してください。

Adobe Acrobat Reader V5.0

PDF形式のマニュアルを見るために必要な Adobe Acrobat Reader V5.0 をインストールします。最新および他言語のマニュアルが、PDF形式で ASUS のサイトにあります。

Promise Array管理ユーティリティ

このアイテムは、Promise 20378 RAID Array 管理ユーティリティをインストールします。

Winbond Voice Editor

ASUS POST Reporter™ 用の WAVE ファイルを記録・編集するユーティリティです。POST 音声メッセージを編集する場合に使います。

ASUS Screen Saver

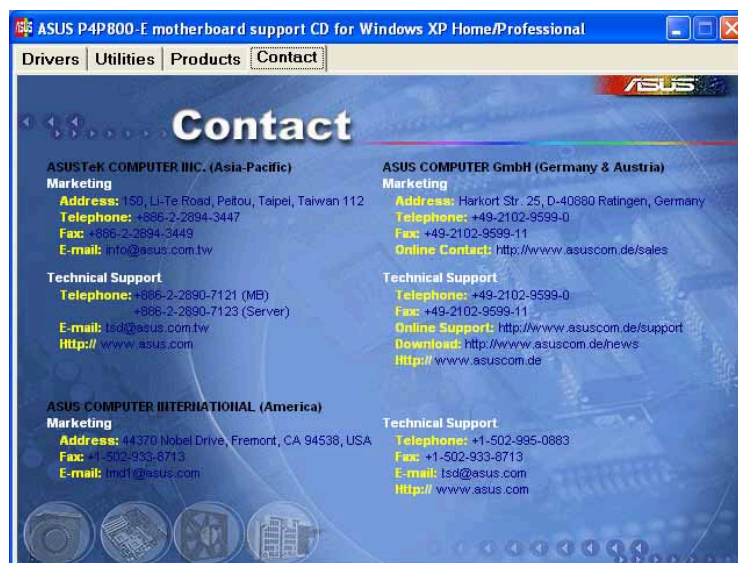
ASUS 特製スクリーンセーバーをインストールします。



スクリーンの表示と実用性選択は他のオペレーティングシステム版のための同じかもしれない。

5.2.4 ASUS サポート情報

ASUS のサポート情報です。本書にあるサポート情報とあわせてご利用ください。この情報は、本書の表紙の裏に載っています。

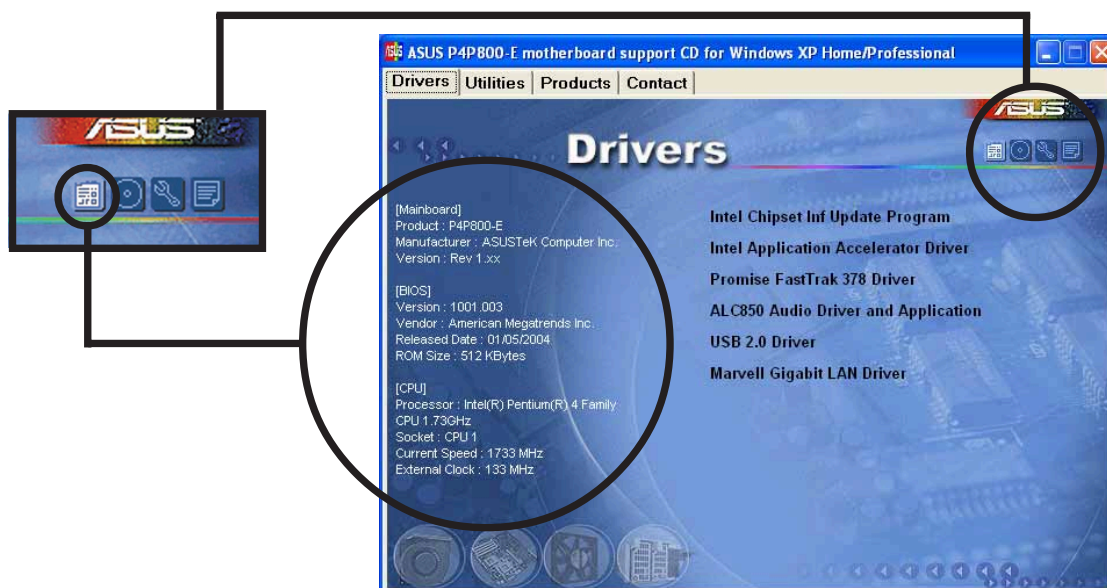


5.2.5 その他の情報

画面右上にあるアイコンをクリックすると、マザーボードおよびサポートCDに関する追加情報を見ることができます。各アイコンは以下の内容になっています。

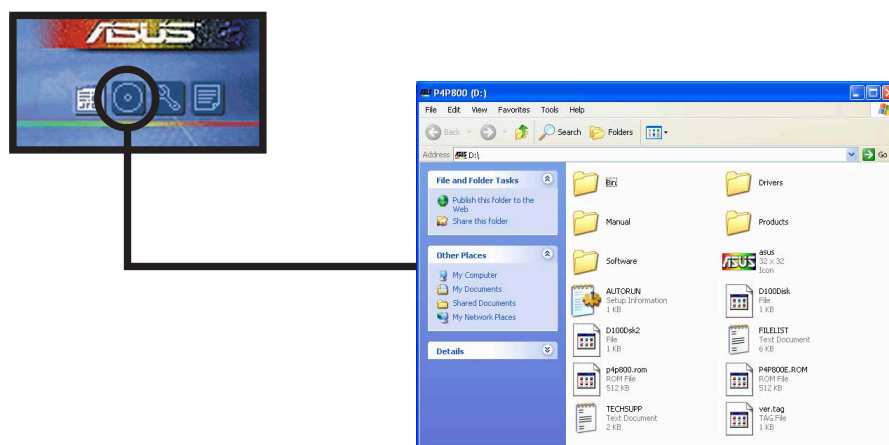
Motherboard Info

P4P800-E マザーボードの仕様が一覧表示されます。



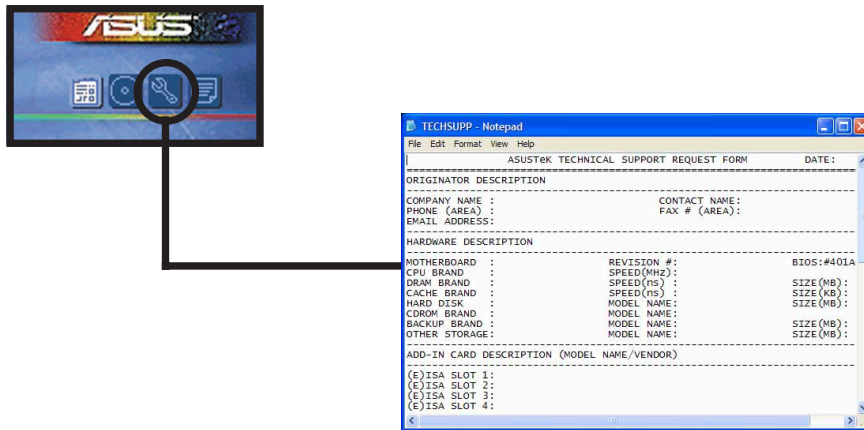
Browse this CD

サポートCDの内容を表示します。



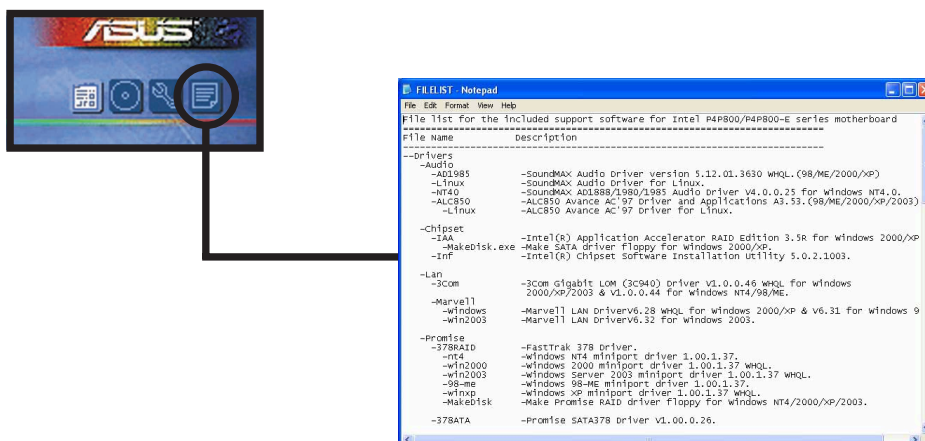
Technical Support Form

ASUSのテクニカルサポート用の書式です。テキスト形式になっていますので、サポートを受ける場合、必要な項目を記入します。



Filelist

サポートCDの内容や簡単なドキュメントを記載したテキストファイルです。



5.3 ソフトウェア情報

サポートCDのソフトウェアの多くはウィザード形式のインストーラーに対応しています。詳しい情報は各ソフトウェアのオンラインドキュメントを参照してください。

この章では、サポートCD内のいくつかのソフトウェアの詳しい使用方法を説明します。

5.3.1 ASUS MyLogo2™

ASUS 更新ユーティリティをソフトウェアメニューからインストールするとき、ASUS MyLogo2™は自動的にインストールされます。「5.2.3 ユーティリティメニュー」をご覧ください。



ASUS MyLogo2™機能を使用する前に、AFUDOS ユーティリティを使用してオリジナル BIOS ファイルのコピーを作成したり、ASUS の Web サイトから最新の BIOS バージョンを取得します。



ASUS MyLogo2 を使用したい場合、BIOS アイテムのフル画面ロゴが [Enabled] に設定されていることを確認してください。

「4.6.3 起動設定構成」をご覧ください。

ASUS MyLogo2を使用するには、次のステップに従います。

1. ASUS Update (ASUS 更新) ユーティリティを起動します。「4.1.6 ASUS Update」をご覧ください。
2. BIOS 更新方式を要求されたら、「ファイルからBIOSの更新」オプションを選択してください。
3. BIOS ファイルの場所を選択します (例えば、フロッピーディスク)。Next (次へ) をクリックします。



4. ロゴイメージの選択画面になります。Next をクリックします。



自作のイメージ(GIF, JPG, BMP形式)を使用することもできます。



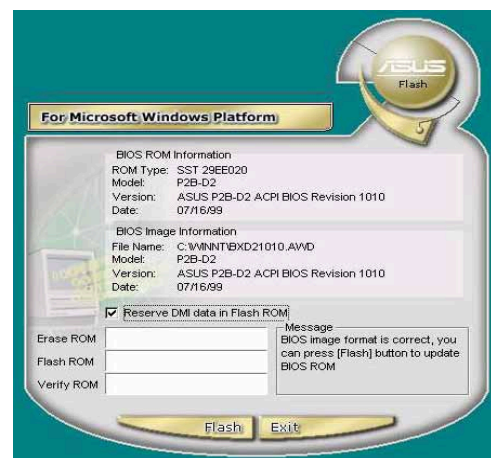
5. 選択したイメージは MyLogo2 スクリーンに拡大表示されます。



ロゴの画像をもっと小さくしたい場合、比率アイテムの矢印をクリックし、希望する縮尺を選択します。



6. BIOSイメージを新しいロゴイメージのものに書き換えます。Flash をクリックします。
7. 書き換えが完了したら、Exit をクリックします。コンピュータを再起動すると、起動時に新しいロゴが表示されるようになります。



ASUS Update の代わりに ASUS MyLogo2 を直接起動して、ロゴイメージの書き換えを行うこともできます。この場合は、BIOSファイルを書き換えた後、ASUS Update を用いて、BIOSファイルをEEPROMに書き込む必要があります。

5.3.2 ASUS インスタントミュージック

マザーボードには、Instant Musicと呼ばれるBIOSベースのオーディオ再生機能が搭載されています。この機能はオンボードオーディオAC' 97 CODECによりサポートされ、光学ドライブ (CD-ROM、DVD-ROMまたはCD-RW)) を必要とします(CD-ROM, DVD-ROM, or CD-RW).



1. インスタントミュージックは、オーディオフォーマットのCDのみをサポートします。
2. アドオンカードを取り付けて有効にしていると、インスタントミュージックは機能しません。
3. インスタントミュージックは、PS/2キーボードのみをサポートします。

ASUS Instant Musicを有効にする:

1. 光学ドライブ (CD-ROM、DVD-ROMまたはCD-RW ドライブ) から出るアナログオーディオケーブルを、マザーボードの4ピンCDインコネクタ (CD1とラベル) に接続します。コネクタの位置に関しては、「2.7 コネクタ」をご覧ください。



CD-ROM オーディオケーブルを接続していることを確認してください。接続していないと、インスタントミュージック機能キーを使用して、オーディオボリュームをコントロールできません。

2. システムをオンにし、パワーオンセルフテスト(POST)の間にDeleteキーを押してBIOSに入ります。
3. BIOS画面からAdvanced (詳細設定) を、次にInstant Music Configuration (Instant Music構成) を選択します。
4. Music Configuration (ミュージック実行構成) メニューで、Instant Music を選択し、Enabled に設定します。ユーザーガイドの「4.4.8 Instant Music Configuration (Instant Music 構成)」をご覧ください。
5. Instant Music有効に設定していると、Instant Music CD-ROM Drive (Instant Music CD-ROMドライブ) アイテムが表示されます。アイテムを強調表示し、<Enter>を押しCD-ROMオプションを表示します。
6. 変更を保存してBIOSセットアップを終了します。

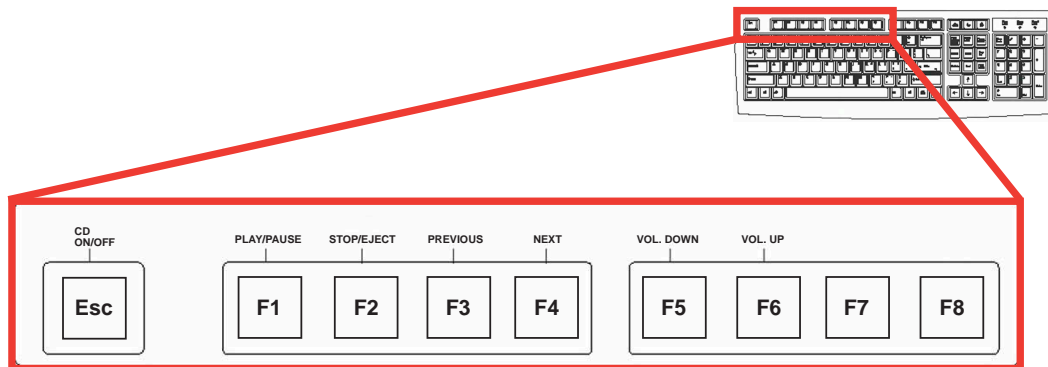


1. インスタントミュージックを有効にした後、スクロールロックLEDはオンに固定されます。
2. CD再生を一時停止にすると、Caps Lock LEDがオンになります。
3. インスタントミュージックモードに設定されているとき、システムの呼び起こし機能 (LAN, キーボード、マウス、USB) は非アクティブになっています。この場合、電源スイッチを使用してシステムの電源をオンにします。
4. システムが接続を失ったり光学ドライブを検出できない場合、インスタントミュージック機能は自動的にオフ (無効) になります。「ビープ」音はこの状態を示しています。

ASUS インスタントミュージックを使用する:

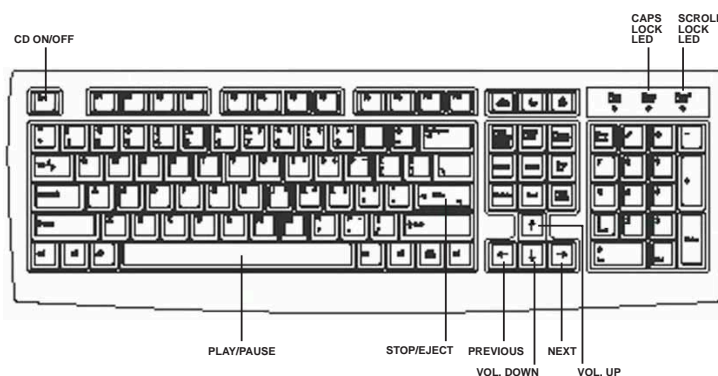
1. システムにスタンバイ電源が供給されるように、電源コードがアースされた電源に差し込まれていることを確認します。
2. キーボードの特殊機能キーの2つのセットのどちらからを使用し、オーディオ CD を再生します。BIOS で Instant Music アイテムを有効にしておくと、これらのキーは示された機能のみを実行します。

インスタントミュージックの機能キー (セット1)



Instant Music を簡単に使用するには、キーボードの機能キーの上に Instant Music ラベルを置きます。Instant Music キーボードラベルは、マザーボードパッケージに付属しています。

インスタントミュージックの機能キー (セット2)



3. スピーカーやヘッドフォンを、オーディオ出力用にリアパネルのラインアウト (ライム色) に接続します。ヘッドフォンを、CD-ROMドライブのフロントパネルのヘッドフォンジャックに接続することもできます。
4. Escを押すと、インスタントミュージックがオンになります。
5. オーディオCDをドライブに置きます。
6. F1またはスペースバーを押すと、CDの最初のトラックが再生されます。



ドライブにCDがない場合、<F1>または<スペースバー>を押すと、ドライブトレイが出てきます。

7. 前ページのインスタントミュージック機能キーの定義を参照して、他のトラックを選択したり、ボリュームを制御してください。
8. <F2>または<Enter>を一度押すと、CDの再生が停止します。
<F2>または<Enter>をもう一度押すと、CDが出てきます。

5.4 AIネット機能

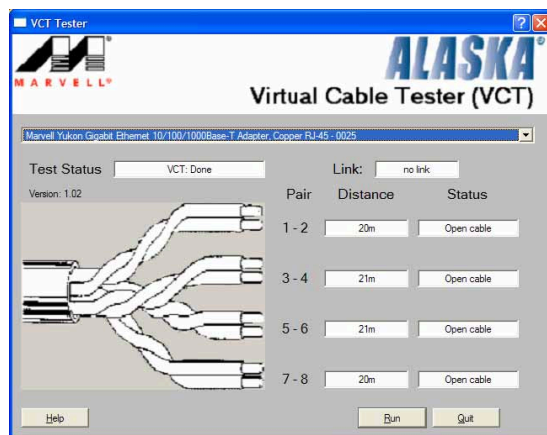
マザーボードはMarvell® Virtual Cable Tester:Marvell® 仮想ケーブルテスター(VCT)テクノロジーをサポートしています。VCTはTime Domain Reflectometry:時間領域反射率測定 (TDR)を使用して、ケーブル障害を仮想的に診断し報告します。この必須ツールがあれば、インストールとネットワーク診断はこの上もなく簡単になります。VCTテクノロジーは最大メートルの1 精度で開放ケーブルと短絡ケーブルを検出して報告します。また、インピーダンスミスマッチ、ペア交換、ペア極性問題、64ns までのペアスキュー問題も検出します。

VCTはネットワークコストとサポートコストを大幅に削減して、きわめて高い管理可能および制御ネットワークシステムを補完します。また、このツールはネットワークシステムソフトウェアに組み込むことができるため、開発診断だけでなく、フィールドサポート向けに理想的です。

Virtual Cable Tester™ 仮想ケーブルテスターの使用

コンピュータで Marvell® Virtual Cable Tester™ を使用するには、次の手順に従います:

1. Start(スタート)ボタンをクリックします。All Programs(すべてのプログラム)->Marvell->Virtual Cable Tester(仮想ケーブルテスター)を選択します。
2. メニューから、Virtual Cable Tester(仮想ケーブルテスター)をクリックします。次の画面が表示されます。



3. Run(ファイル名を指定して実行)をクリックしてテストを実行します。



1. Virtual Cable Tester™:仮想ケーブルテスター(VCT)機能は Windows® XP™とWindows® 2000™ オペレーティングシステムでのみサポートされています。
2. Virtual Cable Tester™(VCT)機能は Gigabit LAN でのみ動作します。
3. VCT テスターダイアログボックスの Run (ファイル名を指定して実行) ボタンは、ネットワークで何の問題も検出されなければ、使用できません。

5.5 オーディオの構成

Realtek® ALC850 AC '97 オーディオ CODEC は 8 チャンネルオーディオ機能を提供して、PC 上で究極のオーディオ体験を実現します。ソフトウェアはジャックセンス機能（サラウンド、中央/LFE、前面 Mic、サラウンド後部）、PCBEEP 音響発生機、S/PDIFイン/アウトサポート、割込機能を提供します。ALC850 には Realtek® が所有権を有する UAJ® (Universal Audio Jack:ユニバーサルオーディオジャック)テクノロジーが組み込まれて、ユーザーにプラグアンドプレイの便利さを提供しています。インストールウィザードに従い、マザーボードパッケージに付属する CD から Realtek ALC850 オーディオドライバとアプリケーションをインストールしてください。

Realtek オーディオソフトウェアが正しくインストールされていると、タスクバーに SoundEffect（サウンドエフェクト）アイコンが表示されます。



Realtek SoundEffectアイコン

タスクバーから、SoundEffect（サウンドエフェクト）アイコンをダブルクリックして、Realtek Audio Control Panel:Realtekオーディオコントロールパネルを表示します。



ジャックセンスとUAJ® テクノロジー機能は、ラインイン、ラインアウト、マイクジャックでのみサポートされます。

5.5.1 サウンドエフェクトオプション

Realtek® ALC850 Audio CODEC では、リスニング環境を設定し、イコライザを調整し、カラオケを設定し、事前プログラムされたイコライザ設定を選択して、リスニングの喜びを提供します。

サウンドエフェクトオプションを設定するには、次の手順に従います：

1. Realtek Audio Control Panel (Realtek オーディオコントロールパネル) から、Sound Effect (サウンド効果) ボタンをクリックします。
2. ショートカットボタンをクリックしてアコースティック環境を変更し、イコライザを調整し、カラオケを希望する設定にセットします。
3. ボタンをクリックすると、オーディオ設定が直ちに有効になります。
4. 画面の右上のボタン Exit:終了 (X)をクリックして、終了します。

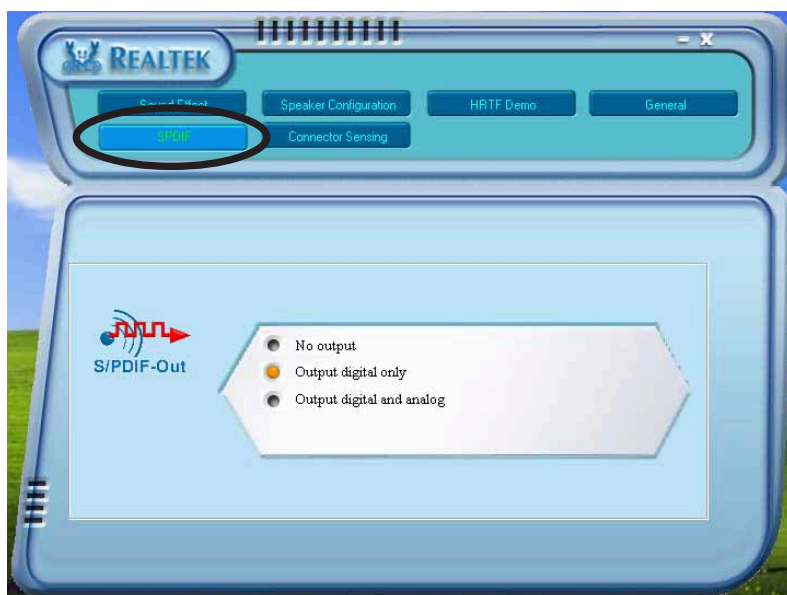


5.5.2 S/PDIFオプション

Sony/Philips Digital Interface:Sony/Philips デジタルインターフェイス (S/PDIF)オプションは、S/PDIF 出力設定を変更します。

S/PDIFオプションを設定するには、次の手順に従います：

1. Realtek Audio Control Panel (Realtek オーディオコントロールパネル) から、SPDIF ボタンをクリックします。
2. オプションボタンをクリックして、S/PDIF アウト設定を変更します。
3. 画面の右上の Exit:終了(X)ボタンをクリックして、終了します。



5.5.3 スピーカー構成

このオプションは、スピーカー構成を設定します。

スピーカー構成を設定するには、次の手順に従います:

1. Realtek Audio Control Panel(Realtek オーディオコントロールパネル) から、Speaker Configuration (スピーカー構成) ボタンをクリックします。
2. コンボリストボックスから現在のスピーカーセットアップを選択し、Auto Test (自動テスト) をクリックして設定をテストします。
3. UAJ Automatic (UAJ 自動) ボタンをクリックして、ユニバーサルオーディオジャック(UAJ®)テクノロジー機能の有効/無効を切り替えます。
4. 画面の右上のExit:終了(X)ボタンをクリックして、終了します。



5.5.4 AIオーディオ機能

AIオーディオ機能は、コネクタ検出オプションを通して作動し、オーディオデバイスが正しく接続されているかをチェックします。

コネクタの検出を開始するには、次の手順に従います：

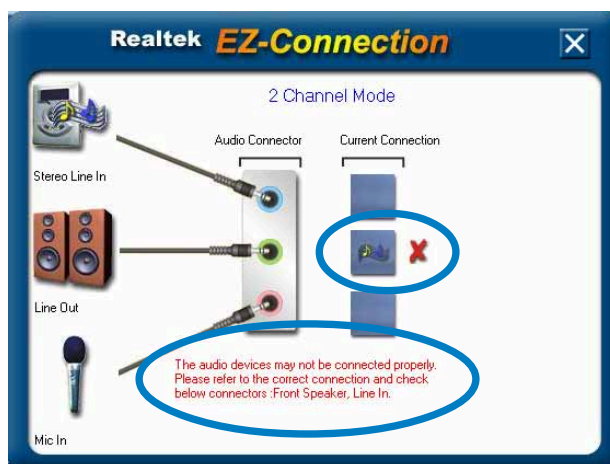
1. Realtek Audio Control Panel(Realtek オーディオコントロールパネル)から、Connector Sensing(コネクタ検出)ボタンをクリックします。
2. Bracket(ブラケット)ボタンをクリックして、接続されたオーディオデバイスを表示します。
3. Option(オプション)ボタンをクリックして、検出オプションを変更します。
4. Start(スタート)ボタンをクリックして、接続の検出を開始します。進捗バーが、現在のコネクタ検出ステータスを表示します。



この機能を開始する前に、すべてのオーディオアプリケーションが終了していることを確認してください。



5. 終了したら、ユーティリティが Realtek® EZ接続ダイアログボックスに、現在のオーディオ接続が表示されます。ボックス下部のテキストは、オーディオ接続ステータスを説明しています。X mark(X マーク)は接続が正しくないことを示しています。



6. 問題が検出された場合、オーディオケーブルが適切なオーディオジャックに接続されていることを確認して、コネクタ検出を繰り返してください。
7. X ボタンをクリックして、EZ 接続ダイアログボックスを終了します。
8. 画面の右上の Exit:終了(X)ボタンをクリックして、オーディオコントロールパネルを終了します。

5.5.5 HRTF Demo (HRTFデモ)

このオプションは、Head-Related Transfer Functions:ヘッド関連転送機能(HRTF)のデモを表示します。

HRTF demo(HRTFデモ)を開始するには、次の手順に従います:

1. Realtek Audio Control Panel(Realtek オーディオコントロールパネル)から、HRTF Demo(HRTF デモ)ボタンをクリックします。
2. オプションボタンをクリックしてサウンドを変更し、パスまたはEAX設定を移動します。
3. Play(再生)ボタンをクリックして開始するか、Stop(停止)ボタンをクリックして停止します。
4. 画面の右上の Exit:終了(X)ボタンをクリックして、終了します。

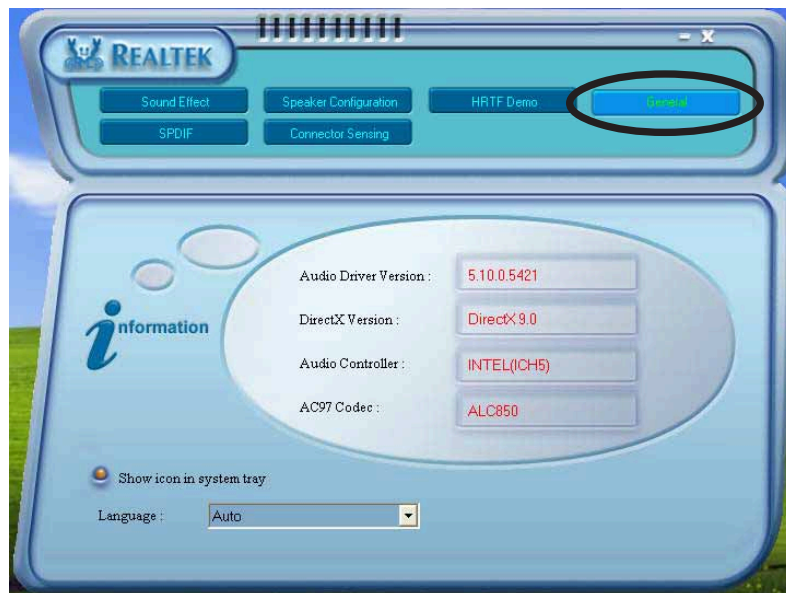


5.5.6 全般設定

このオプションはオーディオ設定を表示し、言語設定を変更したり、Windowsタスクバーで SoundEffect アイコンディスプレイを切り替えます。

全般設定を表示するには、次の手順に従います:

1. Realtek Audio Control Panel(Realtek オーディオコントロールパネル)から、General(全般)ボタンをクリックします。
2. オプションボタンをクリックして、Windowsタスクバーアイコンディスプレイの有効/無効を切り替えます。
3. Language(言語)コンボリストボックスをクリックして、言語ディスプレイを変更します。
4. 画面の右上のExit:終了(X)ボタンをクリックして、終了します。



5.5.7 背面パネルオーディオポート機能のバリエーション

背面パネルのラインアウト(ライム)、ラインイン(青)、マイク(ピンク)、中央/サブウーファ(イエローオレンジ)、背面スピーカーアウト(黒)、側面スピーカーアウト(グレー)ポートは、次の表で示すように、4チャンネル、6チャンネル、8チャンネルオーディオ構成を選択するときに変更されます。

	ヘッドセット/ 2チャンネル	4チャンネル	6チャンネル	8チャンネル
ライトブルー	ラインイン	ラインイン	ラインイン	ラインイン
ライム	ラインアウト	前面スピーカーアウト	前面スピーカーアウト	前面スピーカーアウト
ピンク	マイクイン	マイクイン	マイクイン	マイクイン
イエローオレンジ	-	-	中央/サブウーファ	中央/サブウーファ
黒	-	背面スピーカーアウト	背面スピーカーアウト	背面スピーカーアウト
グレー	-	-	-	側面スピーカーアウト

5.6 Promise RAID の構成

マザーボードには Promise® PDC20378 コントローラチップセットが含まれ、Redundant Array of Independent Disks:独立ディスク冗長アレイ (RAID)構成をサポートします。SATA_RAID1/SATA_RAID2 インターフェイス上の 2 台のシリアルATAハードディスク、および PRI_RAID インターフェイス上の 2 台のUltraDMA133 ハードディスクを使用して、RAID 0、RAID 1、RAID 0+1、Multi-RAID 構成をセットアップできます。MBFastTrak378™ BIOSとFastBuild™ユーティリティを使用して、ディスクアレイを構成します。

RAID 0 (別名、データストライピング) は 2 台の同じハードディスクドライブを最適化して、データを同時に読み書きします。2 台の同じハードディスクは 1 台のドライブとして同じ機能を実施しますが、データ転送速度は維持して、1台のディスクの倍の速度を実現することによって、データアクセスと格納を向上させています。

RAID 1 (別名、データミラーリング) は 1 台のドライブから他のドライブにデータの同じ画像ををコピーして維持します。1台のドライブが故障しても、ディスクアレイ管理ソフトウェアがすべてのアプリケーションを存続しているドライブに向けることによって、他のドライブにデータの完全なコピーが含まれることとなります。このRAID 構成はデータを保護し、システム全体に耐故障性を増加します。

RAID 0+1 はデータストライピングとデータミラーリングを組み合わせたもので、パリティ(冗長データ)を計算したり書き込む必要がありません。RAID 0 + 1 の利点は高速なデータアクセス(例えば、RAID 0)ですが、それ以上に 1 台のドライブが失われても完全な複製の存続する単数または複数のドライブ(例えば、RAID 1)を作成する機能も持っています。



1. Windows® XP または Windows® 2000 オペレーティングシステムを使用している場合、RAID 構成を作成する前に、サポート CD からフロッピーディスクに、まず Promise FastTrak 378 ドライバをコピーしてください。
2. 異なるオペレーティングシステム下における RAID 構成の詳細については、サポート CD の FastTrak 378 クイックスタートガイドおよび SATA クイックスタートガイドを参照してください。

5.6.1 ハードディスクの取り付け

PDC20378 チップセットは Ultra DMA133/100/66 ハードディスクドライブをサポートしています。最適の性能を実現するために、ディスクアレイを作成するときに同じモデルと容量を持つまったく同じドライブを取り付けてください。

- ・ 性能を重視して RAID 0(ストライピング)アレイを作成している場合、2 台の新しいドライブを使用します。
- ・ 保護を重視して RAID 1(ミラーリング)を作成している場合、2 台の新しいドライブまたは 1 台の既存のドライブと 1 台の新しいドライブを使用できます(新しいドライブは既存のドライブより大きなサイズでなければなりません)。

次のステップに従って、RAID 構成用にハードディスクを取り付けてください。

1. マスター/スレーブとして各ハードディスクのジャンパーを設定します。
2. ハードディスクをドライブベイに取り付けます。
3. HDD ケーブルを接続します。これらの接続オプションは、RAID 0 または RAID 1 アレイに対して利用できます。
 - a) 別々のパラレル ATA またはシリアル ATA ケーブルを使用して、2 台のパラレル ATA HDD をプライマリ RAID コネクタに、1 台のシリアル ATA HDD を 2 つのシリアル ATA コネクタのどちらかに接続します。
 - b) 別個のシリアルATAケーブルを使用して、1つのシリアルATA HDDを各シリアルATAコネクタに接続します。
4. 電源ケーブルを各ドライブの電源コネクタに接続します。
5. システムを起動し、BIOS セットアップユーティリティに入ります。
6. BIOS で Advanced(詳細設定)メニューをポイントし、適切なIDE構成設定をセットします。
7. 変更を保存してセットアップを終了します。
8. 次の手順については、5.6.2 項に進んでください。

5.6.2 MBFastBuild™ユーティリティに入る

1. システムを起動します。

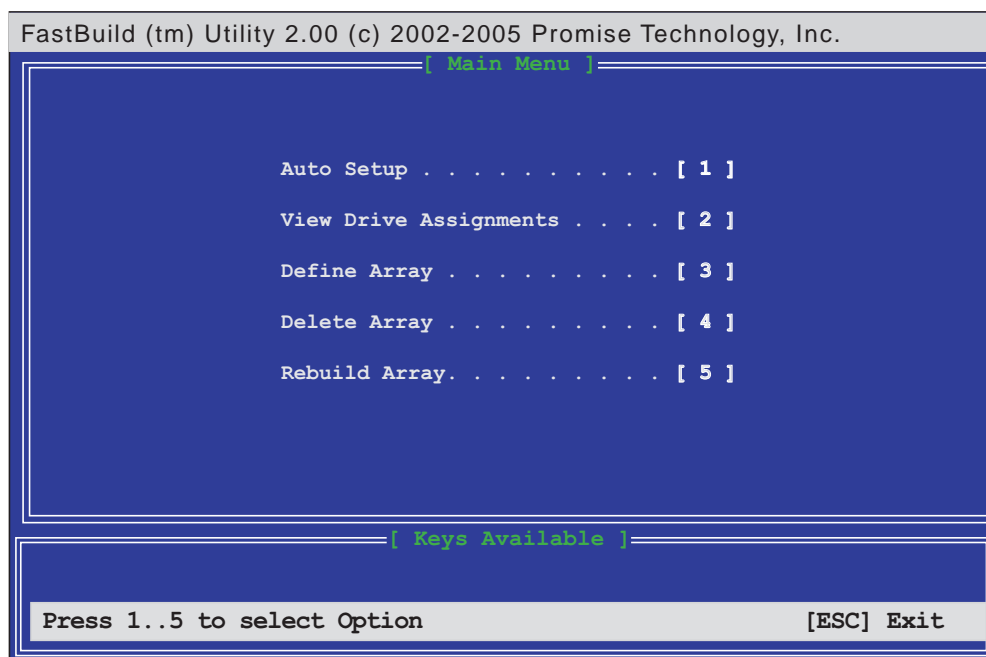
これが、新しいハードディスクを取り付けマザーボードの ATAIDE コネクタに接続されたシステムを始めて起動する場合、MBFastTrak378™ BIOS には次が表示されます。

```
MBFastTrak378 (tm) BIOS version 1.00
(c)2000-2005 Promise Technology, Inc. All Rights Reserved.

No Array defined...

Press <Ctrl-F> to enter FastBuild (tm) Utility
Or press <ESC> key to continue booting.
```

2. <Ctrl+F>を押して、FastBuild™ユーティリティメインメニューを表示します。



5.6.3 RAID 0アレイの作成(性能)

1. FastBuild™ ユーティリティメインメニューで、<1>を押して自動セットアップを選択します。次の画面が表示されます。

```
FastBuild (tm) Utility 2.00 (c) 2002-2005 Promise Technology, Inc.
[ Auto Setup Options Menu ]
Optimize Array for: Performance
[ Array Setup Configuration ]
Mode ..... Stripe
Spare Drive..... 0
Drive(s) Used in Array..... 2
Array Disk Capacity (size in MB)..... 8650
[ Keys Available ]
[ ↑ ] Up [ ↓ ] Down [ ←,→,Space ] Change Option [ ESC ] Exit [ CTRL-Y ] Save
```

2. 矢印キーを使用して Optimize Array for(アレイの最適化)フィールドをポイントし、スペースバーを使用して Performance(性能)を選択します。Mode(モード)フィールドがストライプを表示します。
3. 選択を行った後、<Ctrl+Y>を押して保存しRAID 0アレイを作成します。
4. キーを押してシステムを再起動します。起動プロセスの間、MBFastTrak378 BIOS がディスクアレイ情報をチェックして表示します。

```
MBFastTrak376 (tm) BIOS Version 1.00
(c) 2000-2005 Promise Technology, Inc. All Rights Reserved.
ID      MODE          SIZE      TRACK-MAPPING  STATUS
-----
1*      2+0 Stripe     3257M    723/192/48    Functional
Press <Ctrl-F> to enter FastBuild (tm) Utility
```

5. アレイが作成されたら、FDISK ユーティリティを使用して単一ハードドライブとしてアレイをフォーマットします。
6. アレイされたドライブをフォーマットしたら、オペレーティングシステム(OS)をインストールします。OSは単一のドライブ装置としてRAID 0アレイを処理します。

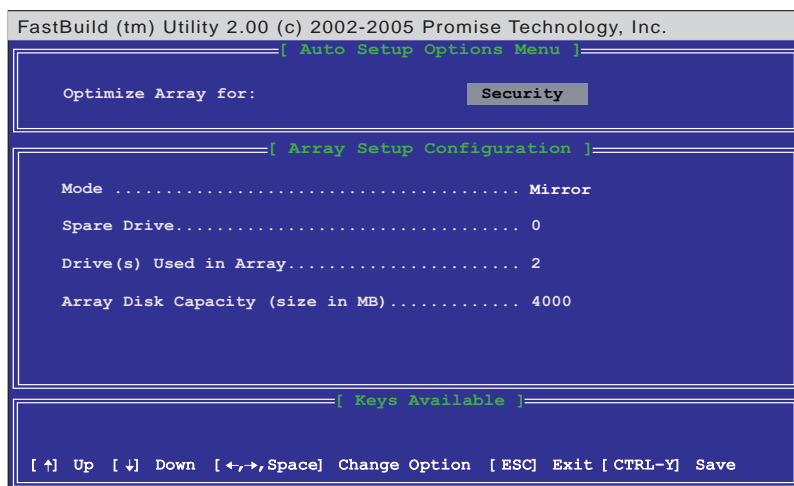


OS をインストールしている間、システムはサードパーティのSCSI や RAID ドライバをインストールするように求めます。詳細については、「5.8 RAID ドライバを組み込んだフロッピーの作成」を参照してください。

5.6.4 RAID 1アレイの作成(セキュリティ)

新しいドライブでセキュリティアレイの作成

1. FastBuild™ ユーティリティメインメニューで、<1>を押して自動セットアップを選択します。



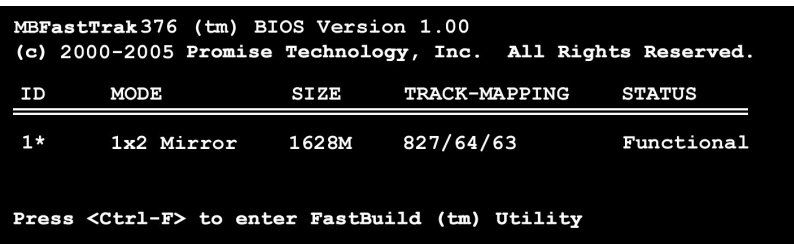
2. 矢印キーを使用して Optimize Array for(アレイの最適化)フィールドをポイントし、スペースバーを使用して Security(セキュリティ)を選択します。Mode(モード)フィールドがミラーを表示します。
3. 選択を行った後、<Ctrl+Y>を押して選択を保存します。
4. 次のメッセージが表示されます。

```
Do you want the disk image to be duplicated to another? (Yes/No)
Y - Create and Duplicate
N - Create Only
```

5. <N>を押して *Create Only*(作成のみ)オプションを選択します。ユーティリティが、セキュリティアレイが作成されていますという確認メッセージを表示します。

```
Array has been created.
<Press any key to reboot>
```

6. どれかのキーを押してシステムを再起動します。起動プロセスの間、MBFastTrak376 BIOS がディスクアレイ情報をチェックして表示します。



7. FDISK ユーティリティを使用し、フォーマット手順に従って新しいハードドライブを取り付けます。アレイされたドライブをフォーマットしたら、オペレーティングシステム(OS)をインストールします。



OS をインストールしている間、システムはサードパーティのSCSI や RAID ドライバをインストールするように求めます。詳細については、「5.8 RAID ドライバを組み込んだフロッピーの作成」を参照してください。

既存のデータドライブでセキュリティアレイの作成

すでにデータを含む既存のドライブまたはシステムの起動可能ドライブを使用する場合、アレイで使用する新しいハードドライブが既存のドライブより大きな容量を持っていることを確認してください。



アレイを作成する前に、重要なデータをバックアップしてください。

1. FastBuild™ ユーティリティメインメニューで、<1>を押して自動セットアップを選択します。
2. 矢印キーを使用してOptimize Array for(アレイの最適化)フィールドをポイントし、スペースバーを使用してSecurity(セキュリティ)を選択します。Mode(モード)フィールドがミラーを表示します。
3. 選択を行った後、<Ctrl+Y>を押して選択を保存します。次のメッセージが表示されます。

```
Do you want the disk image to be duplicated to another? (Yes/No)

Y - Create and Duplicate
N - Create Only
```

5. <Y>を押してCreate and Duplicate(作成と複製)オプションを選択します。次の画面が使用するソースドライブを選択するように促します。
6. 矢印キーを使用して、ソースドライブを選択します。
7. <Ctrl+Y>を押して選択を保存し、複製を開始します。次のメッセージが表示されます。

```
Start to duplicate the image...
Do you want to continue? (Yes/No)

Y - Continue    N - Abort
```

8. <Y>を押して続行します。<N>を押してメインメニューに戻ります。
9. 完了したら、ユーティリティがセキュリティアレイが作成されていることを表示します。
10. どれかのキーを押してシステムを再起動します。
11. オペレーティングシステムをインストールします。



OS をインストールしている間、システムはサードパーティの SCSI や RAID ドライバをインストールするように求めます。詳細については、「5.8 RAID ドライバを組み込んだフロッピーの作成」を参照してください。

5.6.5 その他の FastBuild ユーティリティコマンド

FastBuild™ ユーティリティメインメニューのコマンドオプション3-6は、アレイのセットアップには必要ありませんが、アレイの再構成に役に立ちます。

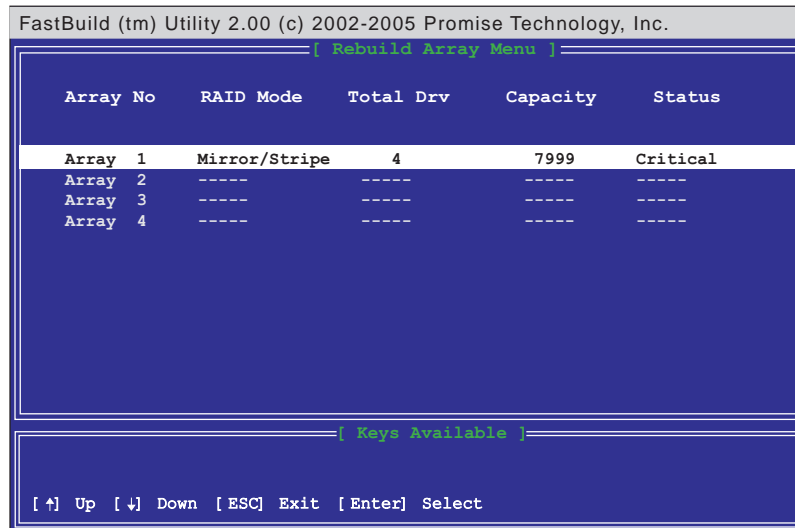
View Array (3): このコマンドは、アレイのハードディスクのドライブ割当を表示します。

Delete Array (4): このコマンドは、アレイを削除してシステムを再構成します。アレイを削除しても、ハードディスクの情報は削除されません。アレイを間違えて削除した場合、削除されたアレイとしてそれを再定義することによって、直ちに復元してください。

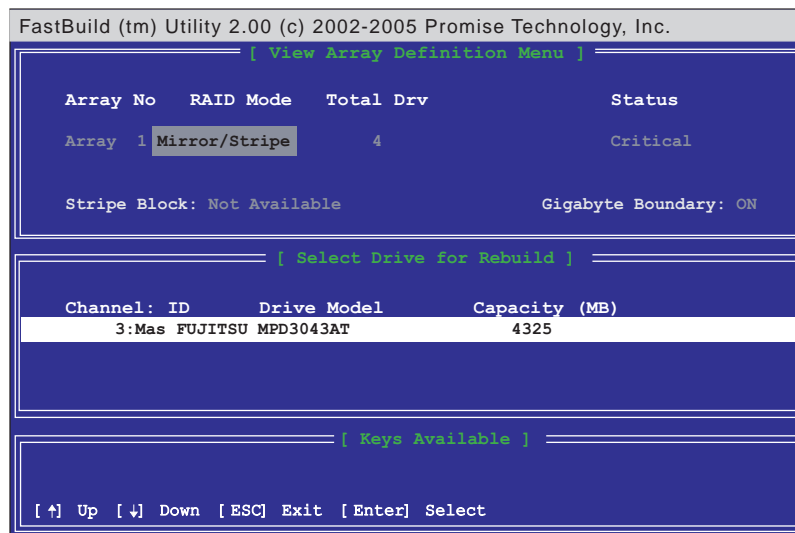
Rebuild Array (5): このコマンドは、RAID 1 アレイの傷害後、アレイとシステムデータを復元します。

次のステップに従って、アレイのデータを再構築し復元してください。

1. 起動プロセスの間に、エラーメッセージがシステム障害を通知します。
2. <Ctrl+F>を押して、FastBuild™ メインメニューに入ります。
3. <3>を押してアレイを表示し、故障したハードディスクの ID を確認します。
4. システムの電源をオフにし、まったく同じモデルのハードディスクと交換します。
5. 再起動し、FastBuild™ メインメニューに再び入ります。
6. <5>を押してアレイを再構築します。傷害のあるアレイが強調表示されます。<Enter>を押して、傷害のあるアレイを選択します。



7. 交換するドライブを選択し、<Enter>を押します。



8. コマンドを確認し、無傷のソースハードディスクから新しい代替ハードディスクにデータをコピーします。進捗バーがコピーの進捗状況を表示して、タスクの所要時間を示します。
 9. 完了したら、ユーティリティはシステムを再起動するように求めます。どれかのキーを押して、システムを再起動してください。
- コントローラ構成(6): このコマンドは、コントローラ構成のデフォルトを示します。デフォルト値は[Enabled]です。

5.7 シリアル ATA 設定用 Intel® RAID

(Windows 2000およびWindows XP専用)

このマザーボードは、Intel® ICH5R チップセットを通してシリアルATA ドライブ用に Intel® RAID 0 および RAID 1 をサポートします。Serial ATA as RAID (RAID としてのシリアル ATA) オプションは、システムが Intel® RAID に対して Intel® RAID オプション ROM コードをロードする前に、BIOS で有効にされる必要があります。Intel® RAID 0 オプション ROM は標準の PnP (プラグアンドプレイ) オプション ROM で、Intel® RAID 実装用にプレオペレーティングシステムユーザーインターフェイスを提供します。これはまた、ブート順序を BIOS セットアップユーティリティ内から選択することを可能にします。



Intel® RAID for SATA 構成に関する詳細については、Intel Application Accelerator、RAID Edition、サポートCDの「\Manual\IAA RAID Manual.doc」にあるユーザーマニュアルを参照してください。

5.7.1 BIOS構成

1. システムの電源をオンにし、電源オンセルフテスト (POST) の間に、Delete (削除) キーを押して BIOS に入ります。
2. BIOS 画面から、Main (メイン) メニューを、次に IDE Configuration (IDE 構成) メニューを選択します。
3. 必要に応じて、Onboard IDE Operate Mode (オンボード IDE 操作モード) オプションを [Legacy Mode] から [Enhanced Mode] に切り替えます。
4. Configure S-ATA as RAID (RAID として S-ATA を構成) オプションを [Yes] に切り替えます。
5. <F10> を押して BIOS 設定を保存し、BIOS セットアッププログラムを終了します。

5.7.2 シリアル ATA (SATA) ハードディスクの取り付け

シリアル ATA (SATA) ハードディスクのインストールには、シリアル ATA プロトコルと SATA 電源ケーブルをサポートする、新しい SATA データケーブル (4 コンダクタ) を使用する必要があります。SATA データケーブルの端は、SATA ハードディスクまたはマザーボードの SATA コネクタに接続する必要があります。



1. データケーブルも電源 SATA ケーブルも、新しいケーブルです。SATA ハードドライブに、古い 40 ピン 80 コンダクタ IDE または標準の IDE 電源ケーブルを使用することができません。
2. ハードディスクメーカーが提供する技術に関する指示に注意深く従ってください。

シリアル ATA ケーブルを取り付けるには、次の手順に従います:

1. どちらかのケーブルの端をマザーボードの SATA コネクタに取り付けます。
2. 他のケーブルの端を SATA ハードディスクに取り付けます。
3. SATA 電源ケーブルを接続します。

5.7.3 RAID セットの作成、削除、リセット

シリアル ATA RAID セットは、RAID 構成ユーティリティで構成する必要があります。この構成は、Intel® RAID オプション ROM によって行えます。電源オンセルフテスト(POST)の間、次のメッセージが数秒間表示されます: 「<Ctrl-I>を押してRaid 構成ユーティリティに入ってください」。このメッセージが表示されたら、<Ctrl+I>を押してRaid 構成ユーティリティを起動してください。

```
Copyright (C) 2003 Intel Corporation. All Rights Reserved. v3.x.x.xxxx
[ MAIN MENU ]
1. Create RAID Volume
2. Delete RAID Volume
3. Reset Disks to Non-RAID
4. Exit

[ DISK/VOLUME INFORMATION ]
RAID Volumes:
None defined.

Non-RAID Disks:
Port Drive Model      Serial #      Size      Status      Bootable
0 ST380013AS          xxxxxxxx    74.5GB    Normal      Yes
1 ST380013AS          xxxxxxxx    74.5GB    Normal      Yes

[ ↓↑ ] -Select      [ ESC ] Exit      [ Enter ] -Select Menu
```

5.7.4 RAIDボリュームの作成

RAIDボリュームを作成するには、次の手順に従います。

1. 1 Create RAID Volume(1 RAIDボリュームの作成)を選択し、<Enter>を押します。次の画面が表示されます。

```
Copyright (C) 2003 Intel Corporation. All Rights Reserved. v3.x.x.xxxx
[ CREATE ARRAY MENU ]
Name: RAID Volume1
RAID Level: RAID0 (Stripe)
Strip Size: 128KB
Capacity: 149.0GB

Create Volume

[ HELP ]
Enter a string between 1 and 16 characters in length taht can be used
to uniquely identify the RAID volume. This name is case sensitive and
can not contain special characters.

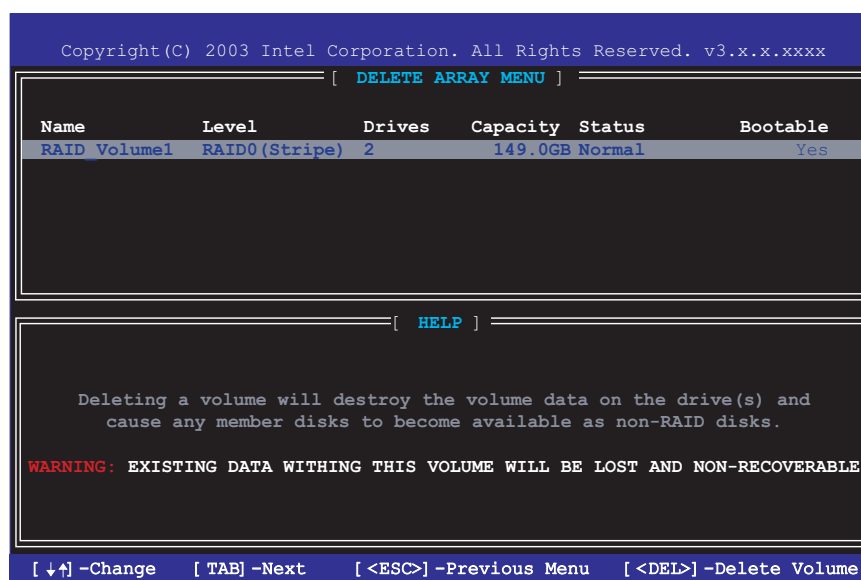
[ ↓↑ ] -Change      [ TAB ] -Next      [ ESC ] Previous Menu      [ Enter ] -Select
```

2. RAIDボリュームに対する固有名を入力し、<Enter>を押します。
3. 上または下矢印キーを使用して、希望するRAIDレベルを選択し、<Enter>を押します。
4. RAID 0 (Stripe)を選択した場合、上または下矢印キーを使用してRAID 0アレイのストライプサイズを選択し、<Enter>を押します。使用できる値は8 KBから128 KBの範囲です。ストライプ値は計画されたドライブ使用に基づいて選択される必要があります。推奨する選択を、下にリストアップします。デフォルトの選択は、64 KBです。
 - ・ 16 KB - 低いディスク使用率
 - ・ 64 KB - 標準的なディスク使用率
 - ・ 128 KB - パフォーマンスディスク使用率

Are you sure you want to create this volume (Y/N)

5. 4 Exit(4 終了)を選択し<Enter>を押してRAID構成ユーティリティを終了します。ユーティリティが確認メッセージを表示したら、<Y>を押します。

5.7.5 RAID ボリュームの削除



このオプションを使用する際には、注意してください; RAIDドライブのすべてのデータが失われます!

RAID ボリュームを削除するには、次の手順に従います:

1. 2 Delete RAID Volume(2 RAID ボリュームの削除)を選択し、<Enter>を押します。

2. を押して、RAID ボリュームを削除します。

```
[ VOLUME DELETE VERIFICATION ]

Are you sure you want to delete this volume?
ALL DATA IN THE VOLUME WILL BE LOST!!

Are you sure you want to delete volume "RAID_Volume1"? (Y/N)
```

3. ユーティリティが確認メッセージを表示したら、<Y>を押します。

5.7.6 RAID データのリセット

```
Copyright (C) 2003 Intel Corporation. All Rights Reserved. v3.x.x.xxxx

[ MAIN MENU ]

1. Create RAID Volume
2. Delete RAID Volume
3. Reset Disks to Non-RaID
4. Exit

[ DISK/VOLUME INFORMATION ]

RAID Volumes:
None defined.

Non-RAID Disks:
Port Drive Model      Serial #      Size      Status      Bootable
0 ST380013AS          xxxxxxxx     74.5GB    Normal      Yes
1 ST380013AS          xxxxxxxx     74.5GB    Normal      Yes

[ +< ] -Select      [ ESC ] Exit      [ Enter ] -Select Menu
```



このオプションを使用する際には、注意してください; RAID ドライブのすべてのデータとすべての内部 RAID 構造が失われます!

RAID データをリセットし、ドライブのすべての RAID 構造を削除するには、次の手順に従います:

1. 3 Reset RAID Data(3 RAID データのリセット)を選択し、<Enter>を押します。

```
[ RESET ALL DATA RAID DATA ]

Resetting all RAID data will remove any internal RAID structures
from all RAID disks, including disks with working volumes. These
structures are used to maintain the RAID volumes. By removing
these structures, the drive will revert back to a Non-RAID disk
that can then be used or reallocated to a new RAID volume.

WARNING: Selecting "Yes" will cause all data on any RAID disk
(RAID Volume or Other RAID Disk) to be lost.

Are you sure you want to destroy all RAID data (Y/N):
```

2. ユーティリティが確認メッセージを表示したら、<Y>を押します。

5.8 RAIDドライバでフロッピーの作成

Promise® SATA 378 または FastTrak 378 ドライバを組み込んだフロッピーは、Windows® XP™ または Windows® 2000™ オペレーティングシステムをインストールしているときに要求されます。Makedisk.exe ユーティリティを使用して、RAID ドライバを組み込んだフロッピーディスクを作成することができます。RAID ドライバを組み込んだフロッピーディスクは、RAID インストールを構成するときに必要となります。

RAID ドライバを組み込んだフロッピーディスクを作成するには、次の手順に従います：

1. マザーボードサポート CD を CD-ROM ドライブに挿入し、RAID コントローラ用の Makedisk.exe ユーティリティを検索します。
 - A. Promise® SATA 378 ドライバは、マザーボードサポート CD の「\Drivers\Promise\378ATA\Makedisk.exe」にあります。
 - B. FastTrak 378 ドライバ用 Makedisk.exe ユーティリティは、マザーボードサポート CD「\Drivers\Promise\378RAID\Makedisk.exe」にあります。
 - C. Intel® RAID ドライバ用の Makedisk.exe ユーティリティは、マザーボードサポート CD の「\Drivers\Chipset\IAA\Makedisk.exe」にあります。



Intel® RAID 用の Makedisk.exe ユーティリティは Windows XP でのみサポートされています。

2. 空のフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入し、Makedisk.exe を実行します。続いて表示される画面の指示に従います。
3. フロッピーディスクを書き込み保護し、コンピュータがウイルスに感染しないようにします。

RAID ドライバを組み込んだフロッピーを使用するには、次の手順に従います：

1. OS インストールの間、システムは F6 キーを押して、サードパーティ製 SCSI または RAID ドライバをインストールするように求めます。
2. <F 6> を押し、RAID ドライバを組み込んだフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
3. 続いて表示される画面の指示に従います。



RAID インストールと構成に関する詳細については、「\Drivers\Promise\Setup」にある Promise® RAID インストールガイドを参照してください。

